

第3回 旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮設計活用等検討委員会

日時 平成28年1月29日(金)
14時00分～
会場 札幌市役所本庁舎地下1階
2号会議室

次 第

- 1 開 会
- 2 全体スケジュールの確認 (資料-3)
- 3 地域住民等意見交換会の開催結果報告 (資料-4)
- 4 活用方針素案について (資料-5)
- 5 耐震補強含む保存活用工事基本設計について (資料-6)
- 6 その他
 - ・永山記念公園の改修計画について (資料-7)
- 7 閉 会

<配布資料>

- ・ 資料-1：委員名簿
- ・ 資料-2：座席表
- ・ 資料-3：全体スケジュール
- ・ 資料-4：地域住民等意見交換会の開催結果
- ・ 資料-5：旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮活用方針（案）
- ・ 資料-6：耐震補強含む保存活用工事基本設計
- ・ 資料-7：永山記念公園の改修計画について

旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮設計活用等検討委員会

委員名簿

(委員長・副委員長以下外部委員五十音順・敬称略)

氏名	分野	所属等	備考
◎委員長 小澤 丈夫	空間計画	北海道大学大学院工学研究院 准教授 文化財保護審議会委員	
○副委員長 平井 卓郎	木造建築構造	北海道大学名誉教授	
池ノ上 真一	歴史的建造物活用	北海道教育大学函館校国際地域学科 講師	
角 幸博	文化財建造物	北海道大学名誉教授 文化財保護審議会委員	
川上 佳津仁		札幌市観光文化局文化部長	

(オブザーバー)

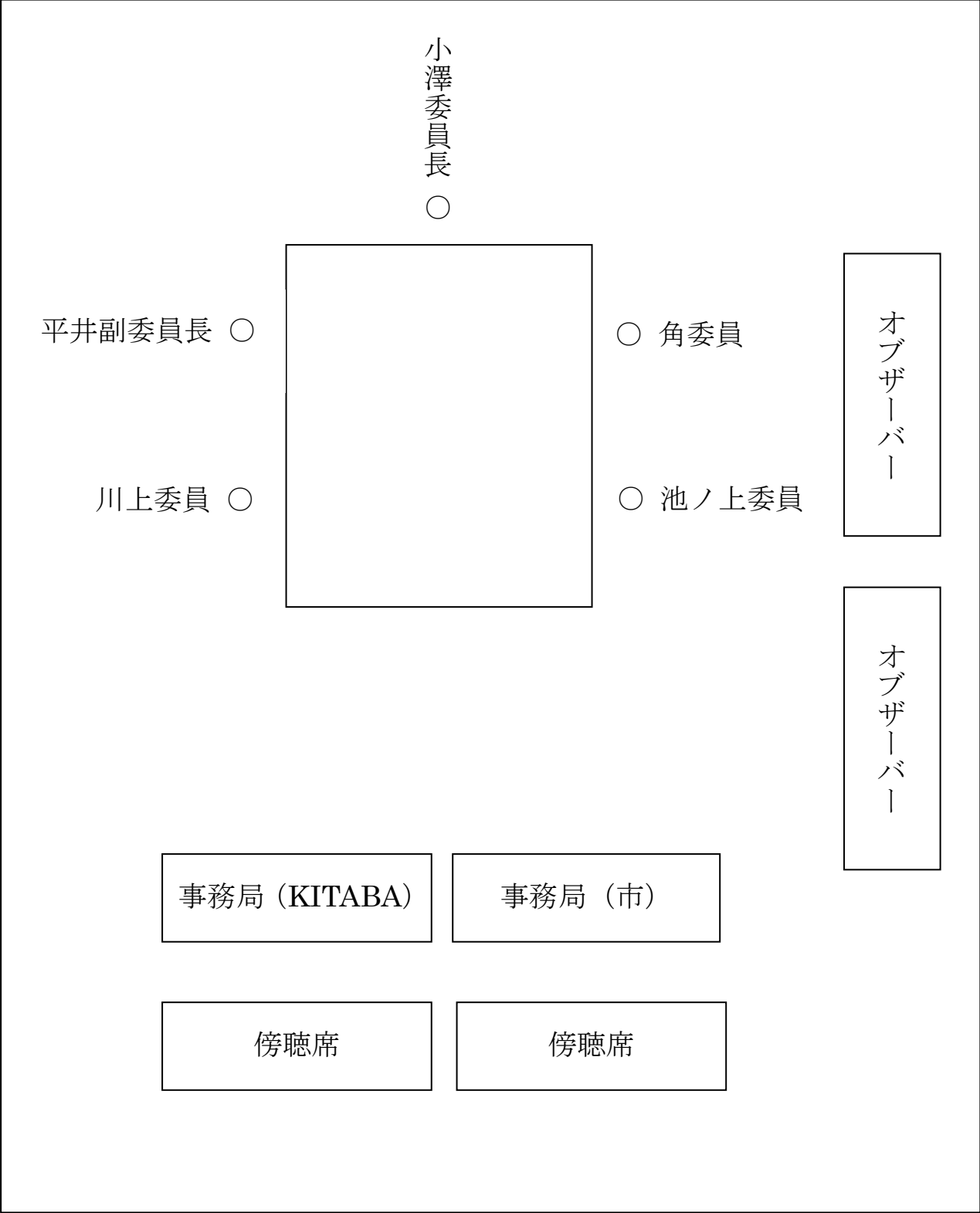
所属等	備考
北海道教育庁 生涯学習推進局文化財・博物館課文化財保護グループ	
札幌市都市局建築部建築工事課	
札幌市中央区土木部維持管理課	
北電総合設計株式会社	
株式会社ノーザンクロス	
北海道造園設計株式会社	

(事務局)

所属等	備考
札幌市観光文化局文化財課	
株式会社 KITABA	

旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮設計活用等検討委員会

座席表



旧永山武二郎邸及び旧三菱鉱業寮設計活用等検討委員会
全体スケジュール

月	検討委員会	建築設計	活用方針作成	公園	地域住民等意見交換会
7	第1回検討委員会 7月30日(木) 10:00~12:00	調査			
8	○全体スケジュール確認 ○検討事項・検討体制確認 ○ゾーニング・活用方針の検討について				
9					9月26日(土) 第1回まちづくりサロン 主催:まちづくり推進室 ※永山邸改修予定等について情報提供
10	第2回検討委員会 10月9日(金) 10:00~12:00				10月10日(土) 第1回公園ワークショップ 主催:土木部公園緑化係 ※永山邸改修等について情報提供
11		調整			11月14日 第2回公園ワークショップ 主催:土木部公園緑化係 ※永山邸改修等について情報提供
12					12月12日 第3回公園ワークショップ &永山邸三菱鉱業寮施設説明会 主催:土木部公園緑化係 文化財課文化財係
1	第3回検討委員会 1月29日(金) 14:00~16:00				
2					
3	第4回検討委員会 3月予定				
	○活用方針の策定 実施設計の確認 ○今後の進め方について	実施設計			まちづくりサロンフォーラムの中で検討結果の報告を検討する

※公園ワークショップは、土木部公園緑化係の主催で公園の再整備に向けたワークショップとして開催するもので、その中で、施設についても合わせて意見交換を行った。

※まちづくりサロンは、創成川以東地区のまちづくりを考える場で、施設に限った議論をする予定は無く、文化財課は関連部局として参加。

地域住民等意見交換会等の開催結果

■実施概要

①第1回まちづくりサロンでの情報提供

開催日：平成27年9月26日（土）10：00～12：00

主催：まちづくり推進室

内容：永山邸を出発点に創成川以東地区をまち歩き
地域の魅力などについて意見交換

※旧永山邸及び三菱鉱業寮の改修予定について情報提供。（5分程度）

②第1回永山記念公園ワークショップ

開催日：平成27年10月10日（土）10：00～12：00 参加者：24名

主催：中央区土木部公園緑化係

内容：公園内のミニツアーで公園の魅力を再発見し公園の魅力などについて意見交換
※旧永山邸及び三菱鉱業寮の保存活用検討状況について情報提供。（5分程度）

【施設に関連して出された意見】

- ・建物が見えにくいからといってたくさん木を切らないでほしい
- ・ここは野鳥の休息地になっているので夜の明かりには注意が必要
- ・ファクトリーにもカフェがあるのに永山邸にもカフェが必要なのか など

③第2回永山記念公園ワークショップ

開催日：平成27年11月14日（土）10：00～12：00 参加者：20名

主催：中央区土木部公園緑化係

内容：公園整備の背景説明と「こんな公園になったらいいな」をテーマに意見交換

※旧永山邸及び三菱鉱業寮の保存活用事業についての説明資料の配布と、次回公園
ワークショップの後に「永山邸三菱鉱業寮施設説明会」を開催することをご案内。

【施設に関連して出された意見】

- ・これまでどのような経緯で検討が進められたのか知りたい
- ・施設の方針が固まらないと公園の検討は出来ないのではないかなど

④第3回永山記念公園ワークショップ & 永山邸三菱鉱業寮施設説明会

開催日：平成27年12月12日（土）

参加者：22名

10：00～12：00（公園）12：00～13：00（施設）

主催：中央区土木部公園緑化係（公園）、文化財課文化財係（施設）

内容：公園：永山記念公園の将来像についての報告と意見交換

施設：保存活用の取組として、以下の説明と見学会を行い、意見交換を行った。

【説明内容】

1. 旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮の概要
2. 事業の目的とこれまでの経緯
3. 現段階の検討状況（H27.11月時点）
4. 今後のスケジュール

【「永山邸三菱鉱業寮施設説明会」開催の様子】



保存活用の取組について説明



施設内を見学

【「永山邸三菱鉱業寮施設説明会」で出された意見】

■ 緑地環境・周辺環境への配慮について

- ・カフェにした場合の営業時間が気になる。現状と同じように、夜間は門を閉めるなど、夜間の緑地環境や周辺環境に影響が無いように配慮してほしい。
- ・カフェの厨房から出る排気で、周辺の植物への影響や、匂い・騒音に対する対策が必要。

■ 事業展開（カフェ）について

- ・始めからカフェありきで考えるのは、市にとってもリスクなのではないか。年間 6,000 人の来場者ではレストランはペイしないと思う。
- ・ファクトリーの周りに以前は4軒のカフェがあったが、今は2軒に減ってしまっている。また、カフェ運営をするためには駐車場の整備も求められるのではないか。
- ・事業展開、収益事業は採算が取れるのか心配。面積 80m²で初期投資を考えると難しいのではないか。
- ・入込客数のシミュレーションはしているのか。
- ・現状の 6,000 人の入込客数をもっと増やすためには、有料となるカフェだけでなく、もっと気軽に座れたり、ゆっくり出来るスペースが必要なのではないか。
- ・始めからカフェありきで考えるのではなく、1Fはオープンスペースにしておいて、きちんとした事業者がいればやるということにすれば良いのではないか。
- ・運営にあたり収益事業が必要ということであれば、きちんと出来るという形で事業計画をお示しいただければ良いと思う。

■ 屋外テラスについて

- ・テラスのベンチは、カフェ利用者だけではなく、誰でもフリーに座れるようになるのか。
- ・テラス位置は日陰で、夏の一時期しか使えないのでは。ウッドデッキで作るのか、使うときだけ椅子を置くような簡易なもので考えているのか。
- ・この辺りはカラスが多いため、テラス席は襲撃されてしまうかもしれない。

■ 展示・活用について

- ・永山邸と三菱鉱業寮の展示や使い方は住み分けが必要となるのではないか。

旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮保存活用事業について

(2015.11.14)

この事業は、札幌市の歴史的資産である「旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮」を、貴重な文化資産として後世に引き継いでいくとともに、観光施策や地域のまちづくりの推進に繋がるよう、新たな歴史観光文化スポットとしての魅力アップを図ることを目的として、当該施設の保存修理及び活用整備を行うものです。

平成 25 年度より検討を進め、事業の基本的な方針を示す「旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮保存活用基本計画」を平成 27 年 2 月に策定しました。この計画をもとに、現在、建物の保存改修のための建築設計と、具体的な活用方針を検討しています。今後、平成 28 年度から、改修工事を行い、平成 30 年度にリニューアルオープンを予定しています。

【保存活用の基本方針について】

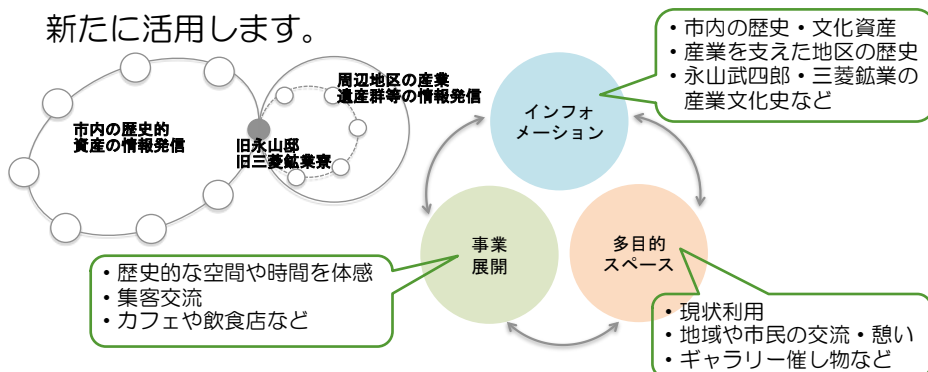
◆**旧永山武四郎邸**・・・必要に応じた部分補修を行い現状のまま保存し、引き続き観覧施設として活用します。

◆**旧三菱鉱業寮**・・・耐震改修を含めた全体の保存修理工事を実施し、今後、積極的な交流スペースとして活用します。保存修理工事では、外観は基本的に保存し、建物内部も歴史を伝える間取りやデザインを保存しながら、安全で利用しやすい施設づくりを行います。

◆**樹木・植栽等に配慮した改修**・・・公園内に設置されている施設であることから、公園内の樹木・植栽等に配慮して建物や外構の改修を行います。

【活用方針について】

◆**歴史的価値の確立と三位一体の活用**・・・インフォメーション機能、事業展開、多目的スペースを、三位一体として新たに活用します。



旧永山武四郎邸
明治 10 年代建設



旧三菱鉱業寮
昭和 12 年頃増築



旧三菱鉱業寮



旧三菱鉱業寮



旧永山武四郎邸

旧永山邸及び旧三菱鉱業寮説明会のご案内

「旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮」を市民の皆さまにより愛され魅力ある施設にしていくために、保存活用の検討状況についてご紹介し、ご意見をうかがう説明会を開催いたします。

第 3 回公園ワークショップ終了後に開催いたしますので、是非、お気軽にご参加ください！！

※飲み物と軽食をご用意いたします。

◆日時：12 月 12 日（土）12：00 から 1 時間程度

※公園ワークショップ（10：00～12：00）終了後に開催

◆会場：旧永山武四郎邸（永山記念公園内）

旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮活用方針（案）

<修正・加筆箇所>

- 目指すべき施設像（ビジョン）の追加：創建時→クラブハウス時代→現在→これからの価値
- 活用方針図：
 - ・ 多目的スペース、バックヤードの変更
 - ・ カフェレストランの出入り箇所変更
 - ・ 北側をまわる動線の位置づけ変更
- カフェ・レストラン：
 - ・ レイアウトデザイン（出入りの考え方、階段下空間の活用、壁面の新設）
 - ・ 家具・什器デザインの考え方
- 運営方針・運営主体
 - ・ 入館料
 - ・ 開館時間
 - ・ 貸室利用料
 - ・ 指定管理料

1. 建物の価値の再整理と活用の視点

1) 歴史的価値

◇北海道を切り拓いた偉人の住んだ邸宅としての記憶(永山武四郎邸)

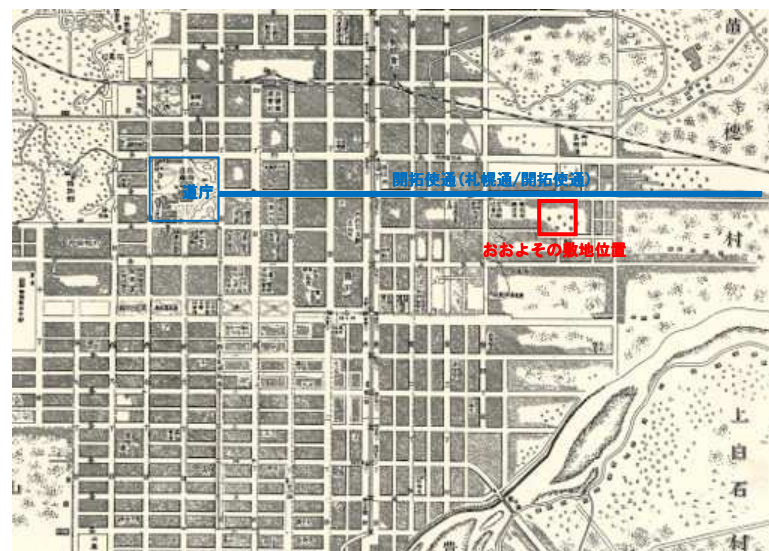
- 明治5年(1872年)9月から開拓使に移り、北海道開拓使八等出仕となる。
- 明治10年(1877年)4月に屯田兵第1大隊長に就任、西南戦争に従軍
- 明治18年(1885年)5月には陸軍少将・屯田兵副本部長となり、1年間の欧米出張をへて明治21年(1888年)6月から北海道庁長官(第2代)を兼ねる。
- 邸宅は、明治10年屯田事務局長時代に建設されたもの

◇北海道の産業発展をリードした企業のクラブハウスとしての記憶(三菱鉱業寮)

- 三菱鉱業株式会社は、三菱合資会社の炭鉱部、鉱山部、研究所が独立し、大正7年に設立され、炭鉱経営、金属鉱業を本業とし、他に採掘した石炭を輸送するための地方鉄道事業も行っていた。
- 三菱合資会社が1911年に永山邸を買収し、北海道での企業準備や炭鉱事業の調査を行う中心的役割を担う施設として活用した。
- 炭鉱、鉱山は一般産業と異なり、激しい労働の作業内容であり、絶えず危険が伴うという厳しい状況に置かれていた。当時、この環境化で労働力の獲得や維持を図るために、福利厚生施設の整備は欠くことのできない重要事項であった。具体的には、社宅、合宿などの居住施設の貸与、クラブ、会館、集会所、娯楽場、その他従業員の生活分野全般に及んでいた。これらの諸施設は炭鉱、鉱山の現場のみならず、旧三菱鉱業寮もこの福利厚生の一環で建設されたと推測される。
- このような民間企業保有のクラブハウスが現存する例は道内に少なく、産業・文化的価値が高い。

◇かつての行政中心、産業のまちをつなぐ開拓使通とまちの記憶(産業遺産、歴史的資産)

- 永山邸が建設された当時(明治12年頃)は、周辺には、北海道の開拓の中心となる屯田司令部や工業製作所、敷地の西側には、永山邸に隣接して札幌葡萄酒醸造所、札幌麦酒醸造所が並んでいた。
- 赤レンガ庁舎からつながる北3条通に面し、周辺は開拓使が札幌の工業振興のために農産物を加工販売する官営工場を建設した「札幌の産業のはじまりの地」。隣接する苗穂地区も「産業のまち」として発展



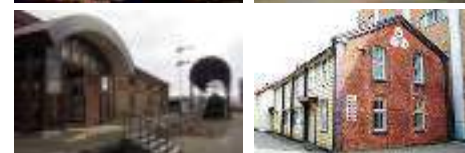
札幌市街之図(明治32年)



札幌通の基点(大正13年に札幌ではじめて近代舗装された)



北海道遺産にも認定された苗穂も産業遺産群



<活用の視点>

1. 北海道開拓における永山武四郎の業績、その人の歴史、時代背景を伝える
2. 北海道の産業発展と三菱鉱業の関わり、企業のクラブハウスとしての記憶を伝える
3. 建物が建つ場所が「札幌の産業のはじまりの地」であるというまちの歴史を伝える

2) 建築的価値

(1) 意匠性

◇ 旧永山武四郎邸

意匠的価値	保存・活用の考え方
<全体> ・明治前半期の上流住宅の好例で、日本の近代住宅史を考える上で高い価値を有する	・展示計画の中で検討
<外観> ・洋風意匠、玄関の基礎のみ和風(西正面) ・基壇部、南側の石段(札幌軟石の使用) ・矛型の棟飾り ・東側の出窓	・保存 ・展示計画の中で検討 ・外観を阻害しないように外構デザイン・活用 ・東側の外観を積極的にみせるような工夫
<内部> ・応接室:開拓使が手がけた和洋建物の様式(大壁、天井漆喰仕上げ、中心飾り) ・応接室と書院座敷の接続:額縁の洋風装飾は表裏異なるデザイン(開口の引き込み戸)、座敷側に洋間額縁 ・書院座敷:床が高く、天井が低いのは、住宅史上過渡期の和洋混成として重要な価値	・保存 ・展示計画の中で検討

◇ 旧三菱鉱業寮

意匠的価値	保存・活用の考え方
<全体> ・北海道の産業発展を支えた民間企業保有のクラブハウスが有する産業・文化的価値	・展示計画の中で検討
<外観> ・昭和初期のモダンな洋館様式 ・破風面の化粧柱・筋交いのハーフティンバー・モチーフ ・玄関なぐり仕上げの角柱 ・1階及び2階窓台までをドイツ下見板張り、その上をモルタル刷毛引塗装仕上げ ・便所などの副次翼屋 ・昭和初期の建築に比較的多く見られる花台窓	・保存 ・展示計画の中で検討 ・外観を阻害しないように外構デザイン・活用
<内部> ・寮であった背景が見られる電話室 ・クラブハウスの特徴と伝える中廊下型の空間構成	・保存 ・1・2階とも保存 ・1階は現状設置されているガラスケースを移設・撤去 ・1階南側レストラン・カフェに面する壁面は新たな活用にあわせて改修(動線は塞ぎ開口設置)
・特徴的な応接間 ・日当たりが良く旧永山邸の屋根越しの景観も観られる気持ちの良い縁側空間	・一体的なバルコニー空間として活用 ・和室のレンタル利用がない時は休憩スペースとして活用
・階段室の特徴的な親柱のデザイン ・裏のサービス階段 ・文化的意味を持つトイレの掃き出し窓 ・大正昭和初期の洋風住宅にしばしば見られる丸窓	・保存 ・保存(耐震補強) ・保存 ・保存 ・現状物入で常時入ることができないためバルコニーとして開放
・寒冷地仕様の二重窓 ・寮・宿泊室として使われた和室	・保存 ・2階は和室として活用
・通用口から廊下にアプローチできる構成(2重廊下) ※オリジナルのものではない	・サービス動線として活用

<活用の視点>

1. 建築的価値、特徴的な意匠の保存し空間自体を体験することを重視(1F廊下ガラスケースなどの移設・撤去、2F応接間・物入を一体的なバルコニーに)
2. わかりやすく伝える展示計画
3. 【旧永山武四郎邸】原則保存し観覧施設として活用、東側外観をみせる工夫
4. 【旧三菱鉱業寮】空間構成をできる限り保存、外観デザインを阻害しない外部活用

(2) 空間構成と使われ方 (三菱鉱業寮増築後)



◇永山武四郎邸

- 旧永山邸側は、常務、専務クラス以上の重役専用の宿泊や執務用施設だった
- 三菱工業寮側とは格式が全く異なり、職員は、ほとんど立ち入ることさえ無いエリアだった

◇三菱鉱業寮

- 道内の職員が札幌に出張や研修などで来た際の宿舎（工員用宿舎は別途）
- 本州からの長期出張者（技術者など）の滞在、家族の旅行など、福利厚生的な宿泊施設としても利用（非常に安価な宿泊料）
- 組合の会合、会食などにも利用
- 家族や研修などで一緒に来たグループ利用が主
- 管理人夫婦、手伝いの女性が2名、住み込みで利用者の世話にあっていた
- 食堂では希望者に、朝食、夕食のサービス有り
- 各部屋には年代物の掛軸がかけられ、生花が飾られていた
- 1階の現展示室1は、会議室だった
- 現展示室2は、2つに分かれていて宿泊室だった
- 奥の現会議室あたりが食堂で、その奥にお風呂（3～4名程度が入れるぐらい）があった
- 現湯沸室のあたりは厨房だった
- 2階は宿泊室（和室）
- 札幌市写真ライブラリーをファクトリーへ移すまでの期間準備室として活用（1階展示室2）

◇現状のコミュニティ利用

- 旧永山邸での雑誌取材や撮影（年間200件程度）撮影は約8割が婚礼等
- 2階和室はお茶や華などの活動のために地域住民に活用されている

<活用の視点>

1. 特別な場所としての格式ある旧永山武四郎邸の活用
2. 1階は用途とともに仕様もかなり変更されているのでフレキシブルに活用
3. 2階は宿泊機能だった和室空間の記憶を継承するように活用
4. 現状の市民利用を継続できるような空間活用

3) 環境的価値

<ランドスケープ>

- 現在の正門位置、旧永山邸へのアプローチは創建時の姿をほぼ踏襲している
- 当時の庭園は、周囲の民家から見えないように垣根代わりとしてオンコが植樹された
- 常緑樹を枠組みとした地割り等の手法から、本州あるいは九州での作庭経験のある庭師によって手がけられたと推測される
- 柵内の敷地にある樹木は、昭和63年の公園建設時に新たに植えられたものはごくわずかで三菱鉱業寮時代からの庭が保存されている

<地域のコミュニティ利用>

- 永山記念公園と一体的に庭園内が散策コースとなっている
- 庭園は仕切柵があるため小さな子どもの遊び場ともなっている（周辺の保育園等）
- 永山記念公園は周辺住民の憩いやオフィスワーカーの休憩スペースとなっている



現在の正門位置・アプローチは創建時の姿を踏襲しており、建物配置敷地全体としても価値を有している
(札幌繁栄図録/明治20年)



近年人口が増加する創成川東地区において、地域住民にとって貴重な憩いの空間となっている



庭園内は小さな子ども達の遊び場となっている



公園内の園路と連続した庭園の散策路



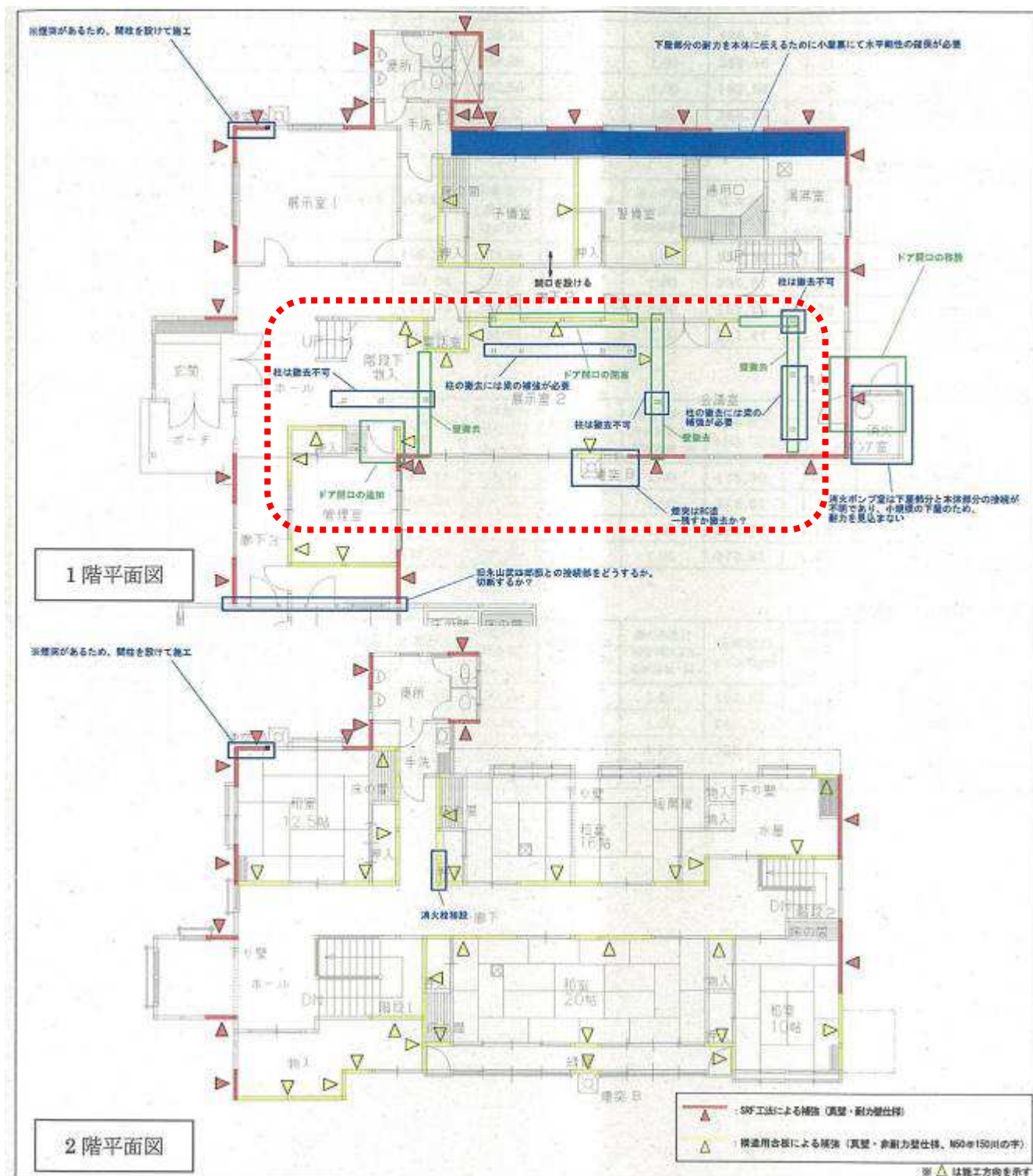
開拓期に外から導入して植えられた樹木は大木に育っている

<活用の視点>

1. 庭園内の樹木の生育環境に十分配慮した活用
2. 建物と連携した庭園の活用プログラムの検討
3. 公園の再整備とあわせた一体的な散策・休憩・遊び場などの市民利用の促進

2. 建物の保存・保全及び外構状況に関する課題

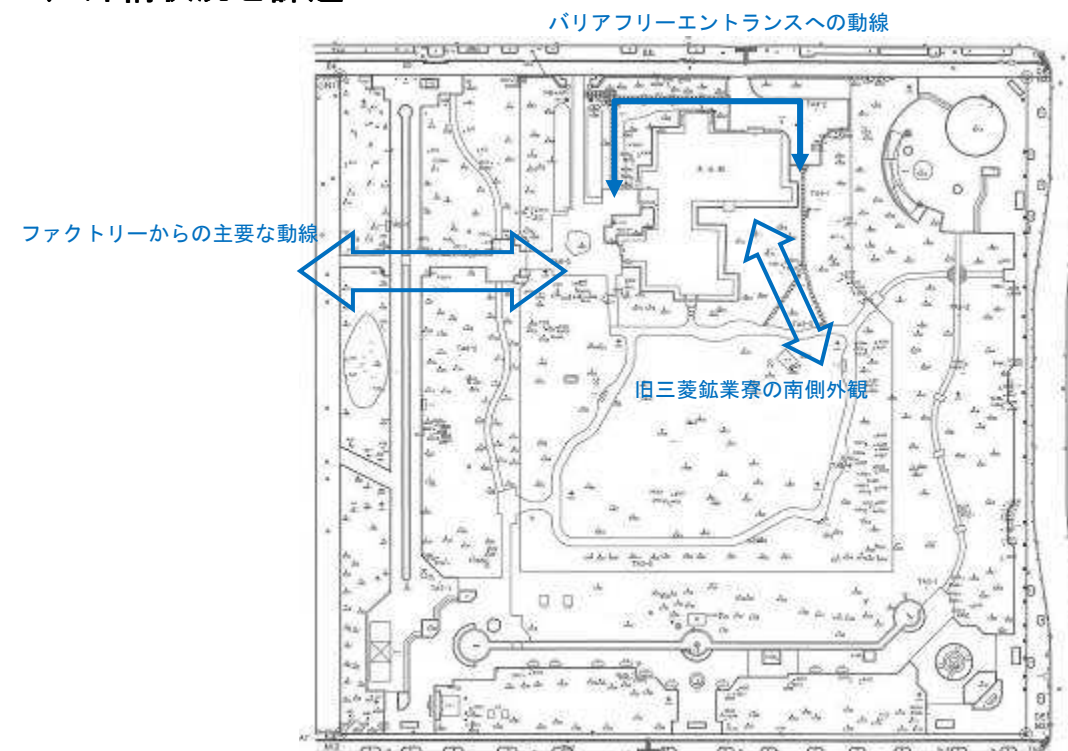
1) 建物の保存・保全の状況、耐震改修の条件（旧三菱鉱業寮）



<活用の視点>

1. 建物を適切に保存・保全するための耐震改修
2. 特に1階展示室2、会議室の耐震性能に配慮した活用・デザイン

2) 外構状況と課題



人の流れを呼び込むために視認性の向上が必要なファクトリーとの間の動線



樹木によって隠れる南東側からの旧三菱鉱業寮の外観



玄関廻りの雑然とした植樹帯も整理が必要



正面のエントランス部分ではバリアフリーの解決は困難

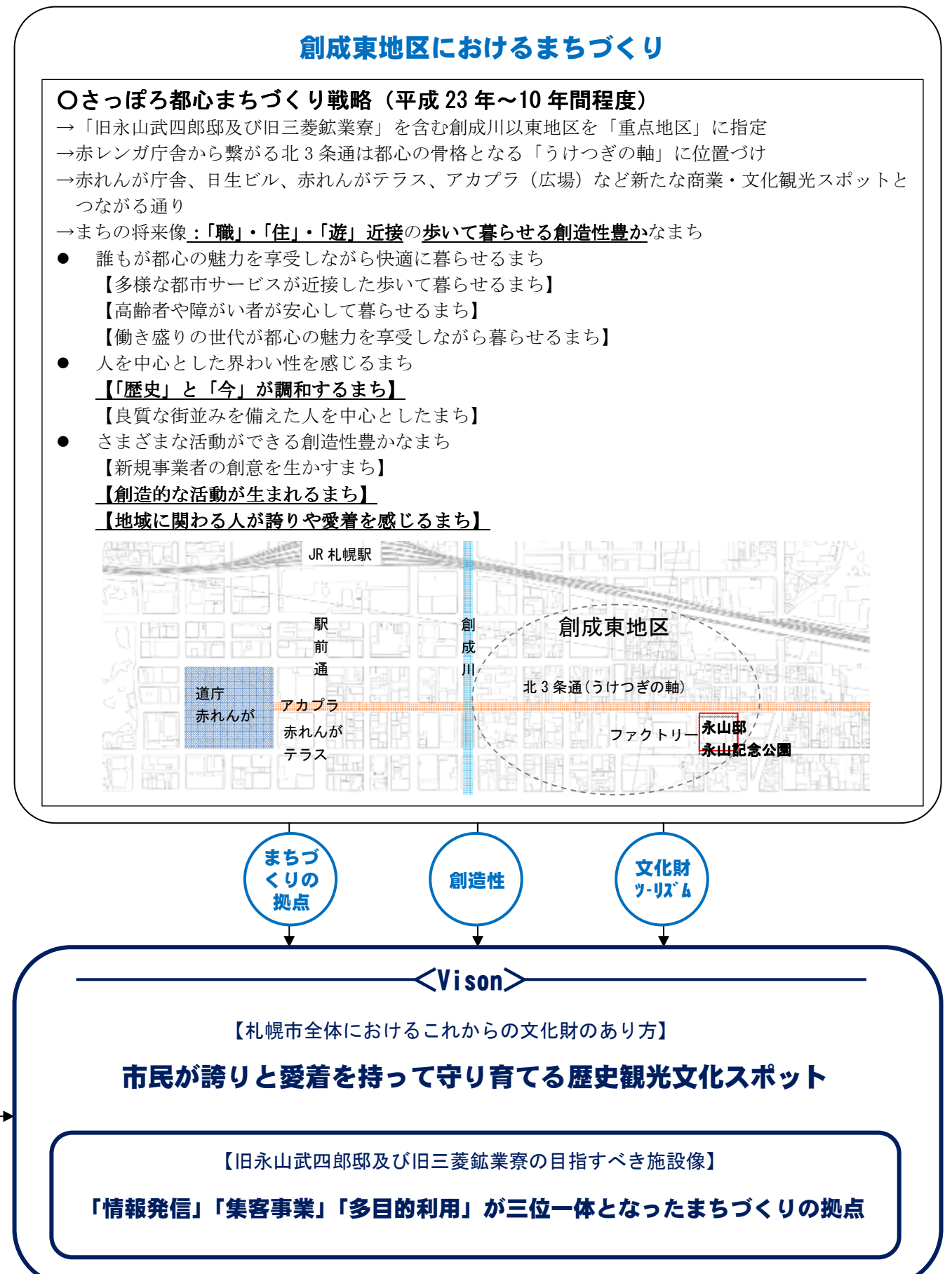
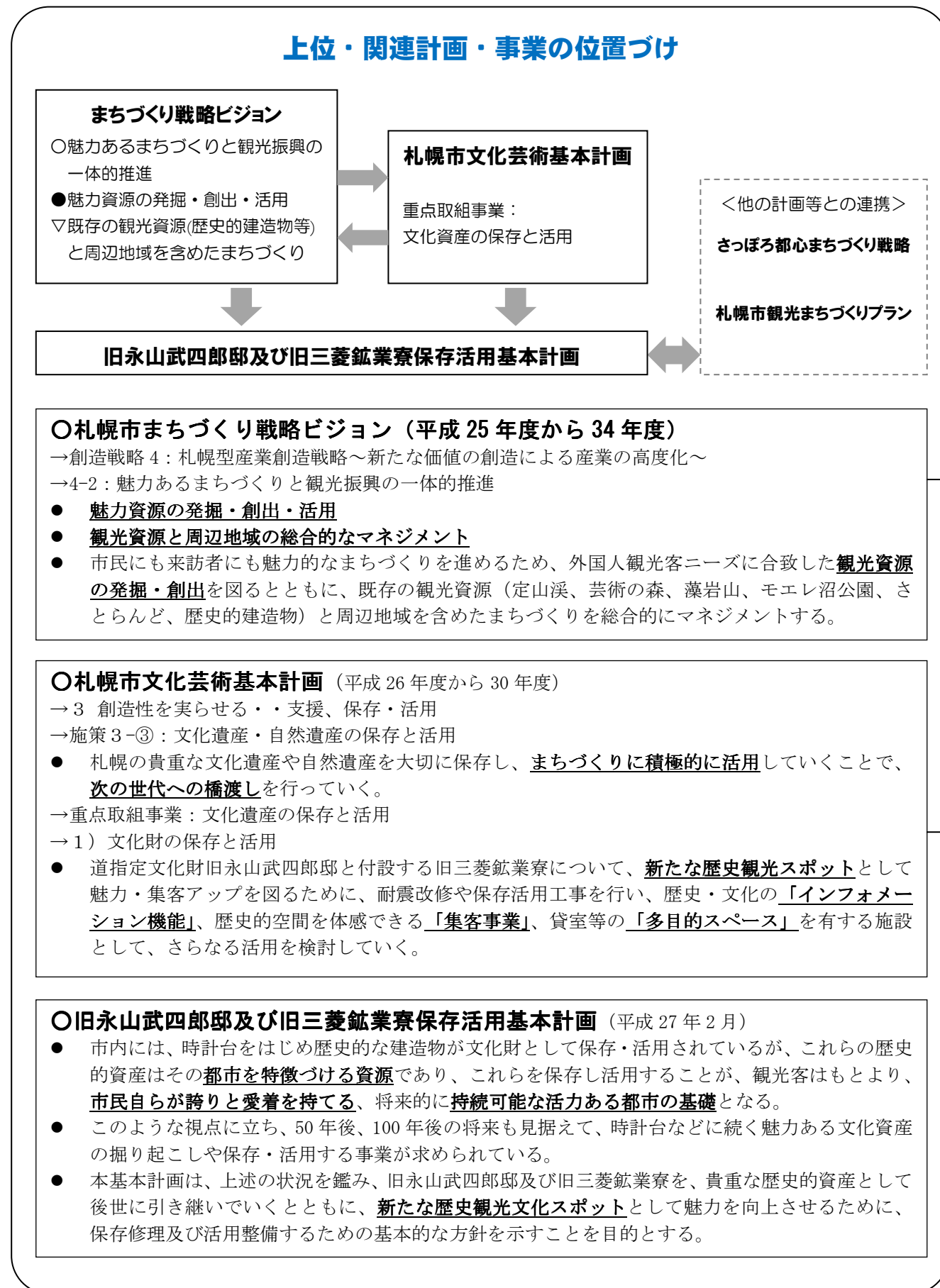


東側へ回り込む飛び石の通路も舗装環境の改善が必要

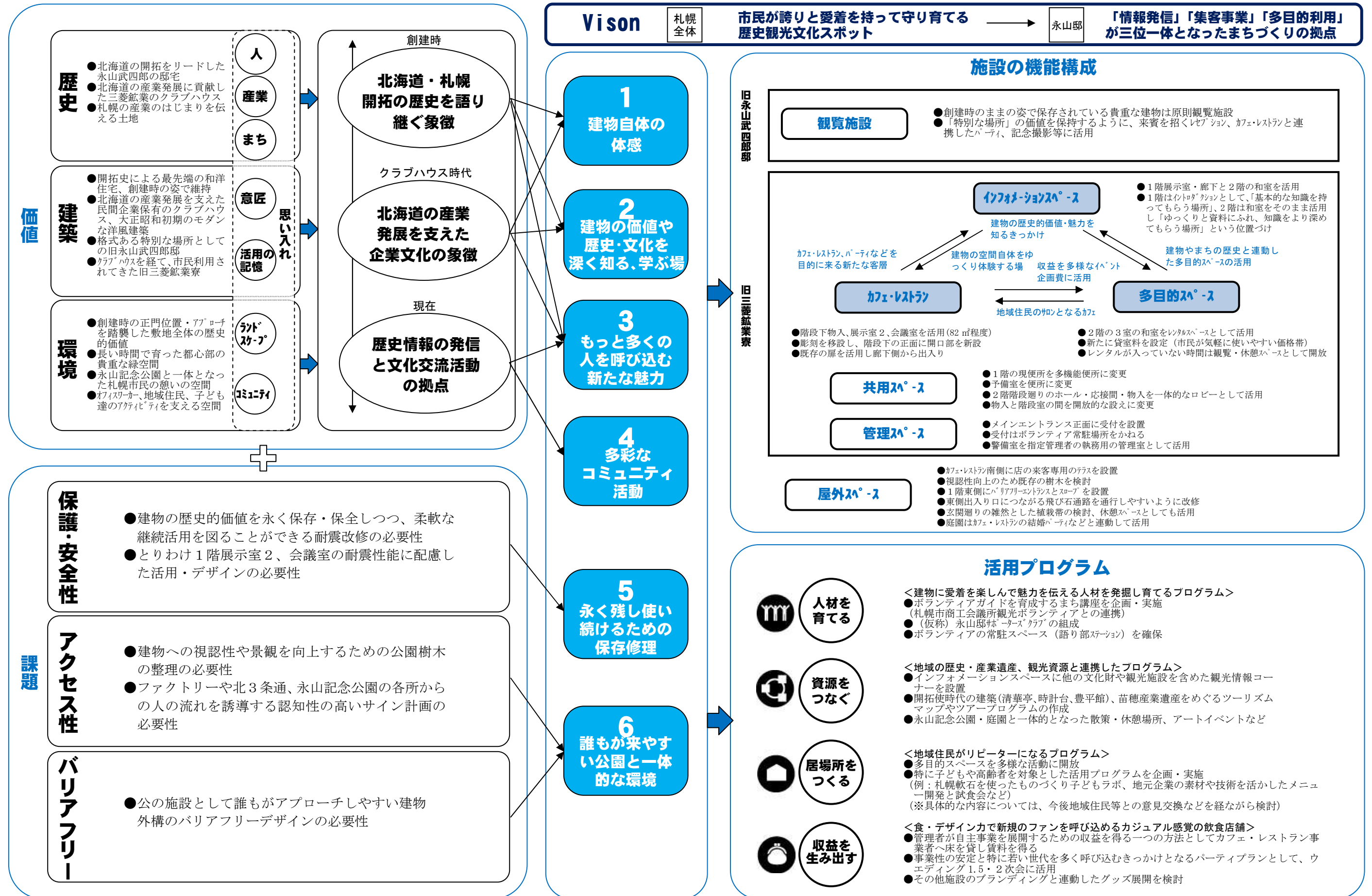
<活用の視点>

1. 建物への視認性や景観を向上するための公園樹木の整理
2. 公の施設として誰もがアプローチしやすい建物外構のバリアフリーデザイン
3. 認知性を高めるサイン誘導計画

3. 目指すべき施設像



4. 活用方針のまとめ

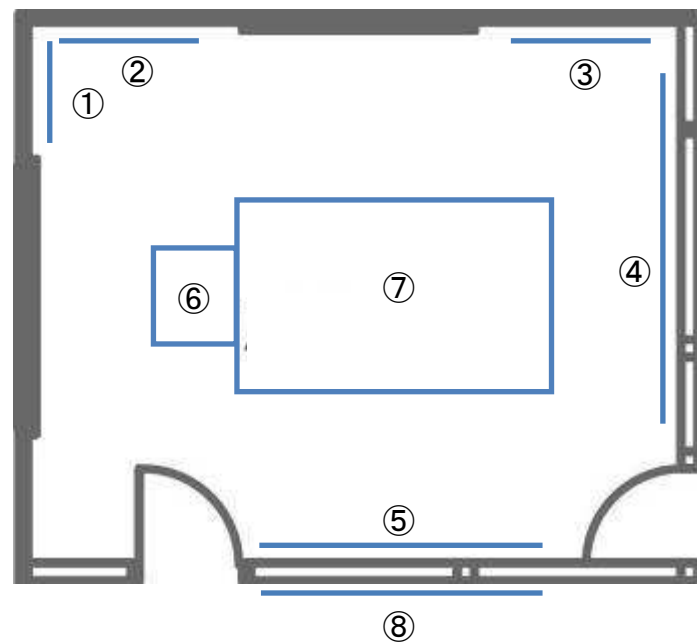


5. 各スペースの具体的な活用イメージ

1) インフォメーションスペース

(1) 現状の展示

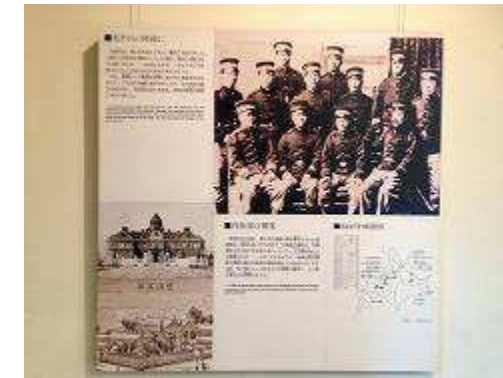
展示内容		
①	永山武四郎と北海道の開拓	<ul style="list-style-type: none"> ・屯田兵の育ての親 ・屯田兵、西南戦争へ
②	永山武四郎と北海道の開拓	<ul style="list-style-type: none"> ・屯田兵の陣頭に ・内陸部の開発 ・屯田兵村配置図
③	永山武四郎と北海道の開拓	<ul style="list-style-type: none"> ・上川へ離宮を ・ふたたび札幌へ ・北海道の土になりたい
④	永山邸の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・旧永山武四郎邸の創建と沿革 ・三菱鉱業札幌寮として ・旧永山邸周辺地区第一種市街地再開発事業 ・武四郎ゆかりの人々（黒田清隆、有島武郎）
⑤	旧永山武四郎邸の特徴	※他の開拓使時代の建物写真も掲載
⑥	旧永山武四郎邸模型	※三菱鉱業寮部分はなし
⑦	永山武四郎関連文書	・上申書、履歴書、日記など（ガラスケース）
⑧	永山武四郎について	・略歴、年表



1. 現状の展示室には情報量が多く偏りもある。また明確なテーマ・流れがつかみにくい（エントランス横の詳細の年表、永山武四郎の人としての紹介、三菱鉱業寮・まちの歴史の不足、めくってみることのできない日記・本など）
→「創建時」「クラブハウス時代」の2つの価値をもとにテーマを設定し編集し直す



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



警備室横



屋外（建物概要）



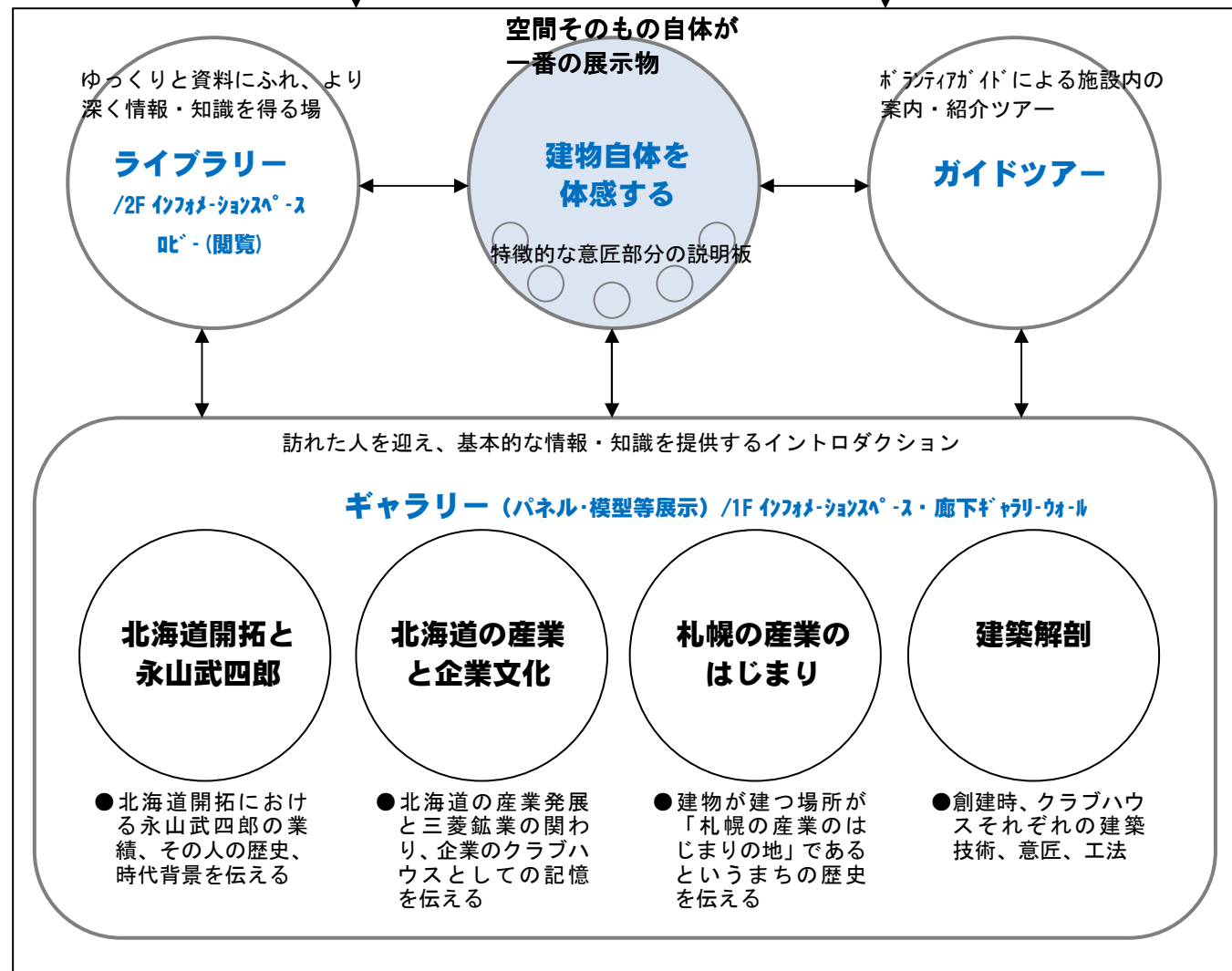
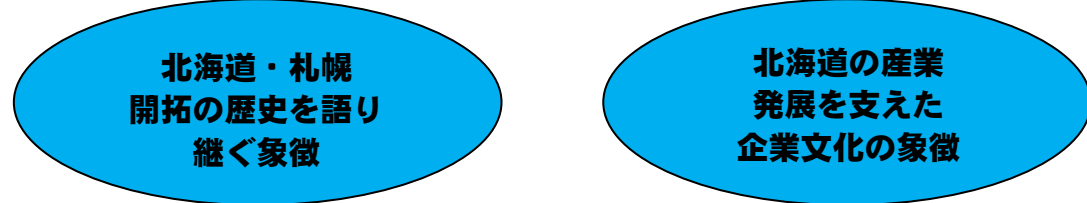
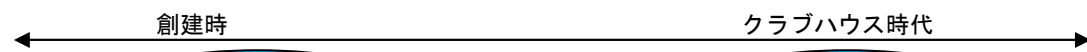
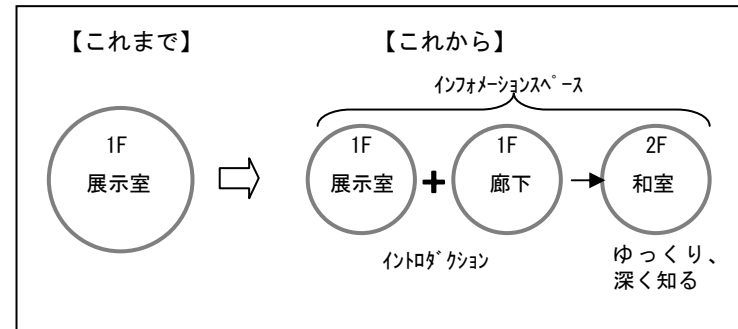
ホール（図面）



玄関横（文化財説明）

(2) 展示の構成

- 1階の展示室に詰め込まれていた情報を整理し、2階和室（北西角）、1階廊下北側壁面も含めて展示を構成する。
- 1階ではエントランスから直近の位置にあるため、イントロダクションとして基礎的な情報をできるだけコンパクトに提供し、より深く知るためのコンテンツは2階和室でゆっくり触れることができるようにする。



(3) 空間・コンテンツイメージ

ギャラリー (パネル・模型等展示) / 1F インフォメーションスペース・廊下ギャラリー・ホール

○北海道開拓と永山武四郎/パネル展示 (常設、壁面、ピクチャーレール吊り下げ)
「北海道開拓における永山武四郎の業績、その人の歴史、時代背景を伝える」

- 人物・歴史 (旭川永山との関係)
- 開拓使
- 屯田兵にまつわる歴史・文化、屯田兵と永山武四郎
- 市内に残る開拓使時代の他の建築物 (豊平館、時計台、清華亭など)



○北海道の産業と企業文化/パネル展示 (常設、壁面、ピクチャーレール吊り下げ)
「北海道の産業発展と三菱鉱業の関わり、企業のクラブハウスとしての記憶を伝える」

- 炭鉱の歴史
- 三菱鉱業
- 道内各地に残るクラブハウス



○札幌の産業のはじまり/パネル展示 (常設、壁面、ピクチャーレール吊り下げ)
「建物が建つ場所が札幌の産業のはじまりの地であるというまちの歴史を伝える」

- 古地図
- 開拓使工業局
- 麦酒醸造所、葡萄酒製造所
- 開拓使通 (北3条通)
- 苗穂の産業遺産 (サッポロビール博物館、福山醸造など)



○建築解剖

「創建時、クラブハウスそれぞれの建築技術、意匠、工法」

- 特徴的な建築の意匠・様式・ディテール/パネル展示 (常設、壁面、イーゼル型)
- 建築+ランドスケープの全体像/模型 ※三菱鉱業寮部分も作成
- 建築マテリアルや関連建築などとあわせた企画展 (テーマ例: 札幌軟石、四季の風景 (写真) 等)



企画展示用仮設什器イメージ (小樽坂牛邸)

ライブラリー/2F インフォメーションスペース、北西 - (閲覧)

- 和のブックカフェのようなゆっくり時間を過ごせる空間
- 書棚 (開拓使関連資料、さっぽろ文庫など配置)
- テーブル (周辺の古写真アルバム (一般募集) を配置)
- タブレット (永山武四郎関連文書 (屯田兵設置の建議書、履歴書、日記) など閲覧可能)



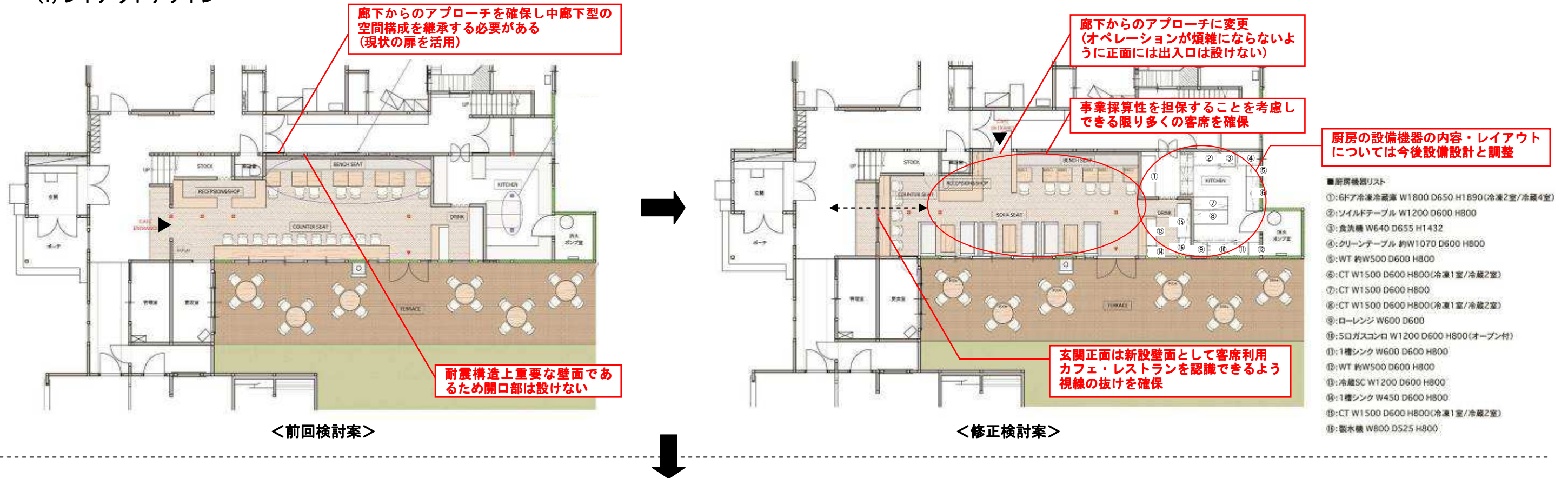
ガイドツアー

- ボランティアガイドが同行する無料ツアー
- 既存の札幌市商工会議所観光ボランティアは、時計台、道庁赤れんが、テレビ塔、時計台横経済センター、狸小路民間交番を都心の活動拠点としている。
- 今後、創成川東地区の散策ツアーの可能性もあり得るため、連携方法について検討する。



2) カフェ・レストラン

(1) レイアウトデザイン



◆レイアウトの基本方針

①動線・ゾーニング

- 中廊下型の空間構成を継承するため、室内への出入りは廊下側からとする。
- 大きく東側に厨房スペース、中央から西側に客席スペースを配する。
- 加えて現状の警備室の一部を区画してバックヤード・スタッフルームとして活用する。

②客席レイアウト

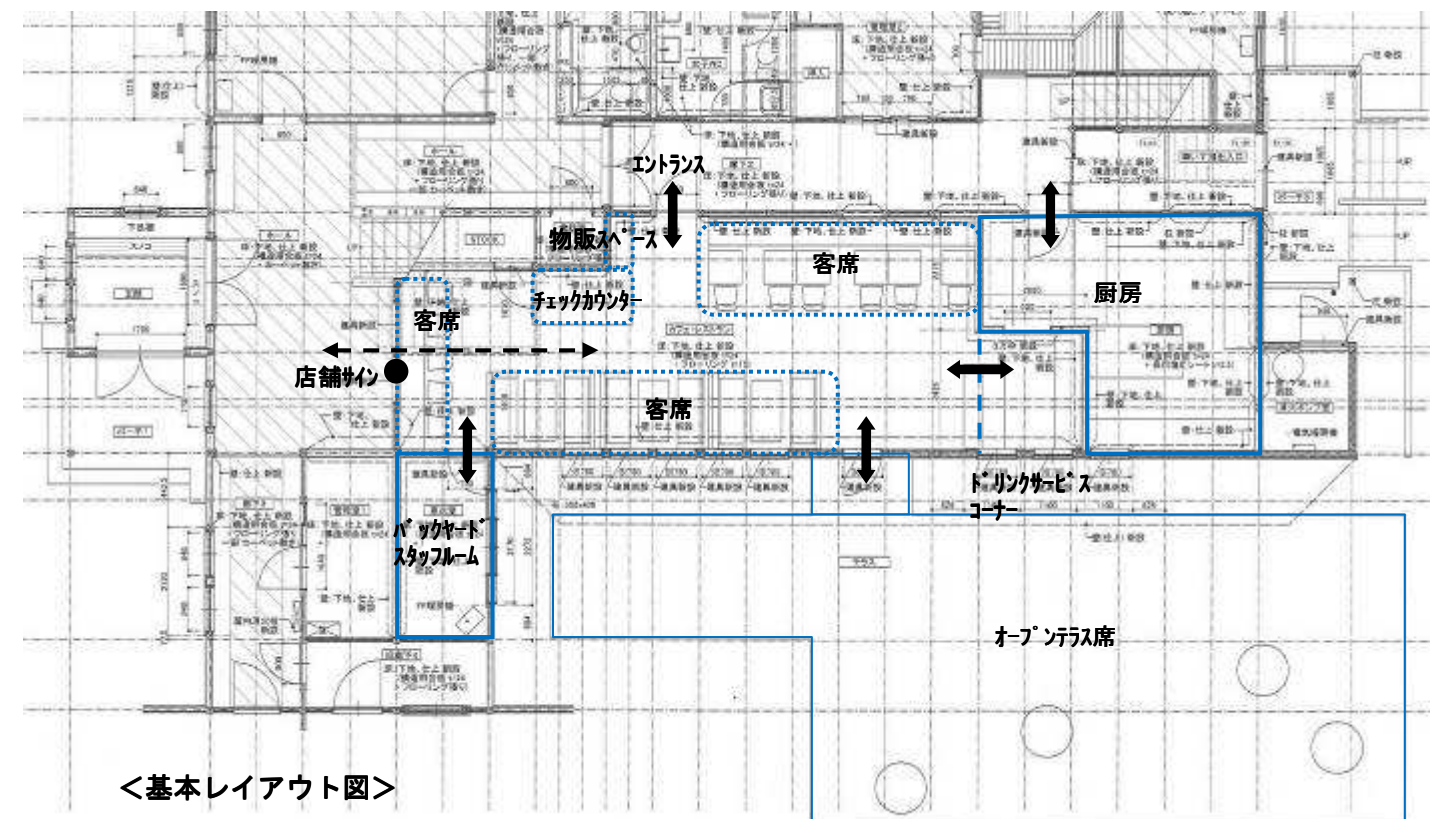
- 廊下側、窓側、正面玄関側、テラスの4箇所に客席を配する。

③屋外テラス

- カフェ・レストランに接する屋外にテラスを新設し、客席として活用する。
- テラスは、庭園側からの一般利用も活用できるものとする。
- テラスの形状は、屋根から落ちる雨に配慮し、犬走り確保した上でその周りに設置する。
- また、既存の樹木を保存する観点から、樹木の地下部を傷めないような設計と施工をする。
- 室内から屋外へ出る際は、事業者側で用意した外履きを利用することを想定する。

④サイン等

- 施設訪問者のカフェ・レストランの視認性や空間の奥行き感を向上するため、玄関正面の壁面は大きな開口部な開口部を設け、店舗の顔となるようにデザインする。
- あわせて店舗サインを掲出する。



(2) 空間デザインの基本的な考え方

①時間の経過を丁寧に活かしたデザイン

- 歴史的建造物として特徴的な意匠や技術・工法の他にも、木の軸組や素材感、窓枠、建具など何気ない部分に時間の経過を感じさせるものがある。できる限りこれらの要素を残し活かしながらデザインする。

②「継承」と「対比」を意識したデザイン

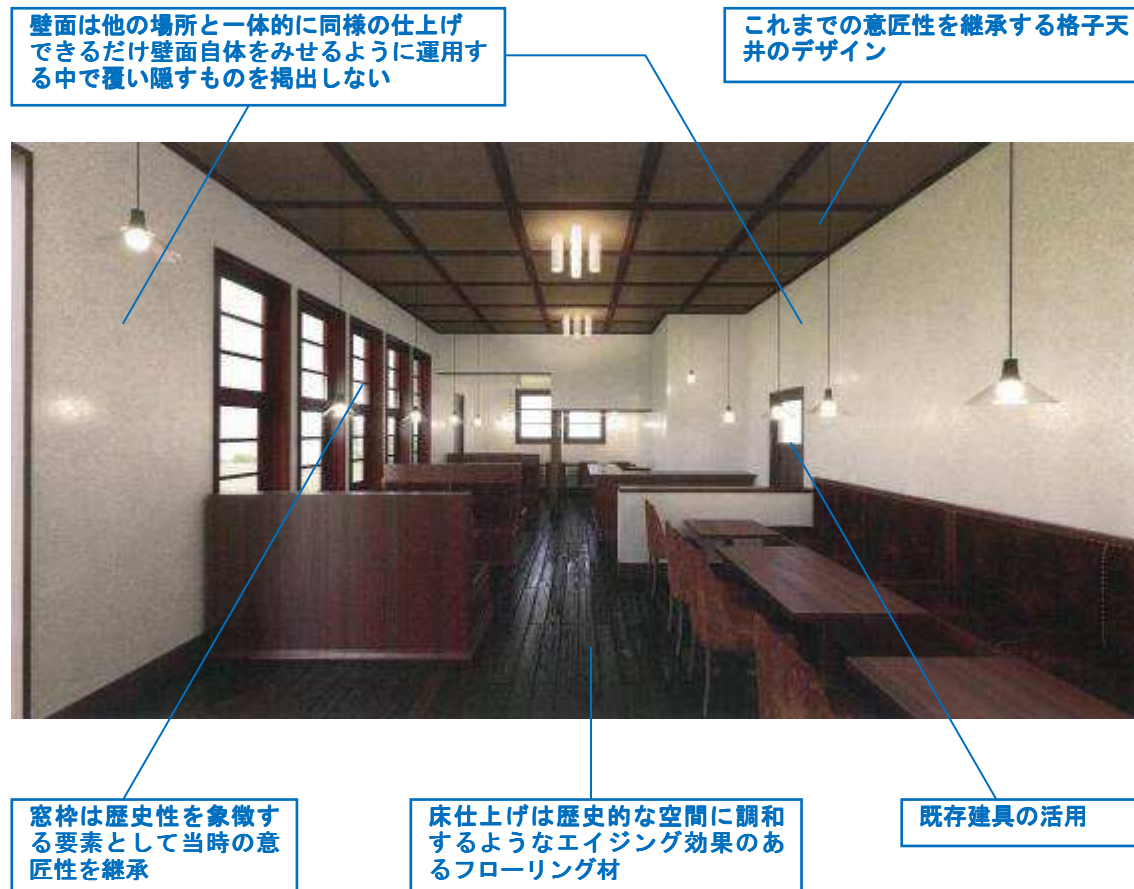
- 歴史的建物の持つ様式や意匠になじませるだけでなく、現代的な素材や形態を対比させることで、新たな建物の洗練されたイメージや魅力が発揮されるようデザインする。
- ハード面（柱、梁、壁等）は当時のものを生かし、ソフト面（色、素材、ディテール、装飾等）で現代的な要素を組み込む事で、過去と現代の融合をはかる。

③環境をつなぐデザイン

- 南側窓面からの採光、庭園側の景観などを取り込み、緑や光など自然環境を感じることができるデザインとする。

④夜間の魅力を演出する照明デザイン

- 夜間営業時のカフェ・レストランを上質に演出する照明デザインとする。



カフェ・レストランの内観イメージパース例

(3) 家具・什器類のデザインの考え方とイメージ

- カフェ・レストラン内の家具・什器類については、指定管理者及び事業者側により整備されるものであるが、空間の質や価値に大きく影響を及ぼす要素であるため、以下のことに配慮してデザインの誘導を図る。

①カフェ・レストランの顔となるような壁面のデザイン

- 玄関正面、階段下の壁面は言わば店舗のファサードとなる場所であり、施設訪問者の気持ちを店舗内へ導くための視認性・奥行き感が必要となる。また、オリジナルの建物にはない新たな要素であるため、周囲のデザインに馴染ませるのではなく対比的に現代的な建築要素を用い違いを明確にする。
- 具体的には、できる限り大きなガラス面を設け、店舗サインと一体的なデザインとする。



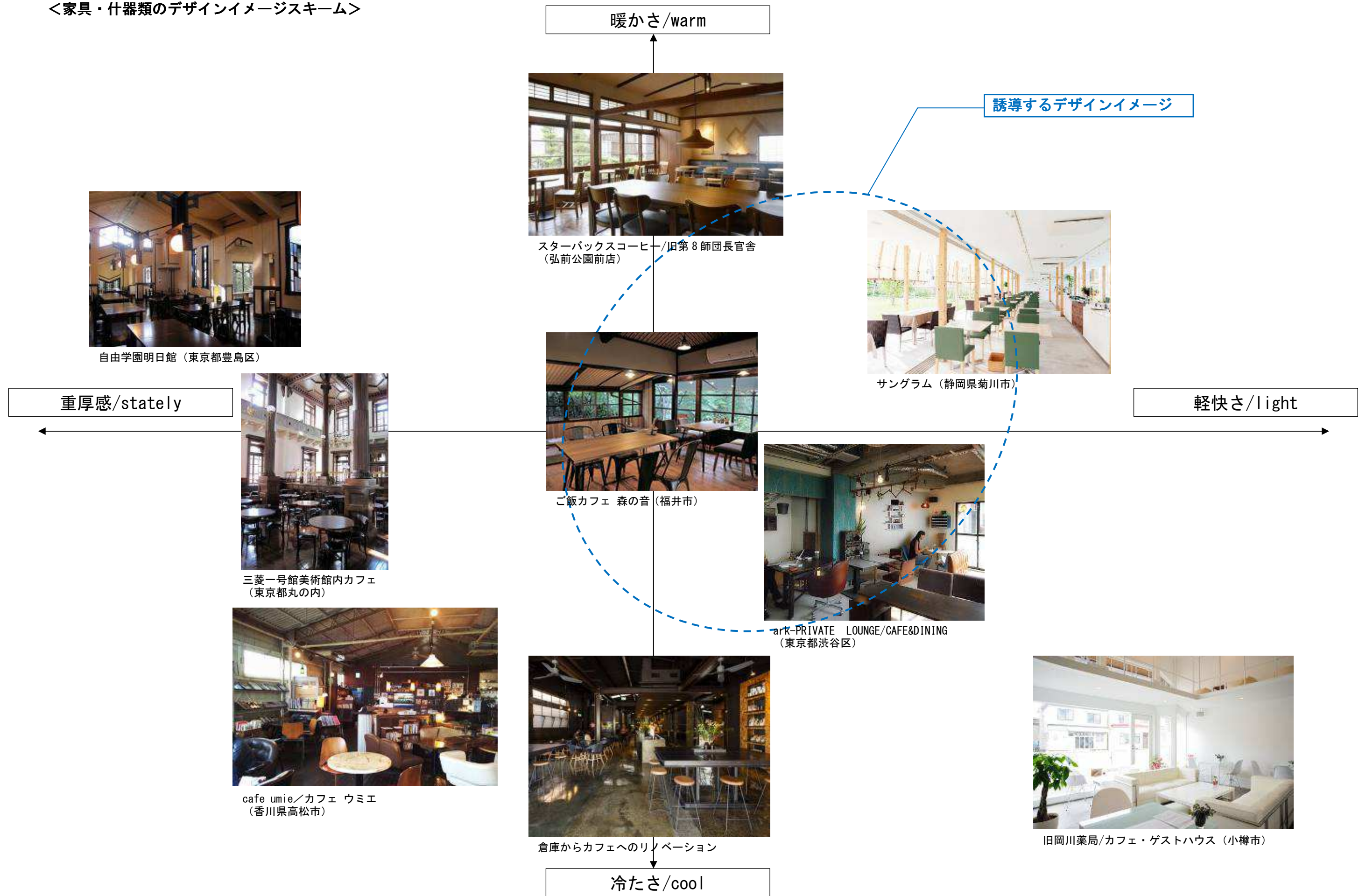
サインと一体的にデザインされた奥行き感のあるガラスファサードのイメージ

②多様な世代に受け入れられる家具・什器のデザイン

- 本施設は、若い世代から高齢の方まで、幅広い人をターゲットとした利用を想定している。
- 多様な世代が気軽に利用できる居心地の良い場所となるよう、歴史的な重厚感に加えて、シンプルで暖かみのある軽やかな家具・什器類を誘導する。

(→次頁：家具・什器類のデザインイメージ)

<家具・什器類のデザインイメージスキーム>



6. 管理運営の考え方

1) 管理運営の体制

- 管理運営形態については、これまでの直轄管理、外部委託（警備清掃業務）の形態から、時計台・豊平館(H28 リニューアル後予定)・札幌市資料館と同様、指定管理制度を活用して一体的かつ柔軟な運営とすることを想定する。
- 管理運営にあたって、文化財の適切な保全、市民や地域住民が関わる活発な活用を継続的に行うため、市（あるいは市が設置する専門家による会議）による助言やボランティア組織や活動団体が課題を共有し、活用方針を確認しあう場「運営協議会」を設置する。
- 指定管理者には、文化財を保全・活用する経験・知識を有し、関係者間やボランティア・地域団体との調整、イベント企画等を行うマネジャーを配することを想定する。

◇指定管理者：全体管理運営

- ・通常の指定管理業務：受付・案内、レンタルスペースの貸出管理
建物の歴史的価値の発信（インフォメーション機能）
警備清掃（外注想定）、ボランティアガイド運営

- ・自主事業：飲食店舗への貸出、展示コンテンツづくり、イベント企画など

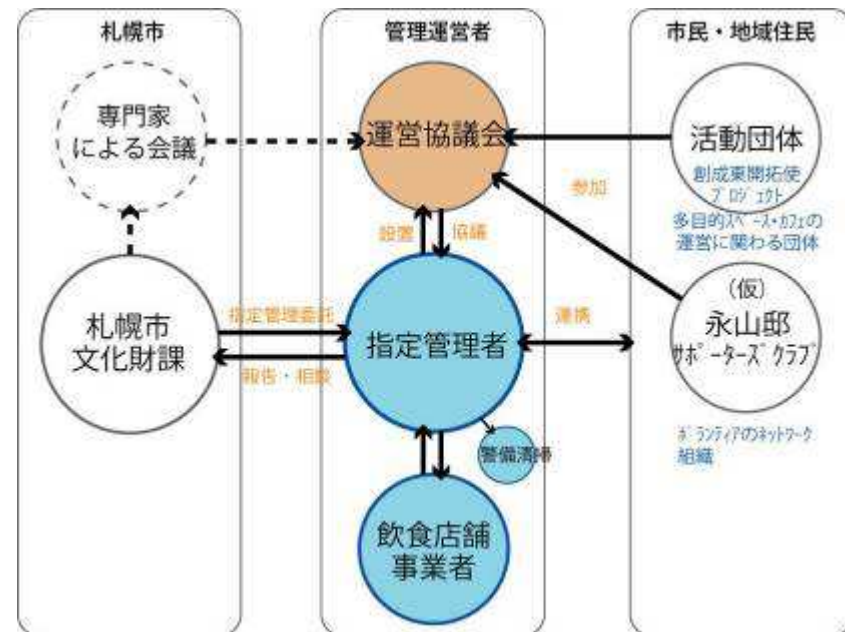
◇自主事業連携団体：

- ・札幌市商工会議所観光ボランティア/拠点化→ガイドツアーの実施
- ・地域団体（開拓使プロジェクト、創成東エリアマネジメント研究会など）
- ・歴史関連団体（北海道遺産協議会など）

◇運営協議会：指定管理者が設置

- ・歴史的建物などの専門家、周辺企業、地域の活動団体などにより組織
- ・建物の適切な保存活用のための方針や情報共有、具体的な活用方法について検討

◇飲食店舗経営：指定管理者が自主事業として独自に選定することを想定



管理運営体制図

2) 入館料

- 入館料については、現状無料となっている。
- 今後、多彩な地域のコミュニティ活動の場、誰もが来やすい施設といった性格を考慮して、原則無料を想定して、リニューアルオープン後の入館料の設定について検討する。

3) 開館時間

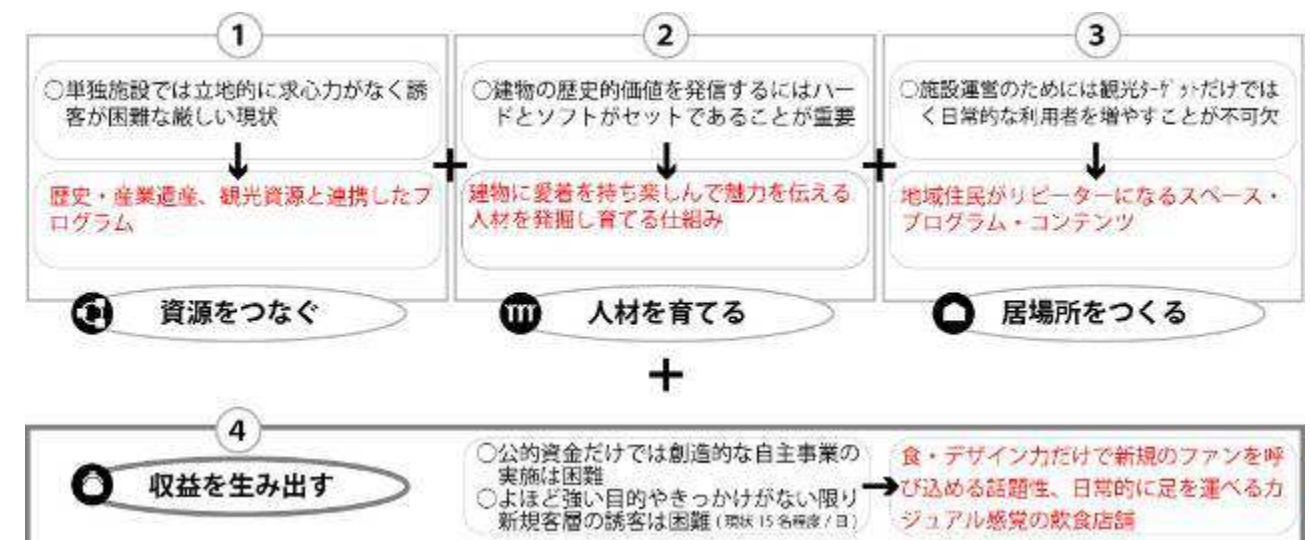
- 現状では、9時～16時の開館となっている。
- 今後は、より多くの人へ機会を拡大するため夜間も含めて9時～22時を観覧時間として想定する。
- 貸室、飲食店舗についても、多様なレンタル活用、飲食店舗の事業採算性に考慮し、9時～22時を想定する。
- 飲食店舗の夜間営業については、近隣住民や公園内の野鳥など生き物へ影響などに配慮して検討する。
- 庭園部分の門扉開閉時間は、現状と同様9時～20時を想定する。

<利用区分ごとの開館時間（案）>

利用区分	開館・営業時間	場所等
観覧	9:00～22:00	旧永山武四郎邸、インフォメーション（1・2階）
貸室	9:00～22:00	多目的スペース1・2・3（2階）
飲食店舗	9:00～22:00	カフェ・レストラン（1階）
庭園	9:00～20:00	庭園と連携したイベント等も含む 建物西側・北3条通側の門扉については夜間利用のため9:00～22:00までを想定

4) 事業方針と具体例

- 旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮の歴史や建物の魅力を十分に活かしたプログラムを実施し、市民、地域住民に広くまた繰り返し足を運んでもらえるような創意工夫ある事業を展開する。
- 事業は以下の4点を柱として展開プログラムを検討する。



＜事業プログラム例とイメージ＞

＜建物に愛着を楽しんで魅力を伝える人材を発掘し育てるプログラム＞

◇建物や地域の歴史を学ぶまち講座の企画・実施

＜地域の歴史・産業遺産、観光資源と連携したプログラム＞

◇開拓使時代の建築(清華亭、時計台、豊平館)、苗穂産業遺産をめぐるツーリズムマップやツアープログラムの作成

◇永山記念公園・庭園と一体的アートイベント

＜地域住民がリピーターになるプログラム＞

◇地域の子どもや高齢者を対象としたものづくりや食のワークショップ(地元企業等と連携)

＜食・デザイン力で新規のファンを呼び込めるカジュアル感覚の飲食店舗＞

◇事業性の安定と特に若い世代を多く呼び込むきっかけとなるパーティプランとして、ウェディング1.5・2次会に活用

◇その他施設のブランディングと連動したグッズ展開



札幌まちあるき博物館パンフレット



北海道遺産めぐりルートマップ



永山記念公園ひかりの森(開拓使プロジェクト)



苗穂カフェ料理研究会(地元企業との連携による食のワークショップ)



札幌軟石を使ったものづくりワークショップ(創成東まちづくりサロン)



歴史的建物を活用したガーデンウェディング(フェリーチェガーデン日比谷)

5) 収益事業の考え方と収益性

- 指定管理者の収益事業の主な収入項目は、これまで無償で貸出していた2階多目的スペースのレンタル費用と指定管理業務の範囲外として実施する飲食店舗からの賃貸料又は売上歩合費を想定する。
- レンタル費用、店舗の売上を向上することで、指定管理料の軽減、より充実した自主事業の展開を図る収支構造とする。
- 貸室利用については、市民を対象とした文化的イベント、会食・会議等の利用を想定する。また、政治活動・宗教活動及び公序良俗に反する利用については貸出を行わない。

(1) 貸室利用

- 公共施設として、市民が気軽に利用できるよう、できる限り低廉な料金とする。
- 会議等にも使用しやすいよう1時間単位での貸出も可能とする。

室名	大きさ (㎡)
多目的スペース A	33
多目的スペース B	44
多目的スペース C	21

※多目的スペース A には水屋を新設する

※それぞれの部屋の面積には、押入・床の間・縁側等を含む

＜参考資料：市内他の歴史的建造物利用料金＞

◇豊平館

室名	定員(名)	料金(円/時間)	→(円/5時間)
ユリ、フヨウ、ススキとオミナエシ	10名	500	2,500
ツバキ	30名	900	4,500
広間	100名	3300	16,500

◇札幌市時計台

	面積	使用料(17:30-21:00)
ホール	200㎡	6,000円

(ただし入場料1,001円以上のもの、営利を目的とするもの等は12,000円)

◇札幌市資料館 (H25年度)

	面積	使用料(1日)	使用料(6日)
ギャラリー1	82.64㎡	4,900円	29,400円
ギャラリー2	38.34㎡	2,300円	3,800円
ギャラリー3	35.35㎡	2,100円	2,600円
ギャラリー4	37.35㎡	2,200円	3,200円
ギャラリー5	37.35㎡	2,200円	3,200円
ギャラリー6	35.35㎡	2,100円	2,600円

会社など営利を目的とする法人が利用する場合、又は、展示物等を販売する場合などは、別途料金が加わる。

○美術に関する催し→20割増(基本料金×4)

○美術以外に関する催し→35割増(基本料金×4.5)

区分	利用料金			
	単位		基本料金	
研修室	100㎡ 54席	午前	午前9時から正午まで	3,400円
		午後	午後1時から午後5時まで	4,500円
	全日	午前9時から午後5時まで	7,900円	

(2) カフェ・レストラン事業

- 指定管理者が1階カフェ・レストランスペースを活用して行う自主事業について、目的外使用における公共の単価設定や以下の事業収支シミュレーションを参考にしながら、事業者選定の条件を検討する。

◇目的外使用エリア面積：81.8 m² (25.2 坪)

◇賃貸料 (家賃)：10,000 円/坪

(参考)【札幌テナント情報】創成川東/路面店

- ・南2条東5丁目 (183,600 円 24.73 坪) 約 7,400 円/坪
- ・北3条東5丁目 (190,080 円 22 坪) 約 8,600 円/坪 ※岩佐ビル
- ・南2条東2丁目 (108,000 円 16.94 坪) 約 6,400 円/坪

◇事業収支シミュレーション (参考)

- ・客単価：900 円 (昼)、夜 (2,500 円)

客席数：27 (室内のみ) /最低ライン

◇集客数：

- ・平日：46 名 (昼 27 名/夜 19 名)
- ・休前日：84 名 (昼 49 名/夜 35 名)

1. 月営業日数

	平日	休前日	日	計
昼	22	8		30
夜	22	8		30

2. 一日当たり集客回転率 客席 27

	回転		集客		単価 (円)	
	平日	休前日	平日	休前日	平日	休前日
昼	1.0	1.8	27	49	900	900
夜	0.7	1.3	19	35	2,500	2,500
計			46	84		

3. 日商 (千円)

	平日	休前日
昼	24,300	43,740
夜	47,250	87,750
計	71,550	131,490

4. 月商 (千円)

	平日	休前日	計
昼	534,600	349,920	884,520
夜	1,039,500	702,000	1,741,500
計	1,574,100	1,051,920	2,626,020

5. 年商 (千円)

	平日	休前日	計
昼	6,415,200	4,199,040	10,614,240
夜	12,474,000	8,424,000	20,898,000
計	18,889,200	12,623,040	31,512,240

客席数：57 (室内+テラス席)

◇集客数：

- ・平日：63 名 (昼 34 名/夜 29 名)
- ・休前日：136 名 (昼 68 名/夜 68 名)

1. 月営業日数

	平日	休前日	日	計
昼	22	8		30
夜	22	8		30

2. 一日当たり集客回転率 客席 57

	回転		集客		単価 (円)	
	平日	休前日	平日	休前日	平日	休前日
昼	0.6	1.2	34	68	900	900
夜	0.5	1.2	29	68	2,500	2,500
計			63	137		

3. 日商 (千円)

	平日	休前日
昼	30,780	61,560
夜	71,250	171,000
計	102,030	232,560

4. 月商 (千円)

	平日	休前日	計
昼	677,160	492,480	1,169,640
夜	1,567,500	1,368,000	2,935,500
計	2,244,660	1,860,480	4,105,140

5. 年商 (千円)

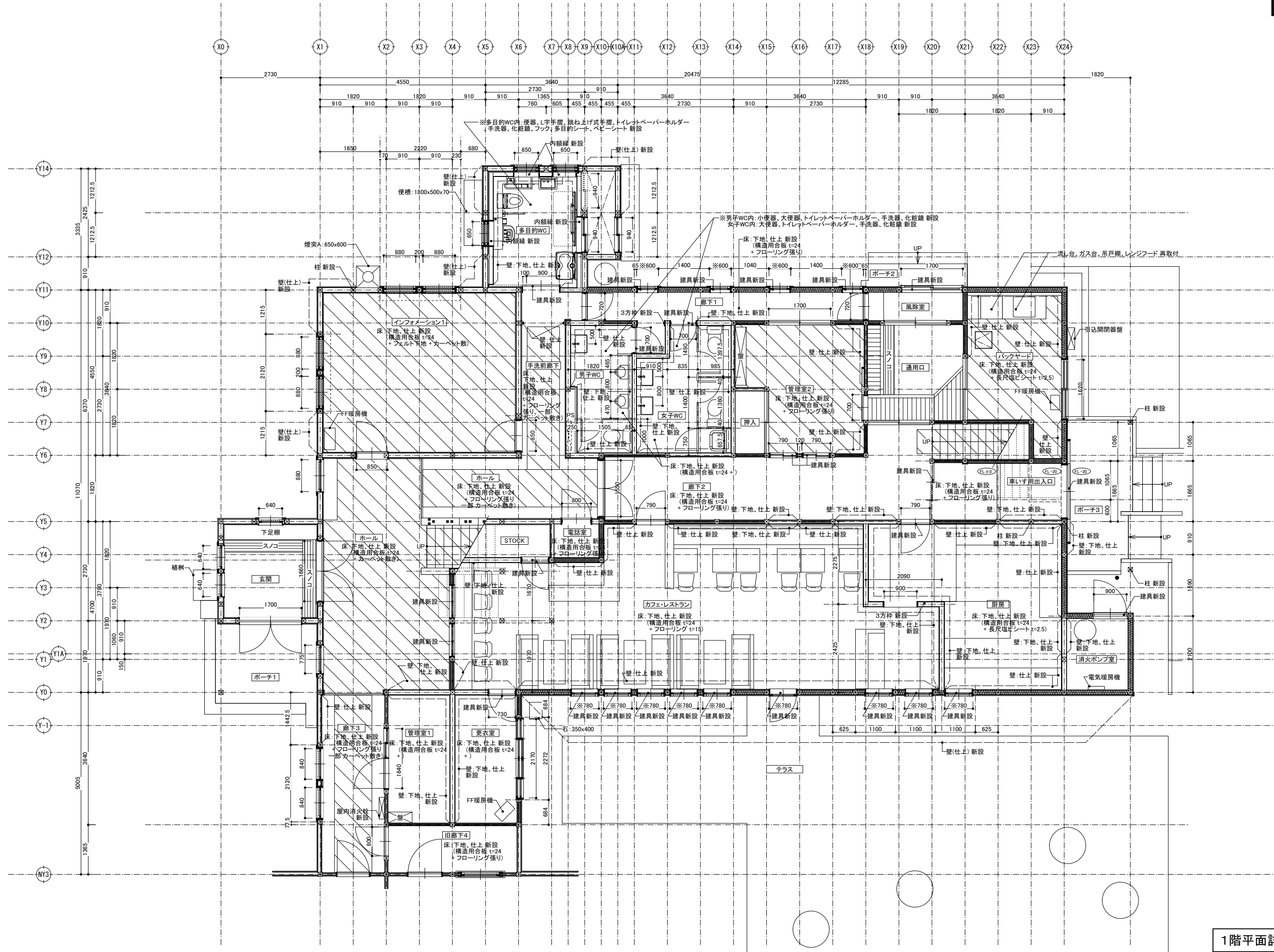
	平日	休前日	計
昼	8,125,920	5,909,760	14,035,680
夜	18,810,000	16,416,000	35,226,000
計	26,935,920	22,325,760	49,261,680

7. トータルブランディングに向けて

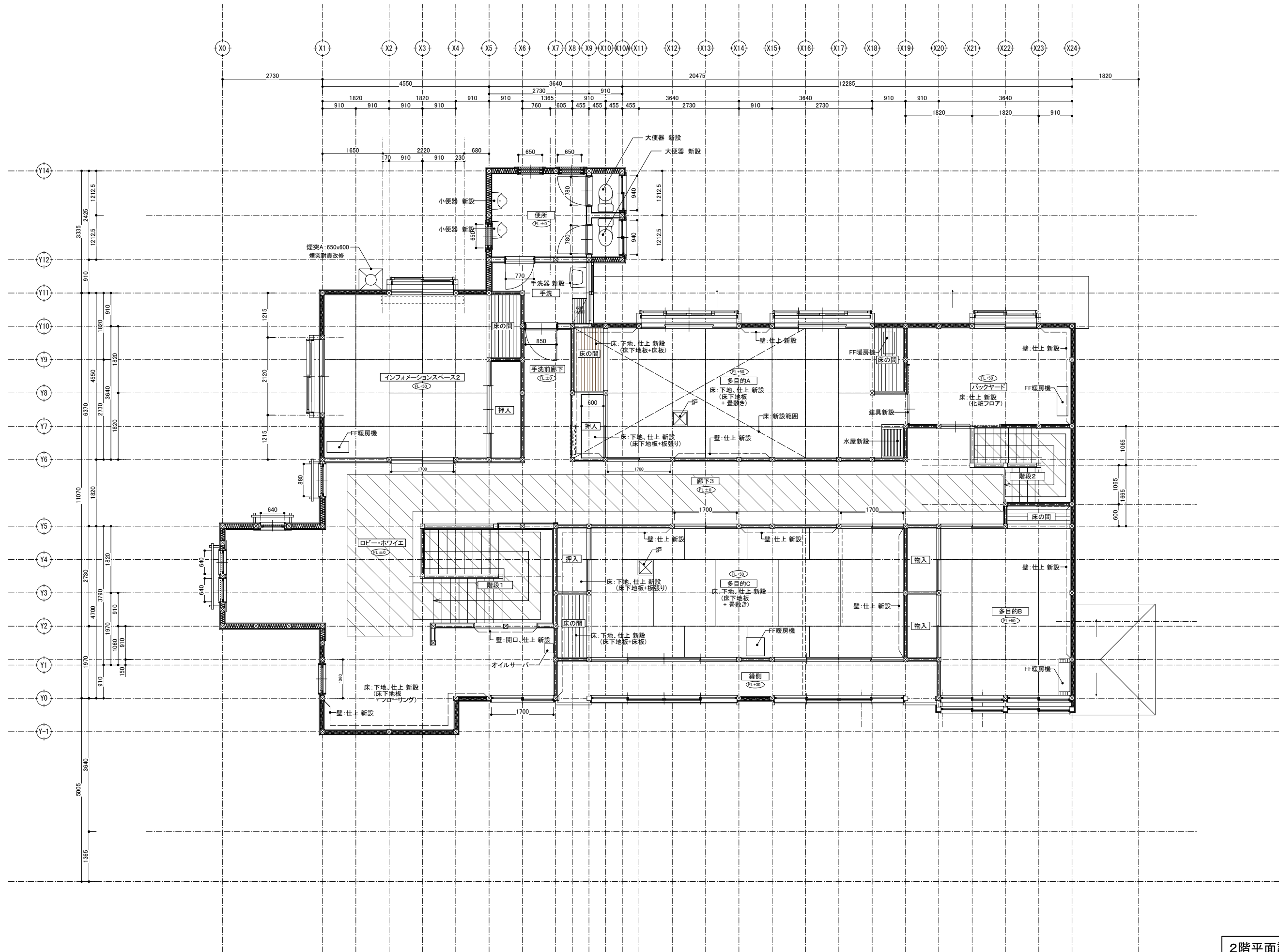
- 歴史的建造物である旧永山武四郎邸・旧三菱鉱業寮を一体的に有効活用し、歴史的な価値を伝えつつ、文化財を新しく、楽しく若い人たちにも興味を持ってもらえるようにブランディングしていくことが大切である。
- 行政管理上、「旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮」が正式名称であるが、わかりやすいネーミングを選定することについても検討が求められる。
- あわせてコミュニケーション力の高いロゴデザイン、それらを活用したグッズ展開なども含めた取組が必要である。
- 指定管理者を選定する上で、これらのことを評価項目となるように検討する。
- また、建物単体だけでなく、永山記念公園や隣接するサッポロファクトリーも含めた場所の魅力をプロモーションしていくことが必要であり、一体的な活用プログラムや連携方法を検討する。

5) 指定管理料

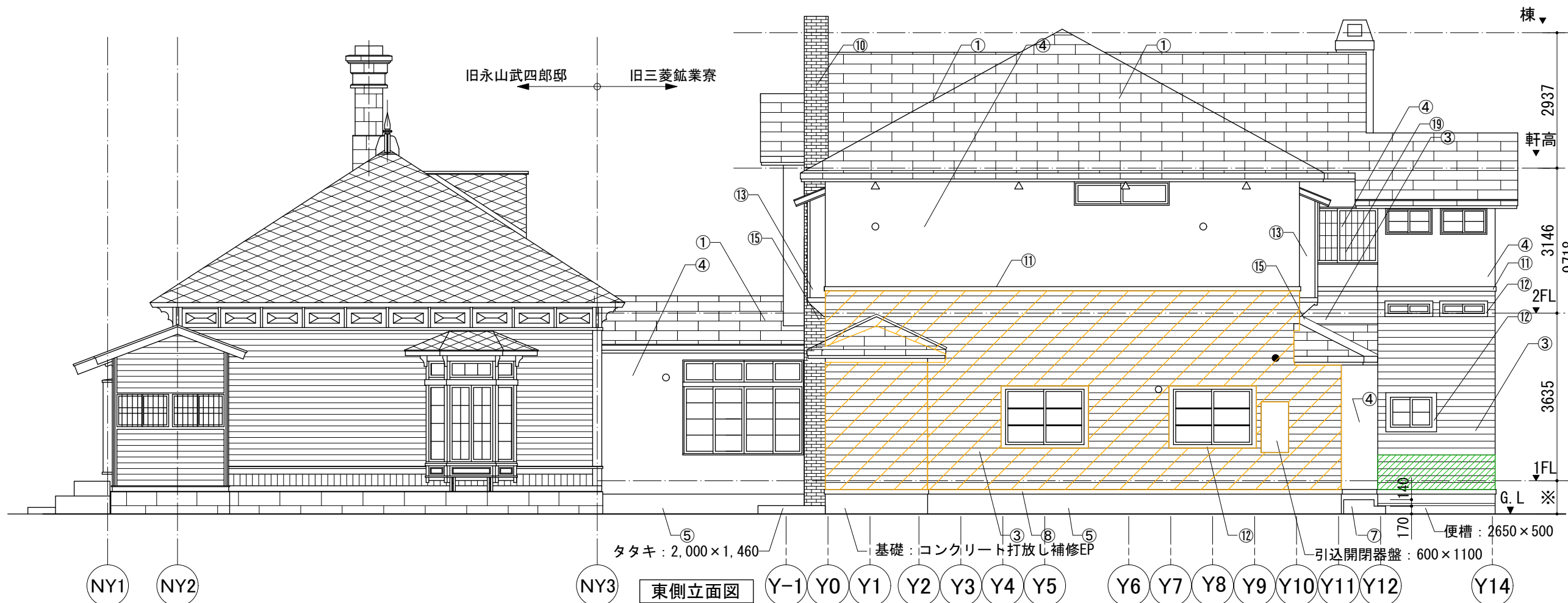
- 通常の指定管理業務は、受付・案内、レンタルスペースの貸出管理、建物の歴史的価値の発信 (インフォメーション機能の運営)、警備清掃、備品管理、ボランティアガイド運営を想定している。
- 市内他の文化財における指定管理の状況を踏まえながら、適正な指定管理料の設定を行う。



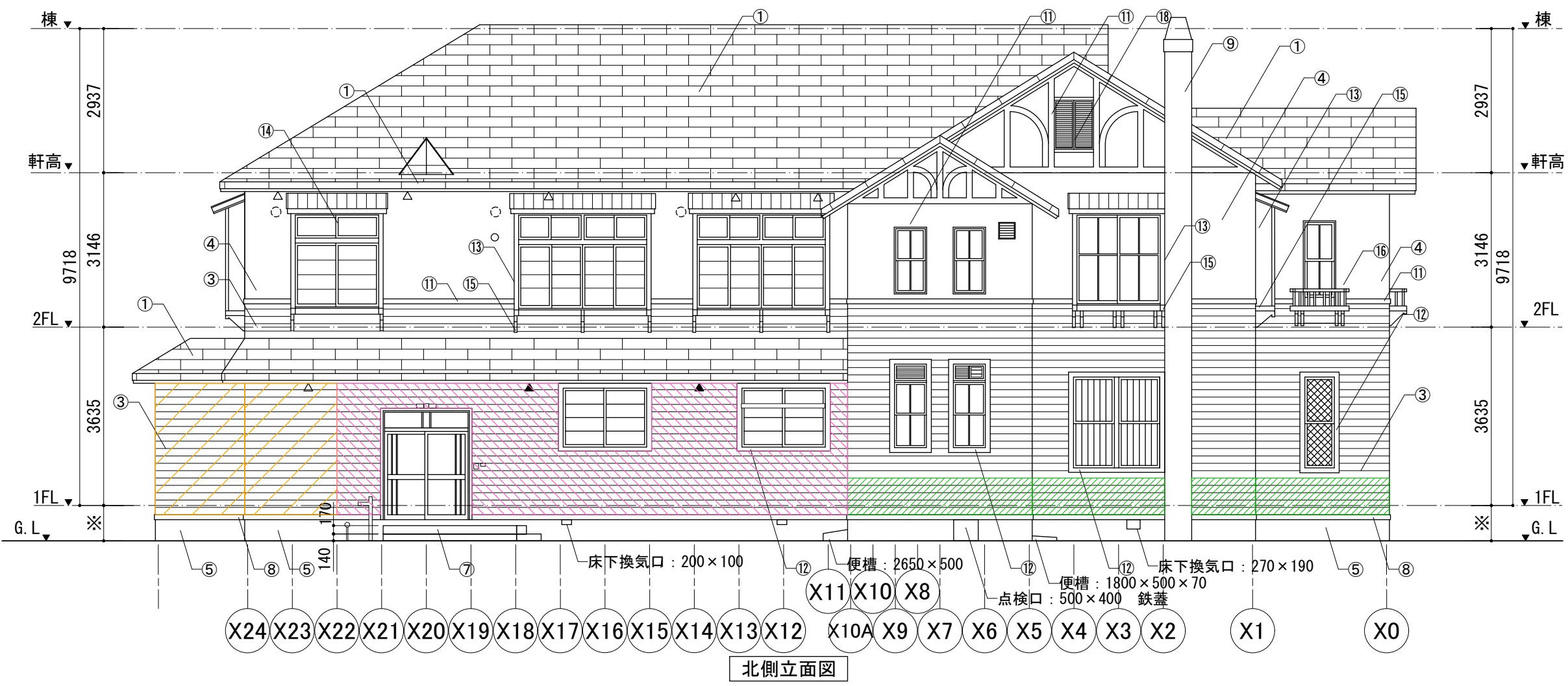
1階平面詳細図 [改修後]



2階平面詳細図 [改修後]

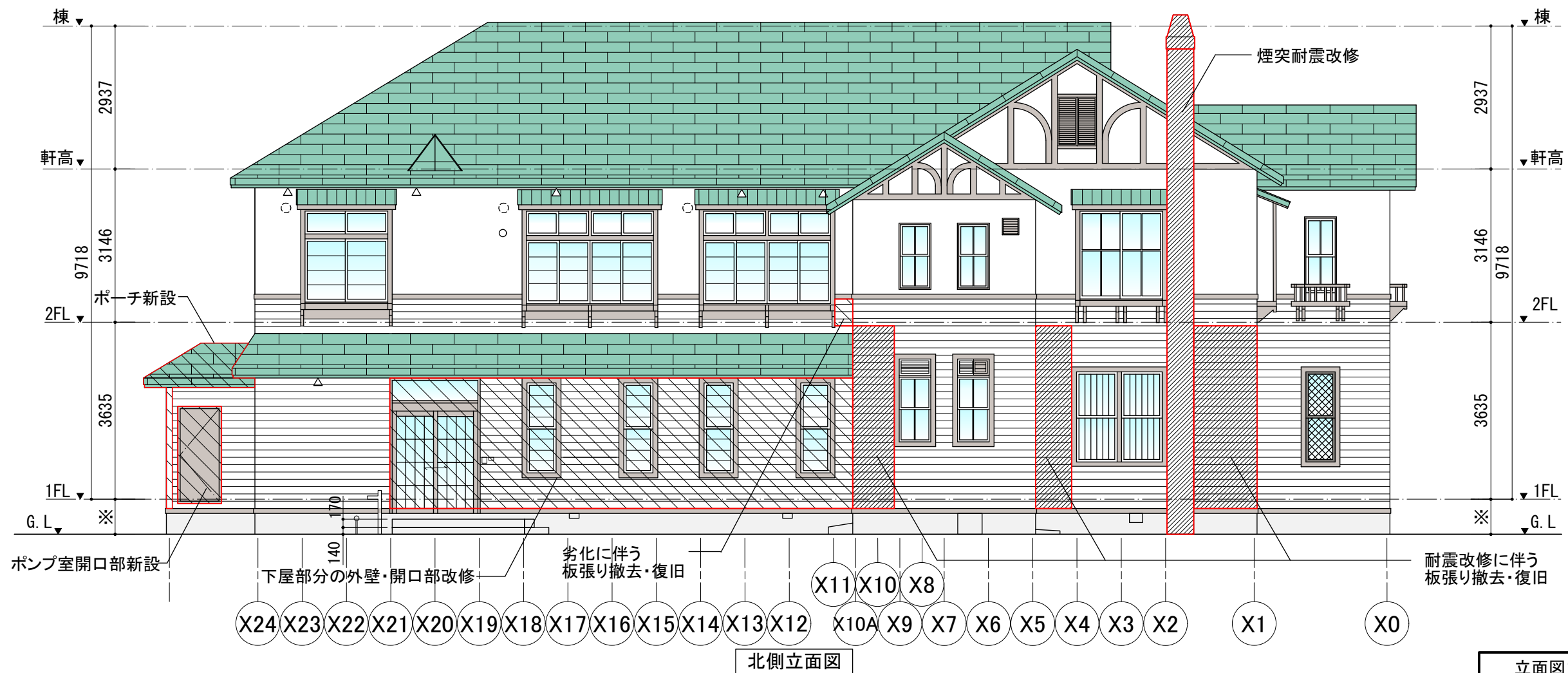
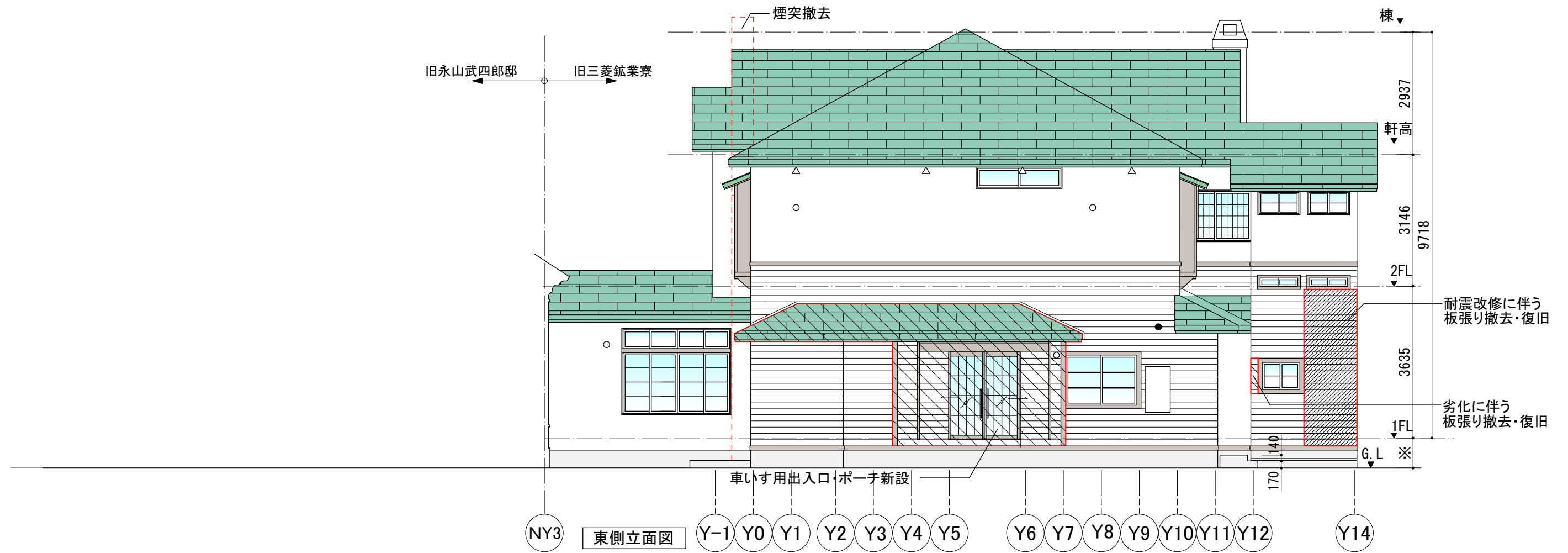


- 外壁調査凡例
- 下見板貼が比較的新しい
透湿防水シートの施工可能性あり
 - 増築の可能性があるため
ガラスウールの施工可能性あり
 - S63年改修
ガラスウールの施工あり
 - ベニヤ下地を確認
改修の可能性あり
ガラスウールの施工可能性あり
 - 軸組の改修あり
ガラスウールの施工あり
透湿防水シートの施行あり
 - 古い下地板を確認
軸組の改修は無し
ガラスウール施工の可能性あり

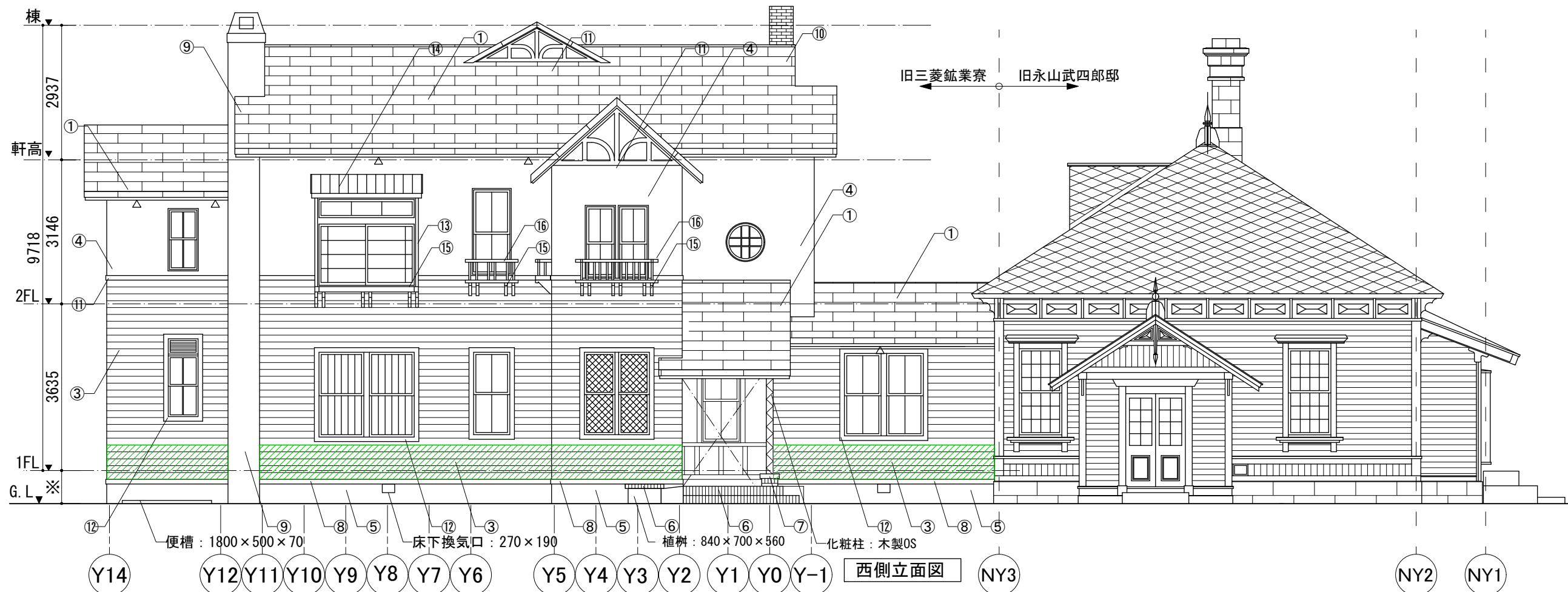


- 凡例
- | | |
|---|--------------------|
| ① | 屋根: カラー鉄板四切葺 (破風共) |
| ② | 軒天: スレート板貼り EP |
| ③ | 外壁: 下見板貼り OP |
| ④ | 外壁: ラスモルタル刷毛引き EP |
| ⑤ | 基礎: モルタル刷毛引き EP |
| ⑥ | レンガ積 |
| ⑦ | モルタル刷毛引き |
| ⑧ | 水切: カラー鉄板 木下地 |
| ⑨ | 煙突A: モルタル刷毛引き EP |
| ⑩ | 煙突B: レンガ積 |
| ⑪ | 付柱、付枠: 木製 EP |
| ⑫ | 窓枠: 木製 OS |
| ⑬ | 出窓枠、妻板: 木製 OS |
| ⑭ | 出窓屋根板: カラー鉄板葺 |
| ⑮ | 持送板: 木製 OS |
| ⑯ | 持出手摺、外付手摺: 木製 OS |
| ⑰ | 戸袋外壁: ラスモルタル刷毛引きEP |
| ⑱ | ガラリ: 木製 OS |
| ⑲ | 打付格子: 丸鋼 OP |
| ▲ | 小屋裏換気口: 300x300 |
| △ | 小屋裏換気口: 300x150 |
| ○ | 給排気トップ |
| ● | 換気扇フード |
| ○ | 煙道フサギ |

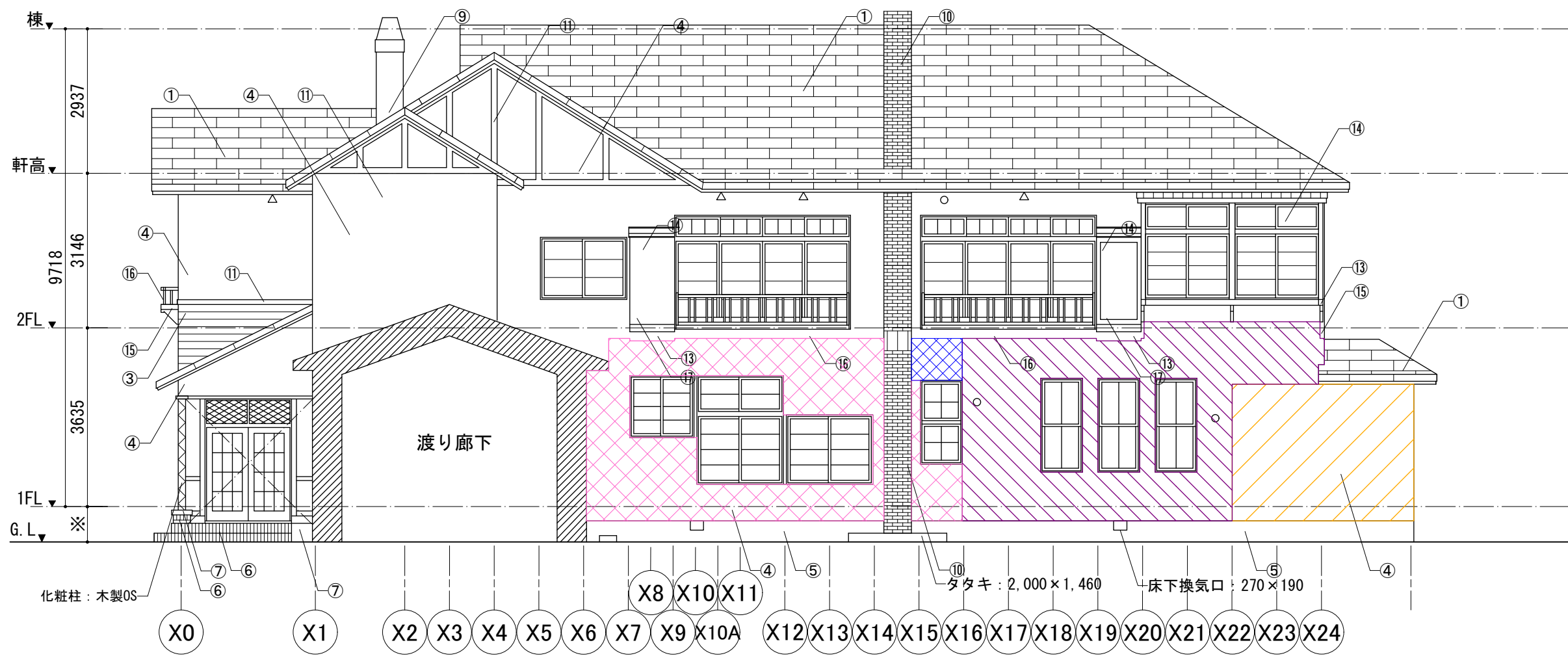
立面図1 [改修前]



立面図1 [改修後]



西側立面図



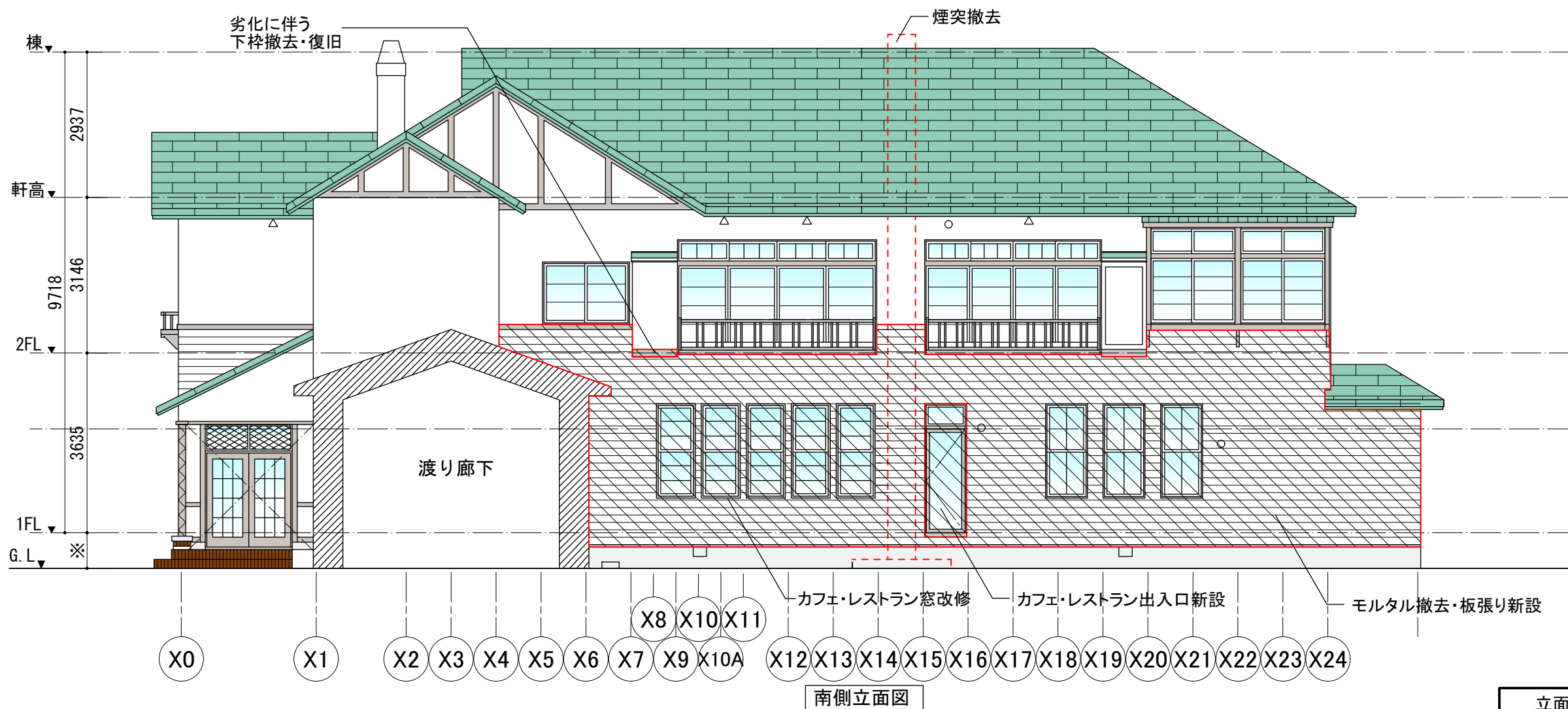
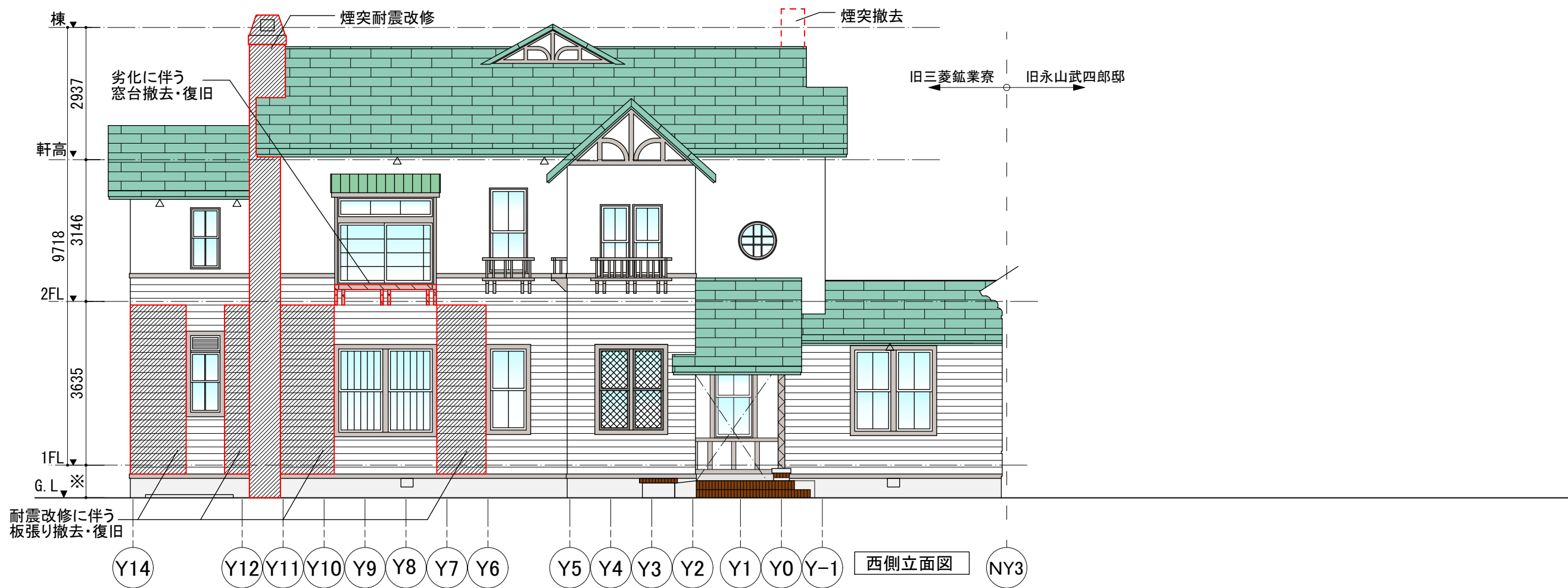
南側立面図

立面図2 [改修前]

- 外壁調査凡例
- 下見板貼が比較的新しい
透湿防水シートの施工可能性あり
 - 増築の可能性があるため
グラスウールの施工可能性あり
 - S63年改修
グラスウールの施工あり
 - ベニア下地を確認
改修の可能性あり
グラスウールの施工可能性あり
 - 軸組の改修あり
グラスウールの施工あり
透湿防水シートの施行あり
 - 古い下地板を確認
軸組の改修は無し
グラスウール施工の可能性あり

■凡例

①	屋根: カラー鉄板四切葺 (破風共)
②	軒天: スレート板貼り EP
③	外壁: 下見板貼り OP
④	外壁: ラスモルタル刷毛引き EP
⑤	基礎: モルタル刷毛引き EP
⑥	レンガ積
⑦	モルタル刷毛引き
⑧	水切: カラー鉄板 木下地
⑨	煙突A: モルタル刷毛引き EP
⑩	煙突B: レンガ積
⑪	付柱、付枠: 木製 EP
⑫	窓枠: 木製 OS
⑬	出窓枠、妻板: 木製 OS
⑭	出窓屋根板: カラー鉄板葺
⑮	持送板: 木製 OS
⑯	持出手摺、外付手摺: 木製 OS
⑰	戸袋外壁: ラスモルタル刷毛引きEP
⑱	ガラリ: 木製 OS
○	打付格子: 丸鋼 OP
▲	小屋裏換気口: 300×300
△	小屋裏換気口: 300×150
○	給排気トップ
●	換気扇フード
○	煙道フサギ



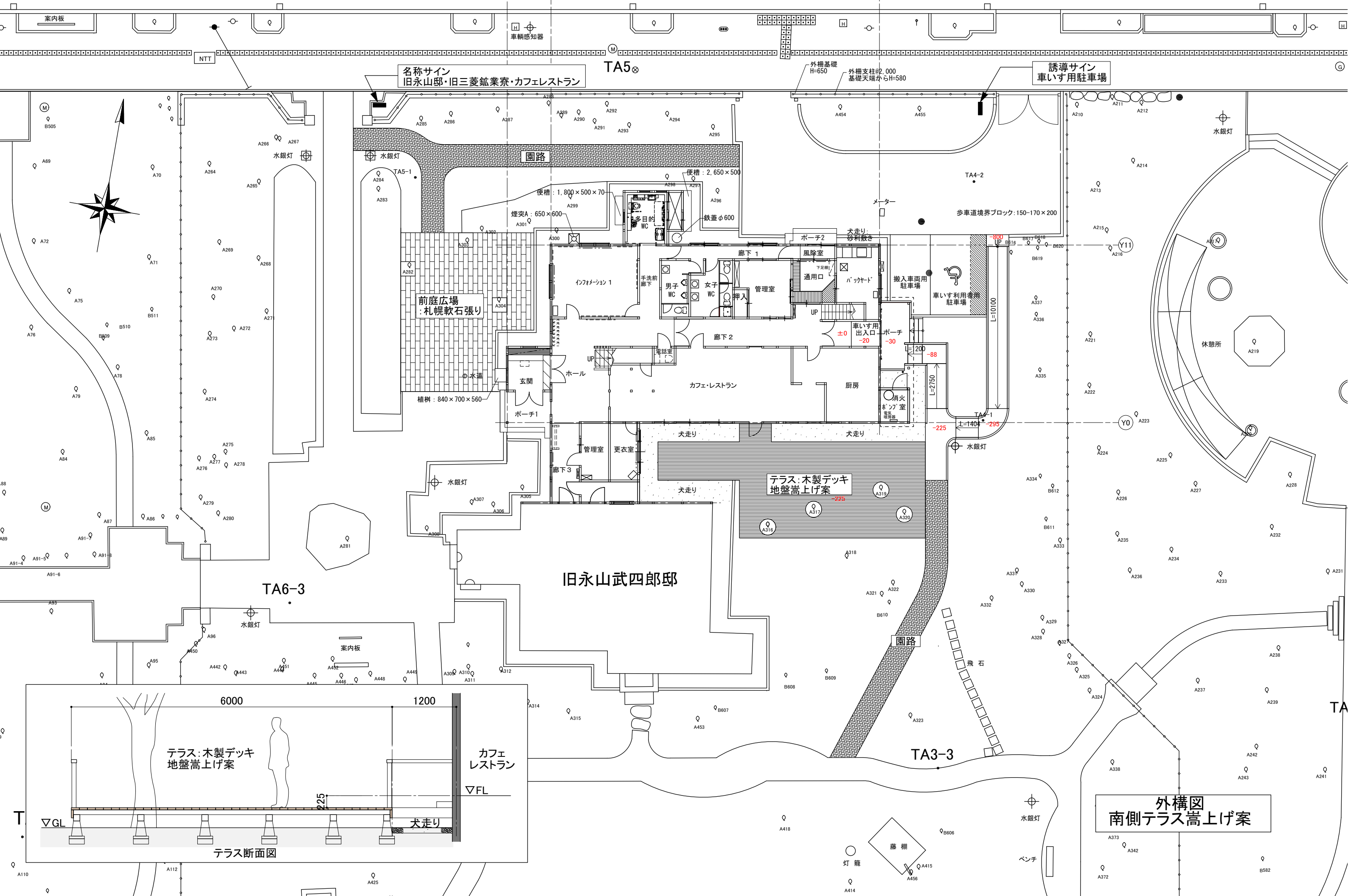
立面図2 [改修後]

カフェ・レストラン部内観イメージ1



カフェ・レストラン部内観イメージ2





名称サイン
旧永山邸・旧三菱鉱業寮・カフェレストラン

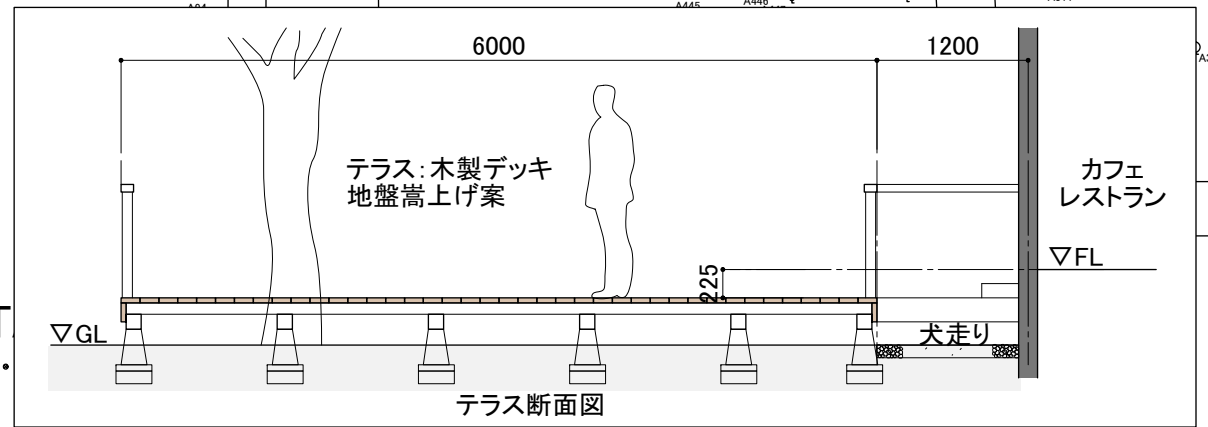
誘導サイン
車いす用駐車場

前庭広場
札幌軟石張り

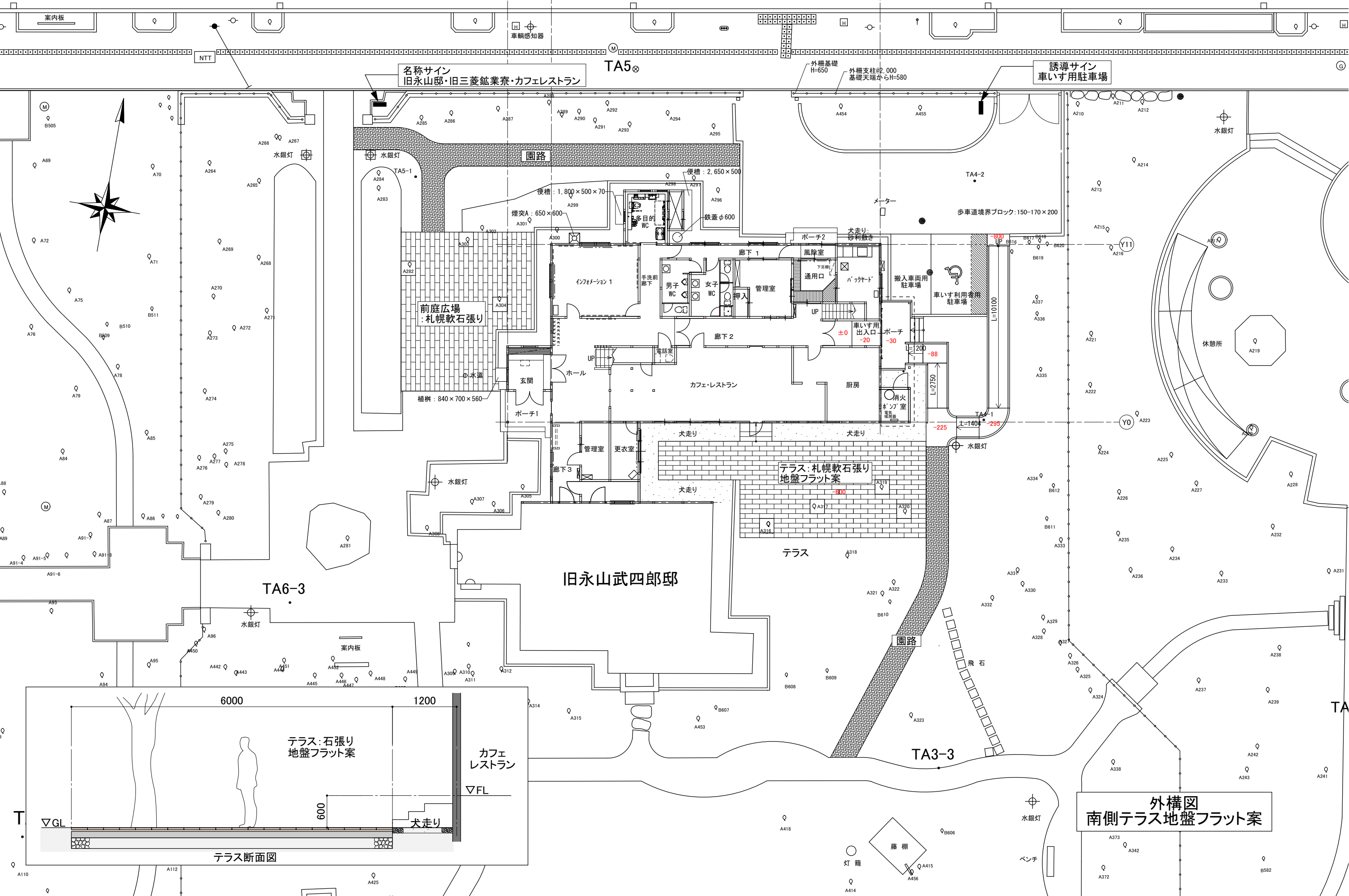
テラス: 木製デッキ
地盤嵩上げ案

旧永山武四郎邸

外構図
南側テラス嵩上げ案



テラス断面図



名称サイン
旧永山邸・旧三菱鉱業寮・カフェレストラン

TA5

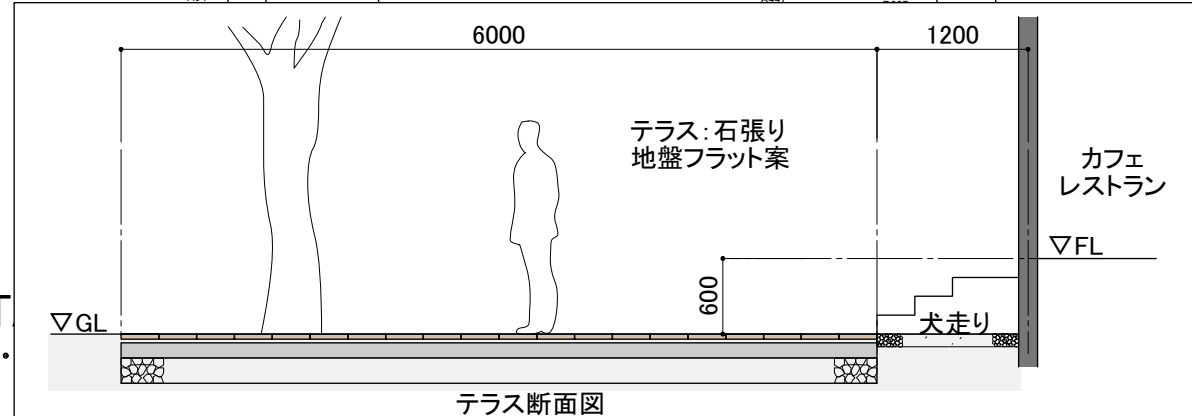
誘導サイン
車いす用駐車場

前庭広場
札幌軟石張り

テラス: 札幌軟石張り
地盤フラット案

旧永山武四郎邸

外構図
南側テラス地盤フラット案



6000

1200

テラス: 石張り
地盤フラット案

カフェ
レストラン

犬走り

テラス断面図





現況サイン配置図

0 5 10 20



【案内・注意サイン】
開館・閉館時間と火気注意喚起



【誘導サイン】
入口の誘導



【名称サイン】
旧永山邸を示す



【名称サイン】
永山記念公園を示す



10-9525 北3条線

10-0003 北2条線

10-9509 東7丁目線

【名称サイン】
永山記念公園を示す



【名称・案内サイン】
旧永山邸・開館時間を表示



【名称サイン】
旧永山邸を示す



構内札幌
神社

サッポロファクトリー

【案内サイン】
ファクトリーの配置案内と周辺地図



【案内サイン】
札幌市全体の地図と主な施設位置

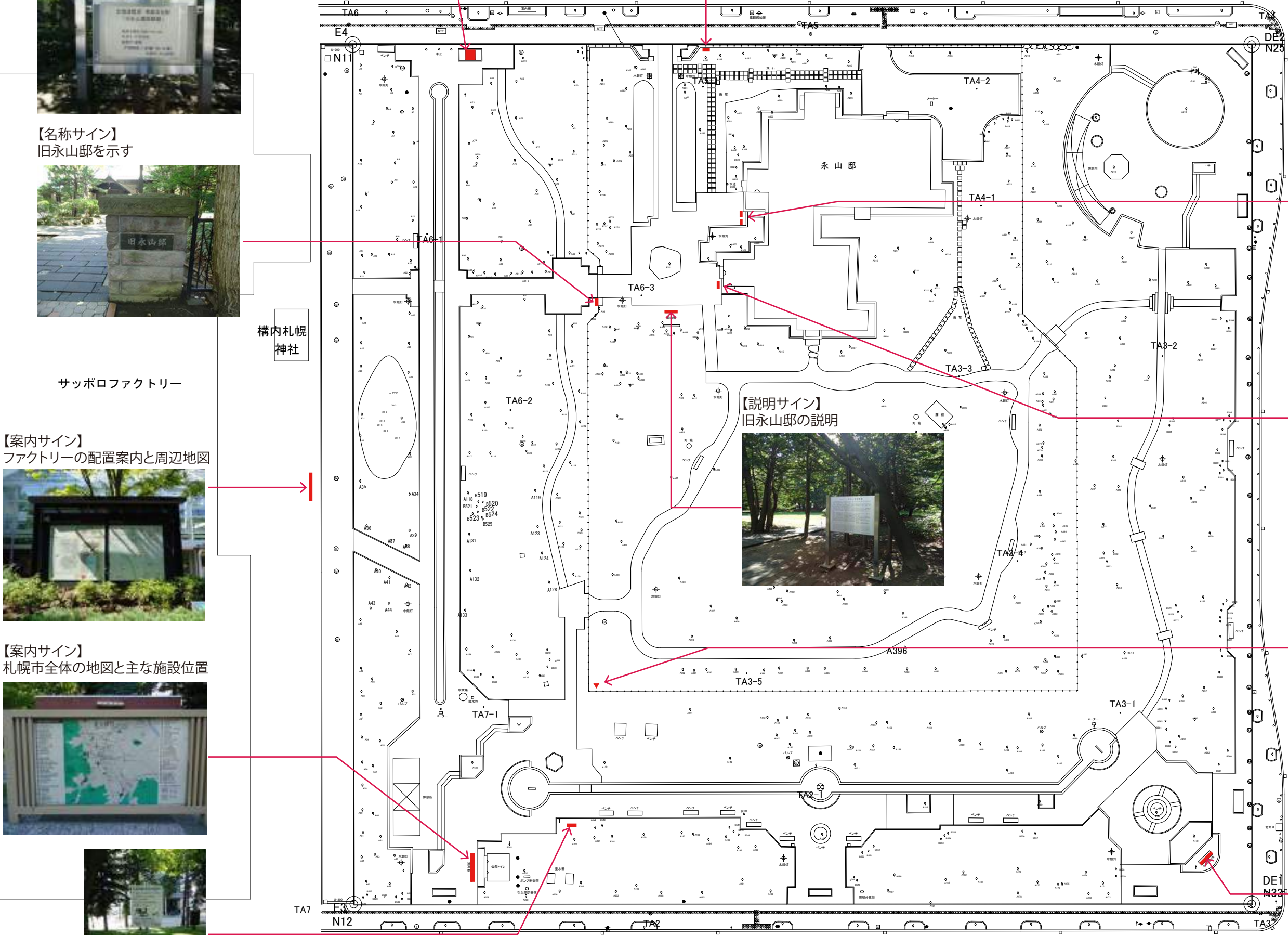


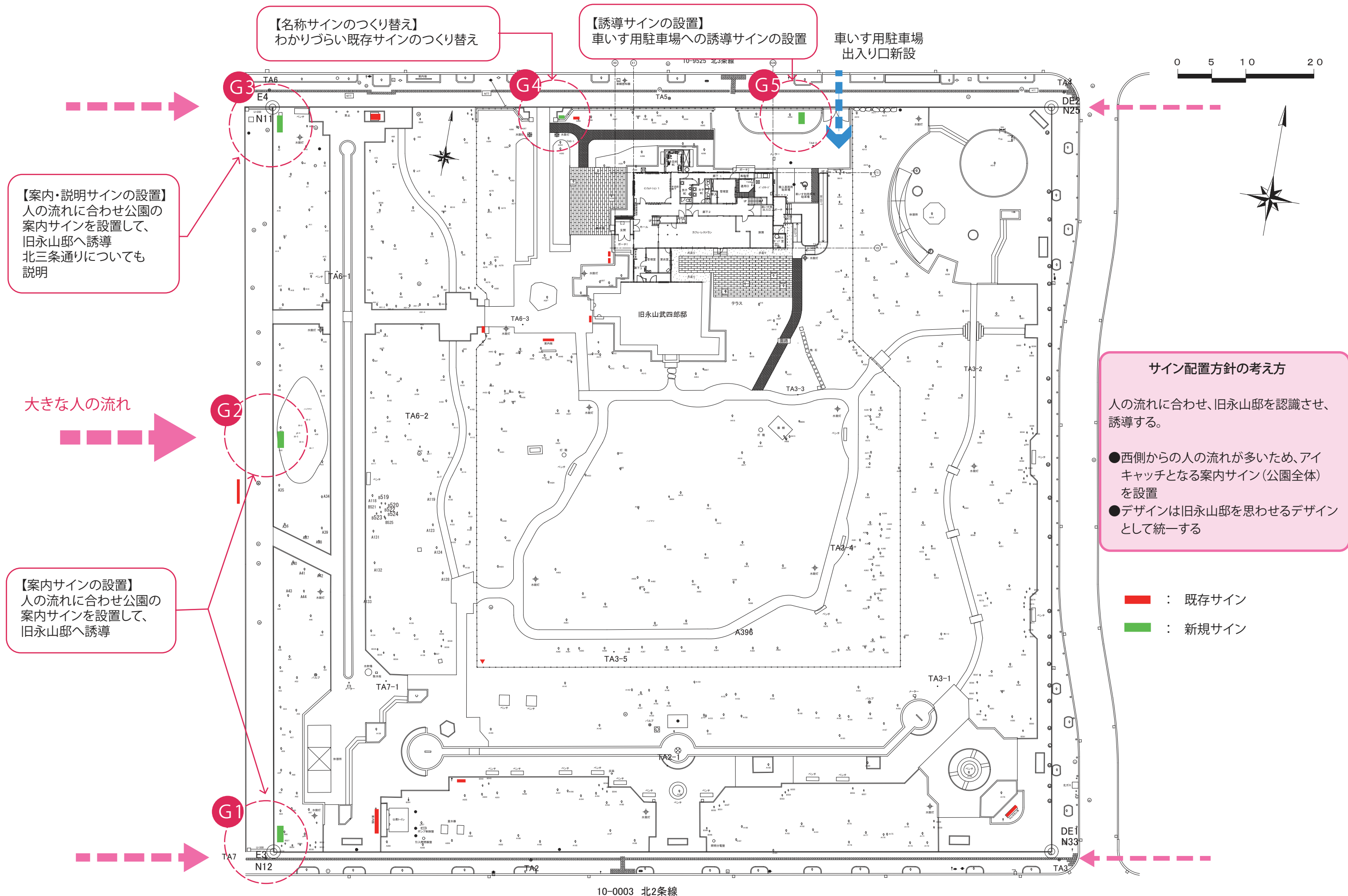
【注意サイン】
犬・猫の飼い主に対する注意喚起



永山邸

【説明サイン】
旧永山邸の説明





【名称サインのつくり替え】
わかりづらい既存サインのつくり替え

【誘導サインの設置】
車いす用駐車場への誘導サインの設置

車いす用駐車場
出入口新設

【案内・説明サインの設置】
人の流れに合わせて公園の案内サインを設置して、旧永山邸へ誘導
北三条通りについても説明

【案内サインの設置】
人の流れに合わせて公園の案内サインを設置して、旧永山邸へ誘導

サイン配置方針の考え方

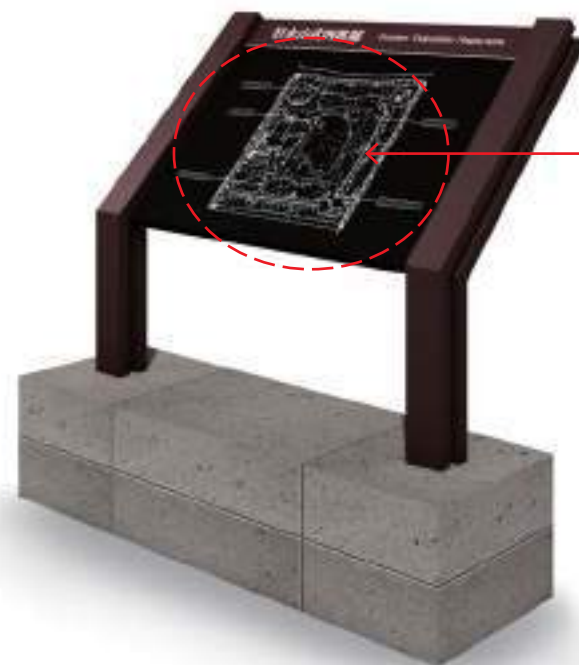
人の流れに合わせて、旧永山邸を認識させ、誘導する。

- 西側からの人の流れが多いため、アイキャッチとなる案内サイン(公園全体)を設置
- デザインは旧永山邸を思わせるデザインとして統一する

■ : 既存サイン
■ : 新規サイン

G1 G2 案内サイン (全体寸法: W1300×D700×H1200 盤面寸法: W900×H700)

公園全体のマップサインにより
旧永山邸及び旧三菱鉱業寮の位置
を明確にし、誘導する。



公園全体マップ

G3 案内・説明サイン (全体寸法: W1800×D400×H1500 盤面寸法: W1500×H800)

公園全体のマップサインにより
旧永山邸及び旧三菱鉱業寮の位置
を明確にし、誘導する。
また、北3条通りの歴史について
も説明する。



公園全体マップ

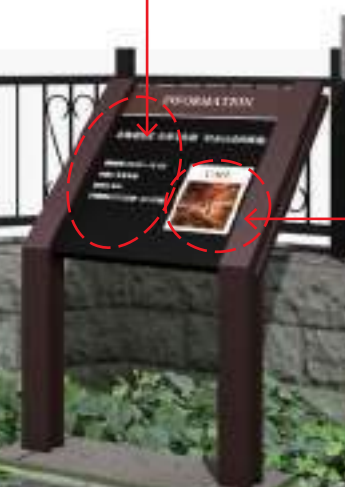
北3条通りマップ

北3条通り解説

G4 名称サイン (全体寸法: W900×D500×H1200 盤面寸法: W600×H600)

旧永山邸および旧三菱鉱業寮施設名称等

旧永山邸及び旧三菱鉱業寮
の名称、開館時間等の情報
カフェ・レストランの名称
等のスペースを設置。

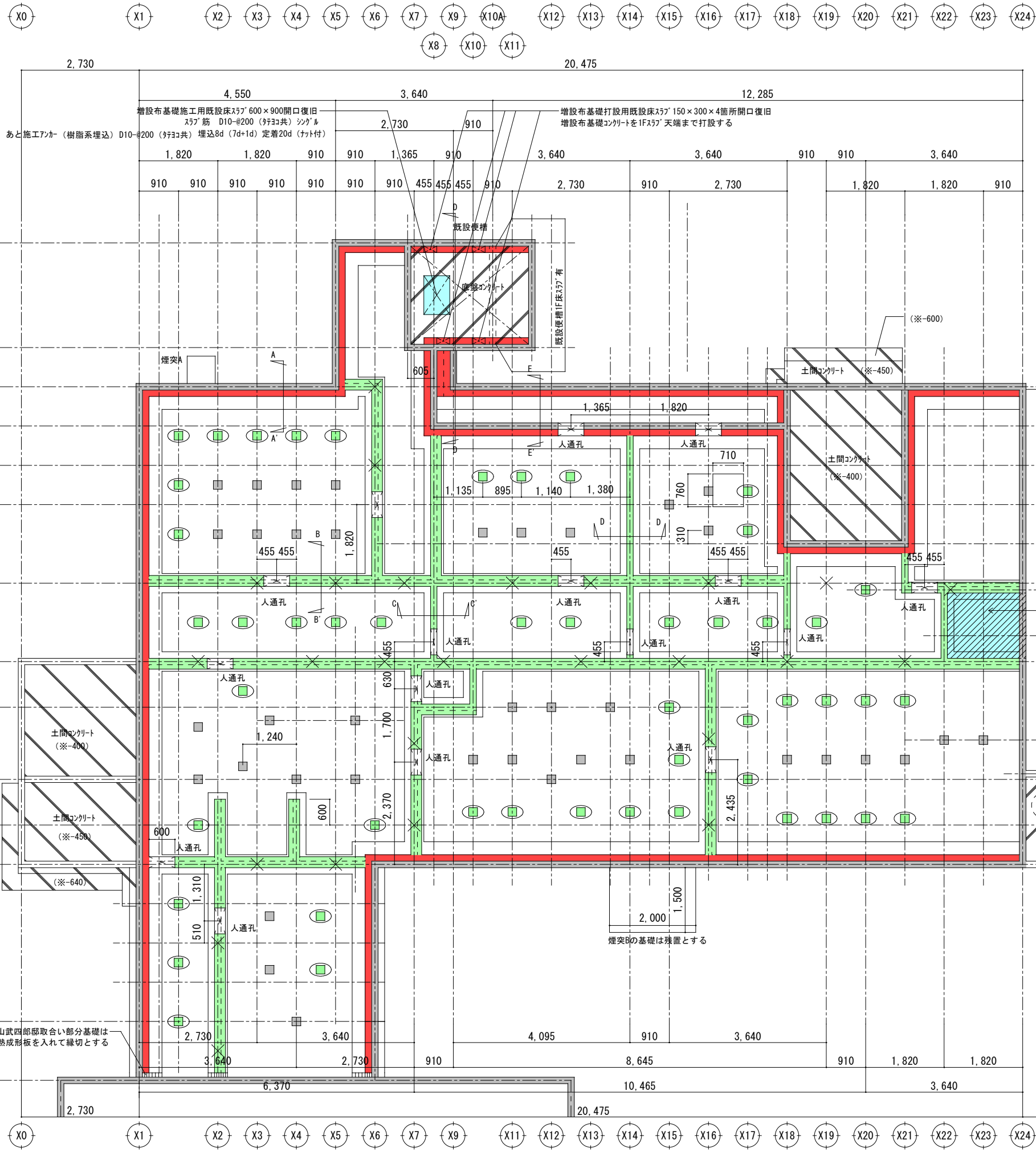


カフェ・レストラン
スペース

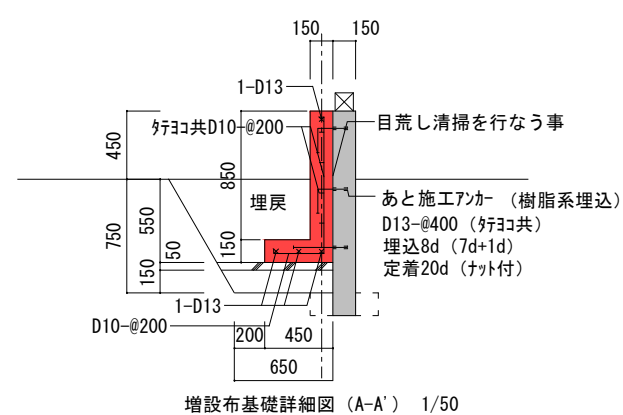
G5 誘導サイン (全体寸法: W900×D300×H2100 盤面寸法: W500×H1800)

車いす利用者への誘導サイン

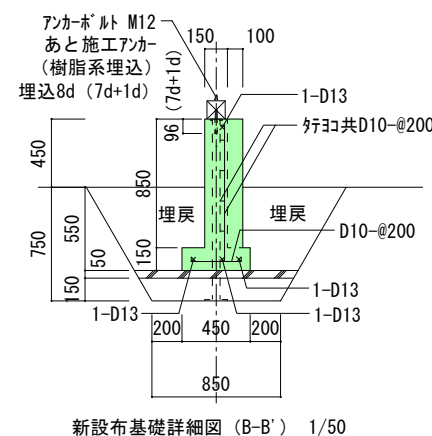




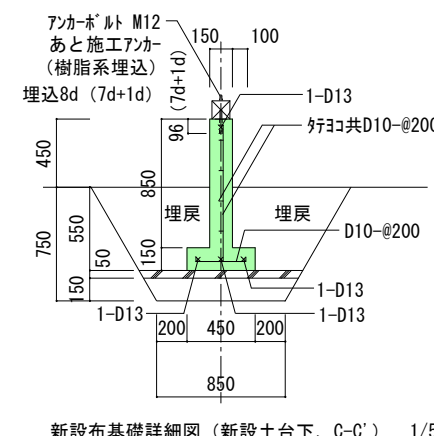
- 凡 例
- 既設布基礎
 - 既設コンクリート東石 天端200口
東石天端 床下GL+※450程度
 - ▨ 既設コンクリート底盤 (想定)
床レベルは既設廊下FLからとする
 - ▩ 既設土間コンクリート (想定)
床レベルは既設廊下FLからとする
 - 新設布基礎
 - 増設布基礎
 - 新設土間、スラブ 補修
 - ⊠ 人通路 600x450
 - ⊗ 既設東石撤去に伴う仮設支持金物を示す
既設東石撤去後に速やかに仮設支持金物を設置すること
 - ⊙ 既設東石一時撤去後復旧を示す
既設東石撤去後に速やかに仮設型枠等
を設置して基礎打設埋戻後復旧とする



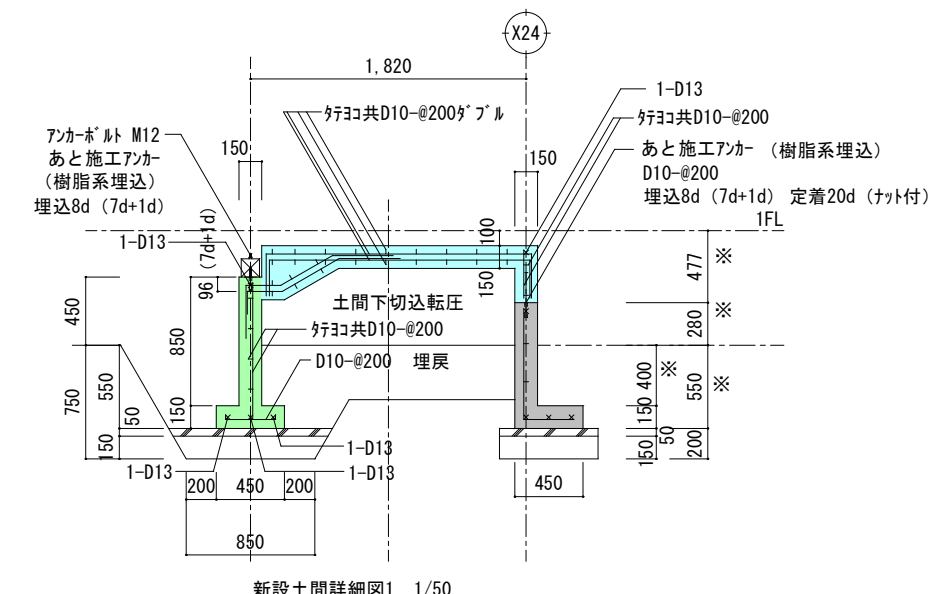
増設布基礎詳細図 (A-A') 1/50



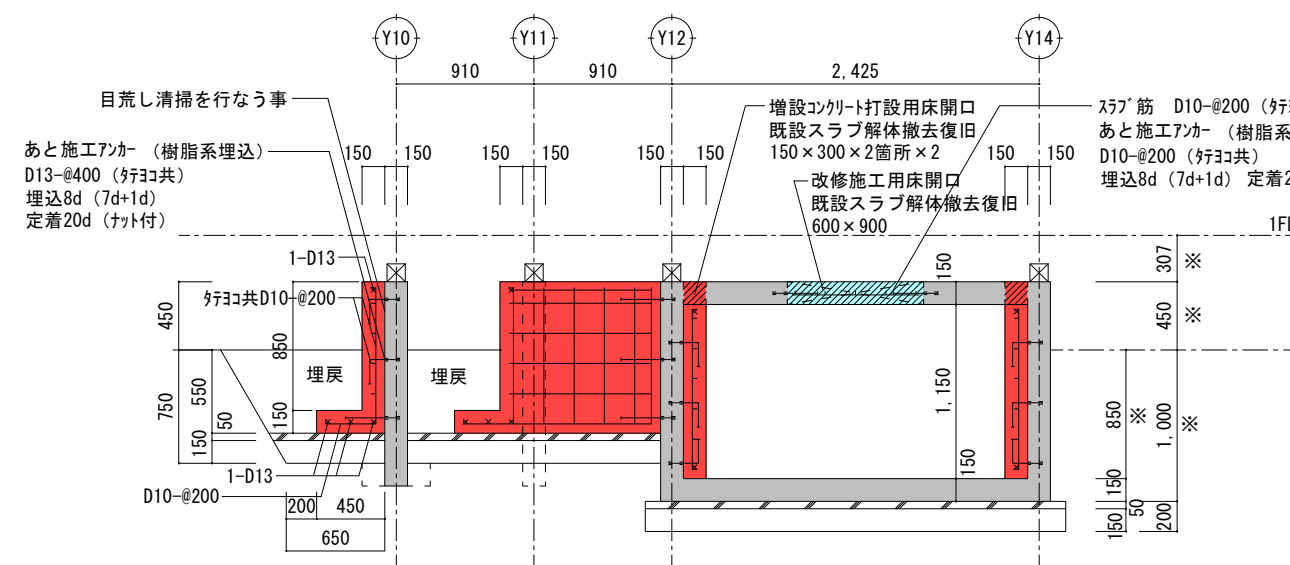
新設布基礎詳細図 (B-B') 1/50



新設布基礎詳細図 (新設土台下、C-C') 1/50

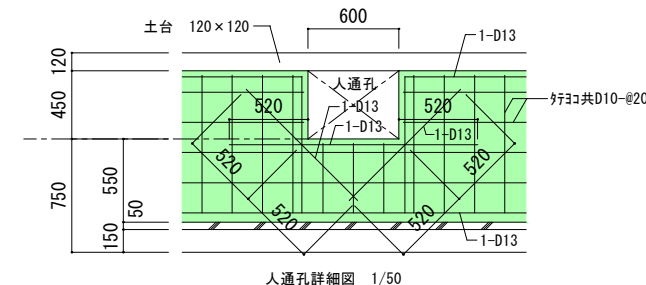


新設土間詳細図1 1/50

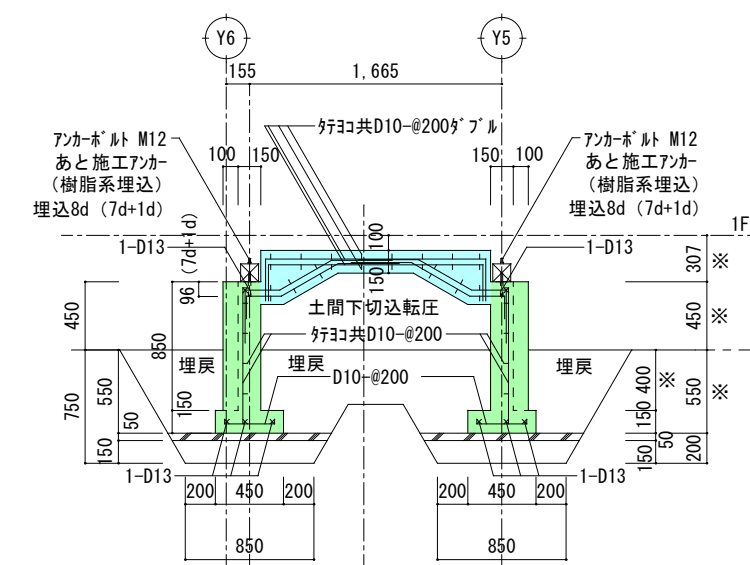


増設布基礎詳細図 1/50

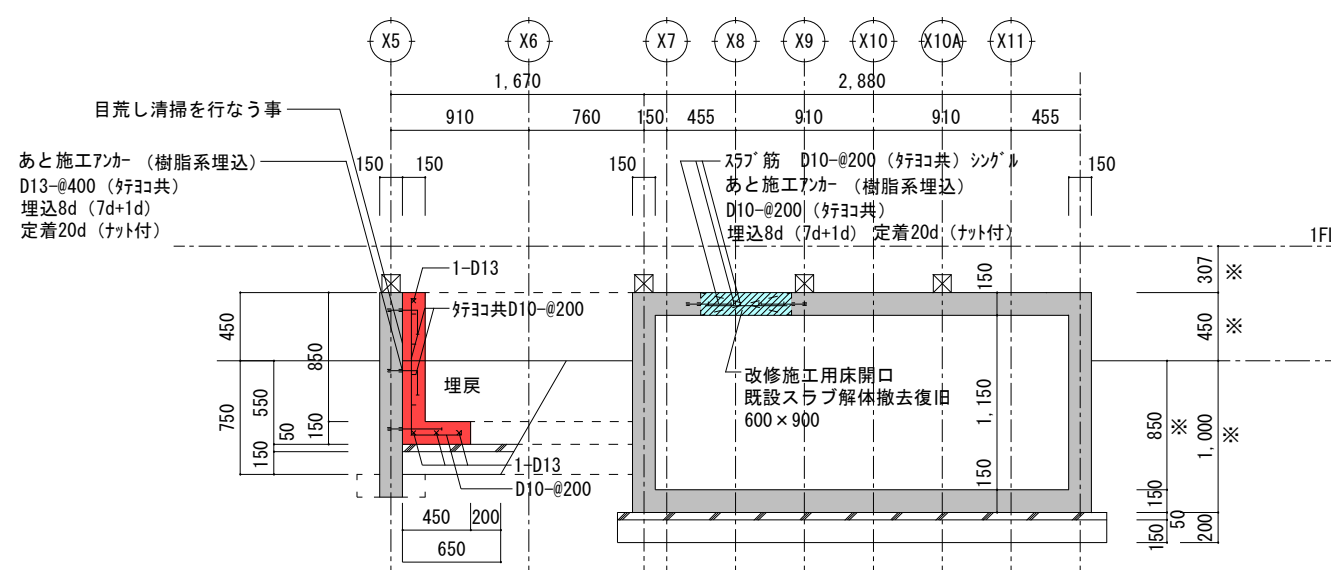
既設便槽廻り改修詳細図 (C-C') 1/50
(改修配筋は増設布基礎詳細図と同じとする)



人通り詳細図 1/50

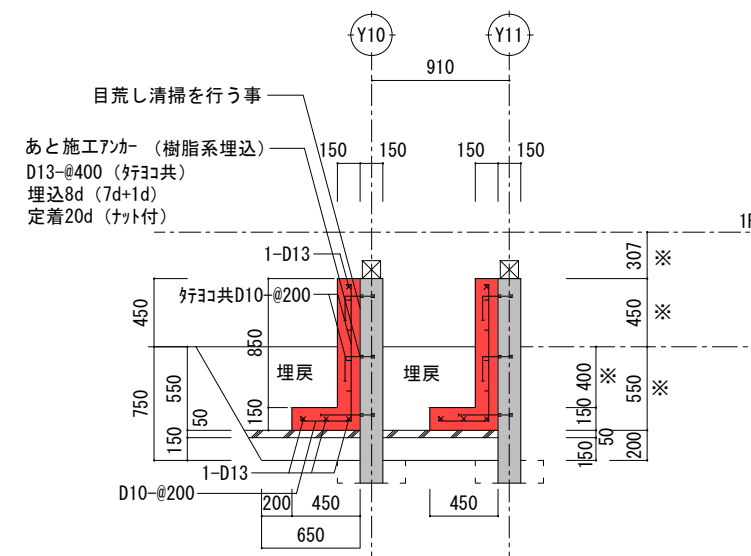


新設土間詳細図2 1/50



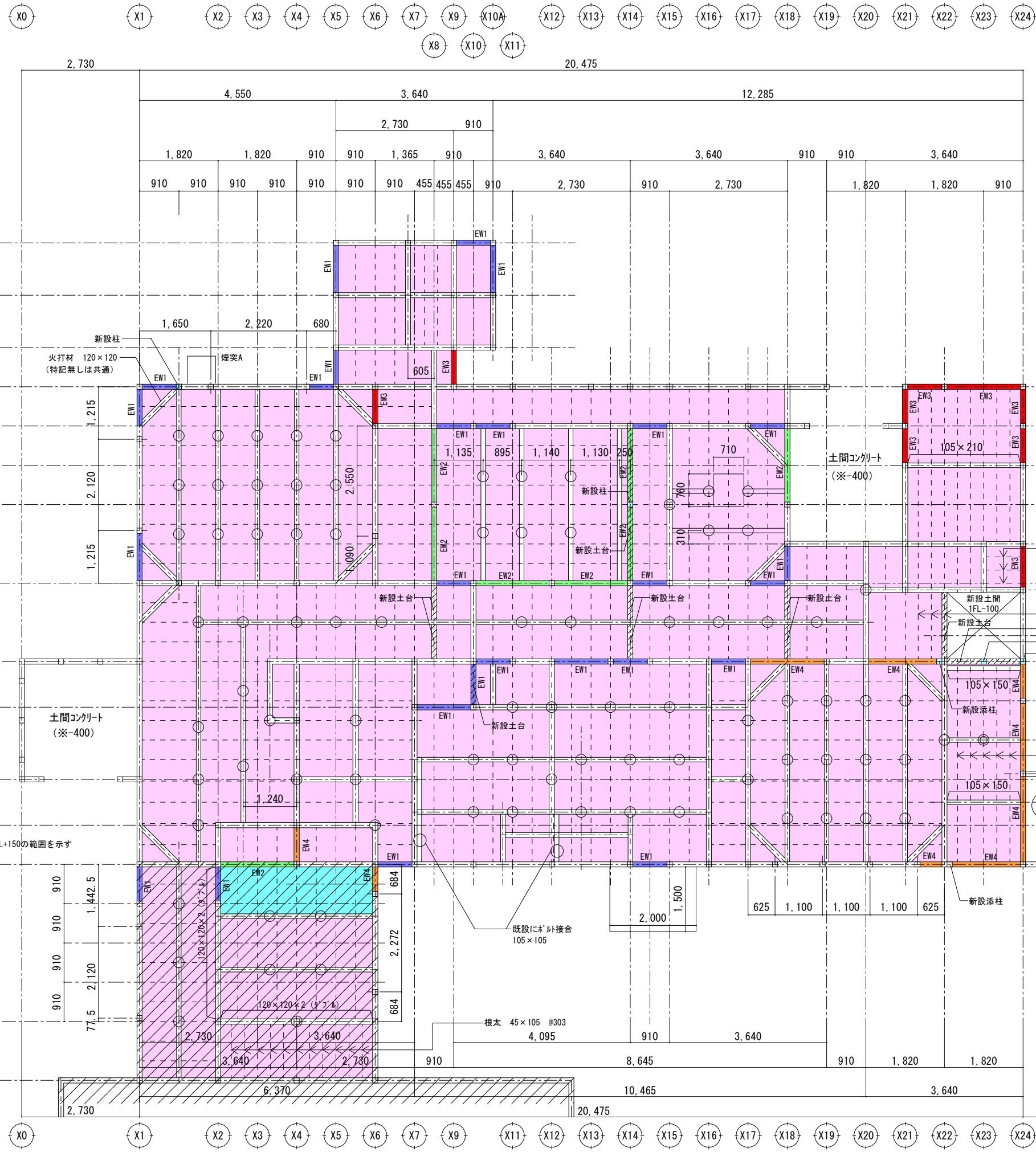
増設布基礎詳細図 1/50

既設便槽廻り改修詳細図 1/50



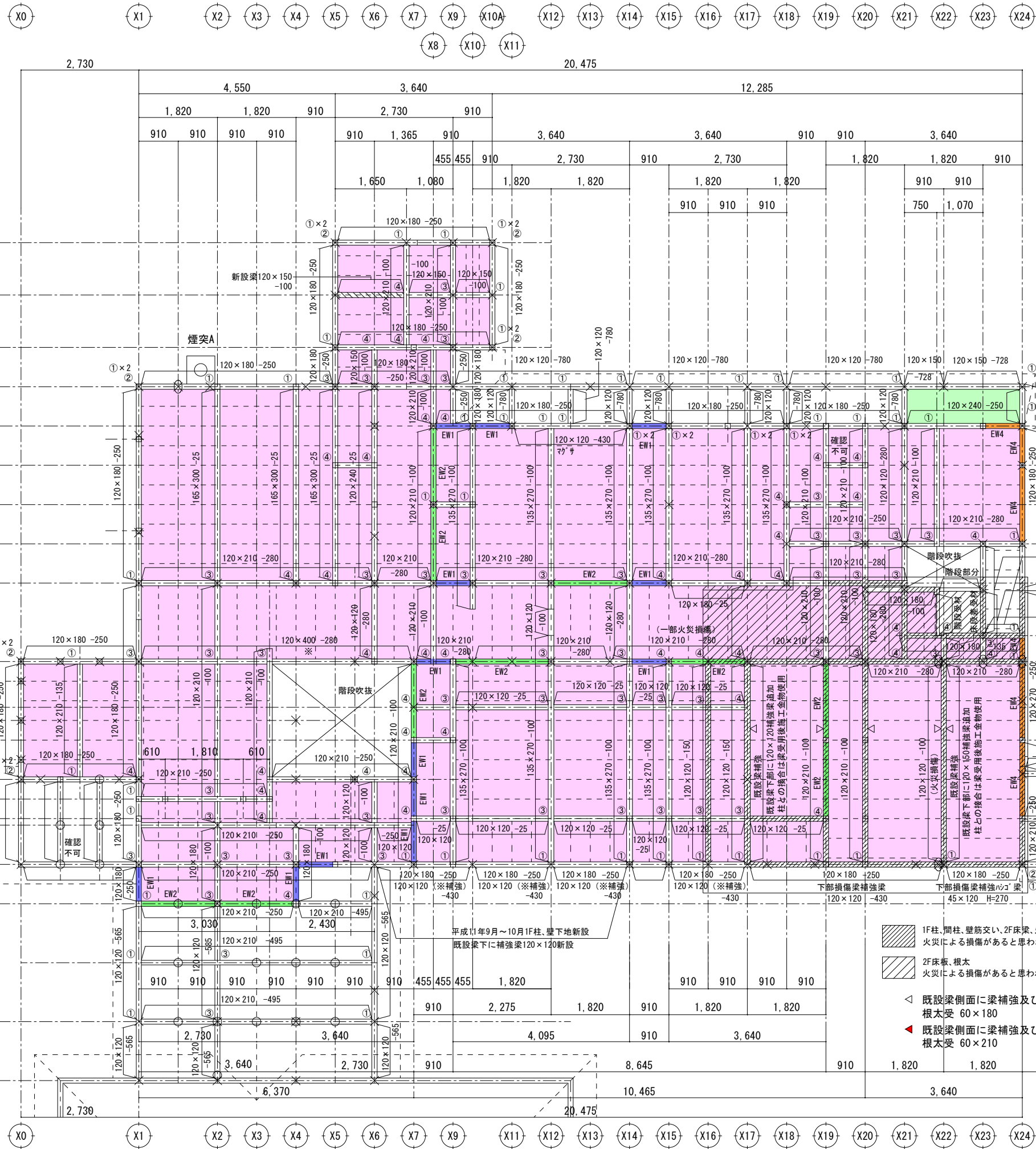
増設布基礎詳細図 (E-E') 1/50

- 凡例
- 既設布基礎・既設躯体
 - 新設布基礎
 - 増設布基礎
 - 新設土間、スワ'補修



- ※文字記号の記入のある位置が施工方向とする
- EW1: SRF工法 (真壁・1Pタイプ) 耐力壁
 - EW2: SRF工法 (真壁・2Pタイプ) 耐力壁
 - EW3: SRF工法 (上下開口タイプ) 準耐力壁
 - EW4: 在来工法 (真壁) 準耐力壁
 - 水平構面補強 (1F床面から施工)
- ※床面の水平構面補強後、解体した根太・床下地材・床仕上げ材は復旧のこと

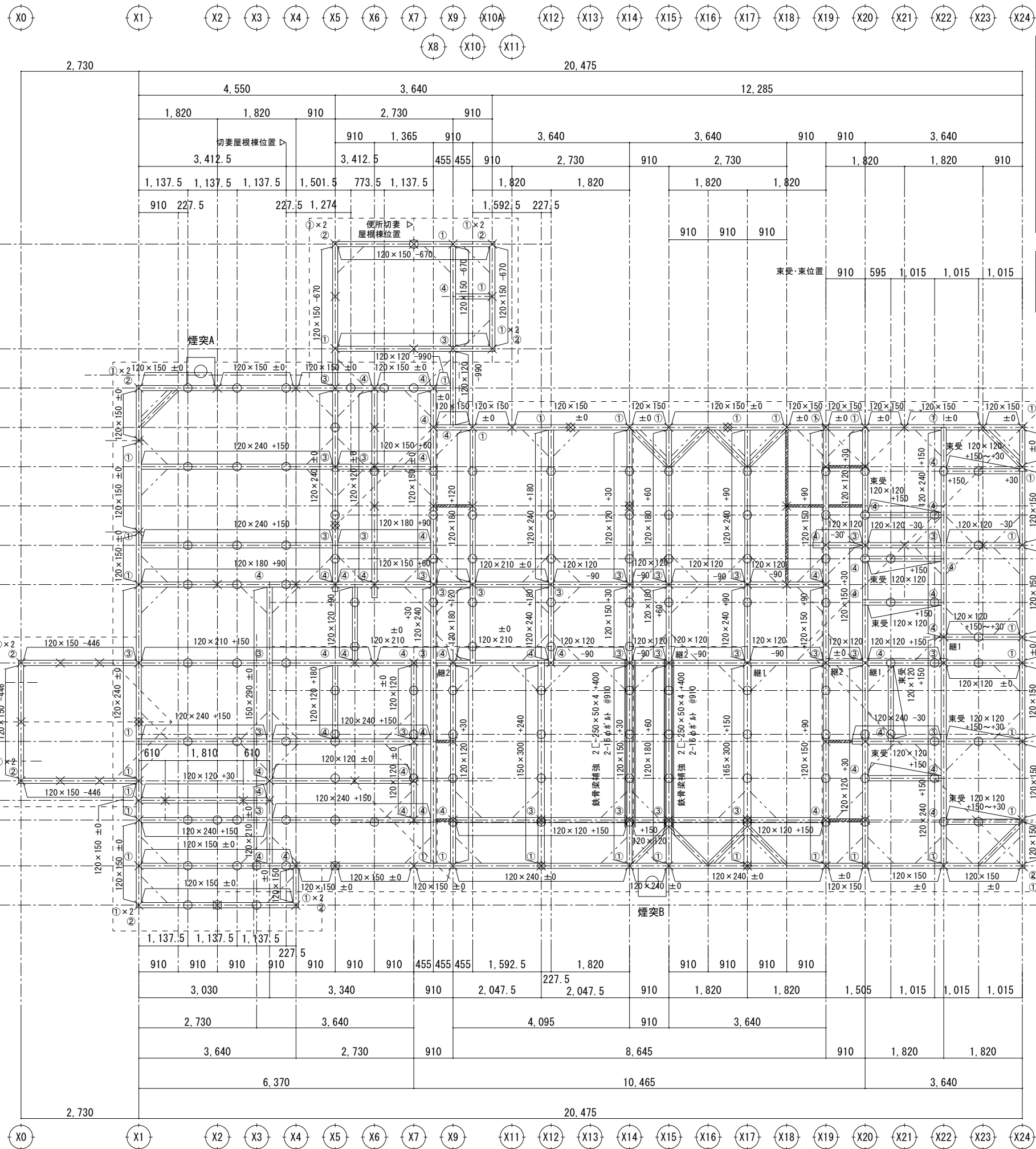
- 凡例
- 既設土台 120×120
 - 既設土台・床梁図示寸法
 - 既設大引 105×105
 - 既設大引図示寸法
 - 既設根太復旧 55×55 @455
 - 既設根太に図示寸法がある場合は図示寸法による
 - 既設コンクリート東石 天端200φ
 - 既設木製東石 120×120
 - 既設1F柱 120×120
 - 新設土台 120×120
 - 新設1F柱 120×120
 - EW 耐力壁



2F床構架材補強金物凡例	
記号	金物名
①	レコン金物羽子板セット (かじ)
②	リフォーム用羽子板セット (分)
③	かね折金物 (スクリュー釘 2-ZS50) ※内側からの施工
④	対応両引き羽子板金物
⑤	対応片引き羽子板金物

- ※上記金物は参考例
- ※文字記号の記入のある位置が施工方向とする
- EW1:SRF工法 (真壁・IPタイプ) 耐力壁
 - EW2:SRF工法 (真壁・2Pタイプ) 耐力壁
 - EW3:SRF工法 (上下開口タイプ) 準耐力壁
 - EW4:在来工法 (真壁) 準耐力壁
 - 水平構面1 (2F床面から施工)
 - 水平構面2 (1F天井面撤去して施工)

- 凡例
- 1F柱、間柱、壁筋交い、2F床梁、火打材
火災による損傷があると思われる範囲
 - 2F床板、根太
火災による損傷があると思われる範囲
 - △ 既設梁側面に梁補強及び根太受 60×180
 - ◁ 既設梁側面に梁補強及び根太受 60×210
 - 既設梁を示す
 - ▨ 既設火打材105×105を示す
 - 既設小屋束受を示す
 - × 既設2F柱120×120を示す
 - 既設1F柱120×120を示す
 - 既設小屋束105×105を示す
 - 既設根太60×105 @455を示す
 - ⊗ 新設1F柱120×120を示す



2F床横架材補強金物凡例	
記号	金物名
①	レコン金物羽子板セット (おかし)
	リフォーム用羽子板セット (おかし)
②	かね折金物 (スクリュー釘 2-ZS50) ※内側からの施工
③	◎ 対応両引き羽子板金物
④	◎ 対応片引き羽子板金物

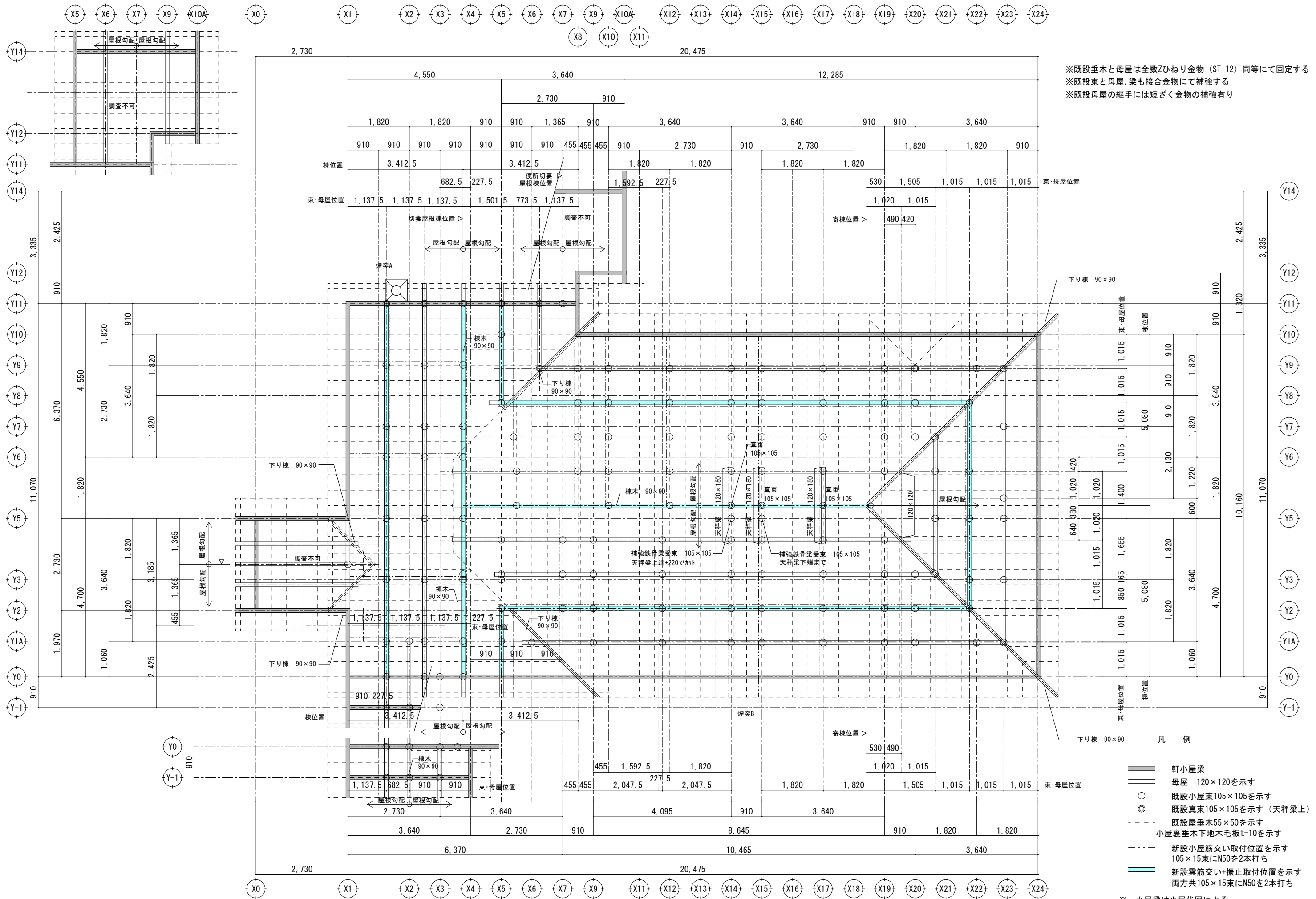
※上記金物は参考例

小屋横架材水平 (火打) 補強金物凡例	
記号	金物名
---	トラス材-600 (おかし) 補強数量120箇所
---	ビス止め材 火打600 (おかし)

※上記金物は参考例

継1: 腰掛け継ぎ
 継2: 両面添木 (L=930, t=60) 材継ぎ
 1段4列-9φ材 @150

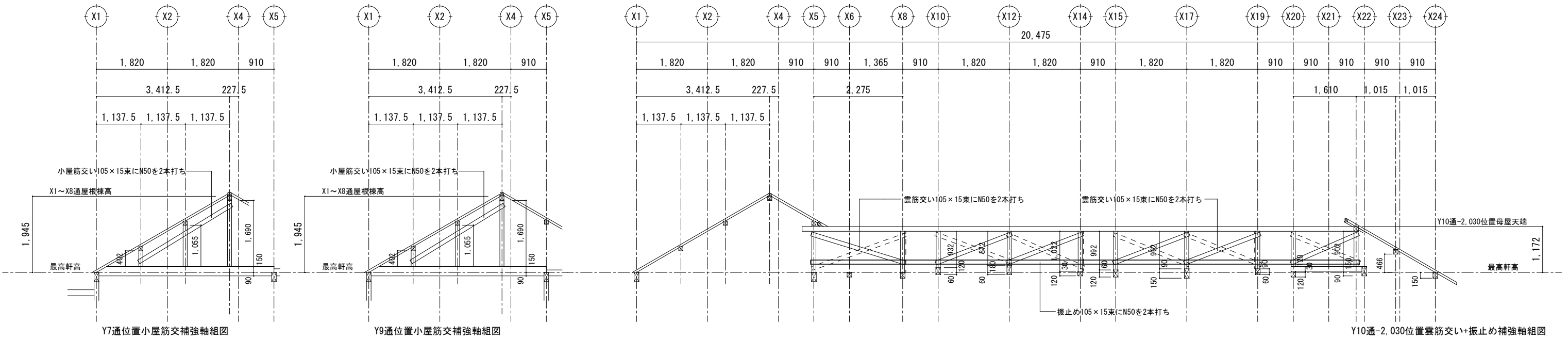
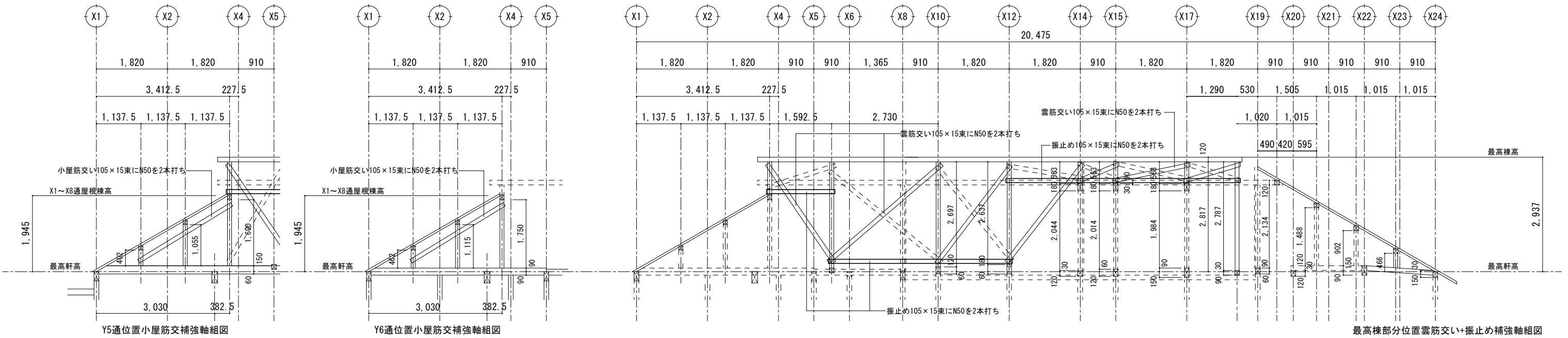
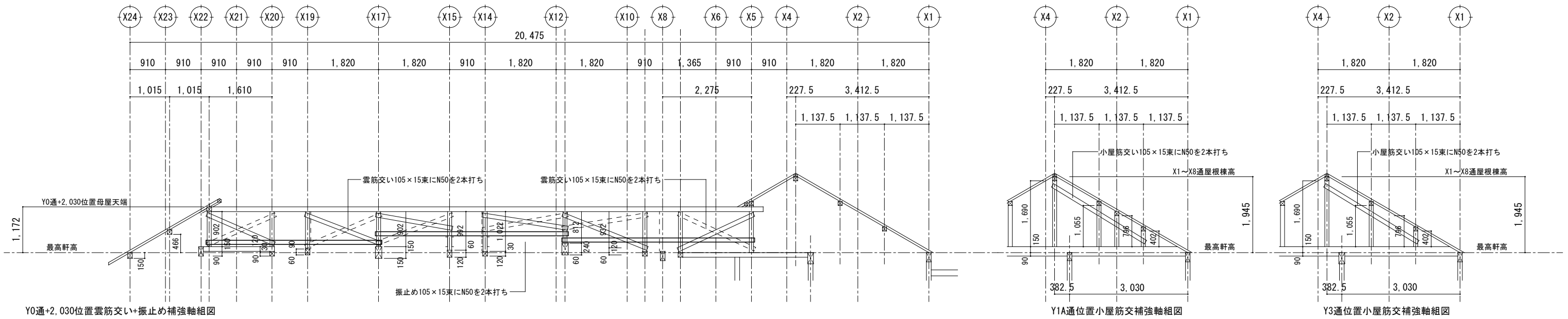
- 凡例
- 既設梁を示す
 - 既設小屋束受を示す
 - 既設火打材105×105を示す
 - 新設火打材施工時は一時撤去して復旧とする
 - 既設小屋束105×105を示す
 - 既設2Fマ"上柱120×120を示す
 - 既設2Fマ"上柱120×120を示す
 - 既設土壁位置を示す
 - 既設屋根軒先、棟位置を示す
 - 小屋裏垂木下地木毛板t=10を示す
- ※ 小屋組は屋根伏図による
 ※ 小屋組は梁通し工法と思われる



※既設垂木と母屋は全数Zひねり金物 (ST-12) 同等にて固定する
 ※既設束と母屋、梁も接合金物にて補強する
 ※既設母屋の継手には短ざく金物の補強有り

- 凡 例
- 軒小屋梁
 - 母屋 120×120を示す
 - 既設小屋束105×105を示す
 - ◎ 既設真束105×105を示す (天秤梁上)
 - - - 既設屋垂木55×50を示す
 - - - 小屋根垂木下地木毛板t=10を示す
 - - - 新設小屋筋交い取付位置を示す
 - - - 105×15束にN50を2本打ち
 - 新設雲筋交い+振止取付位置を示す
 - 両方共105×15束にN50を2本打ち

※ 小屋梁は小屋伏図による



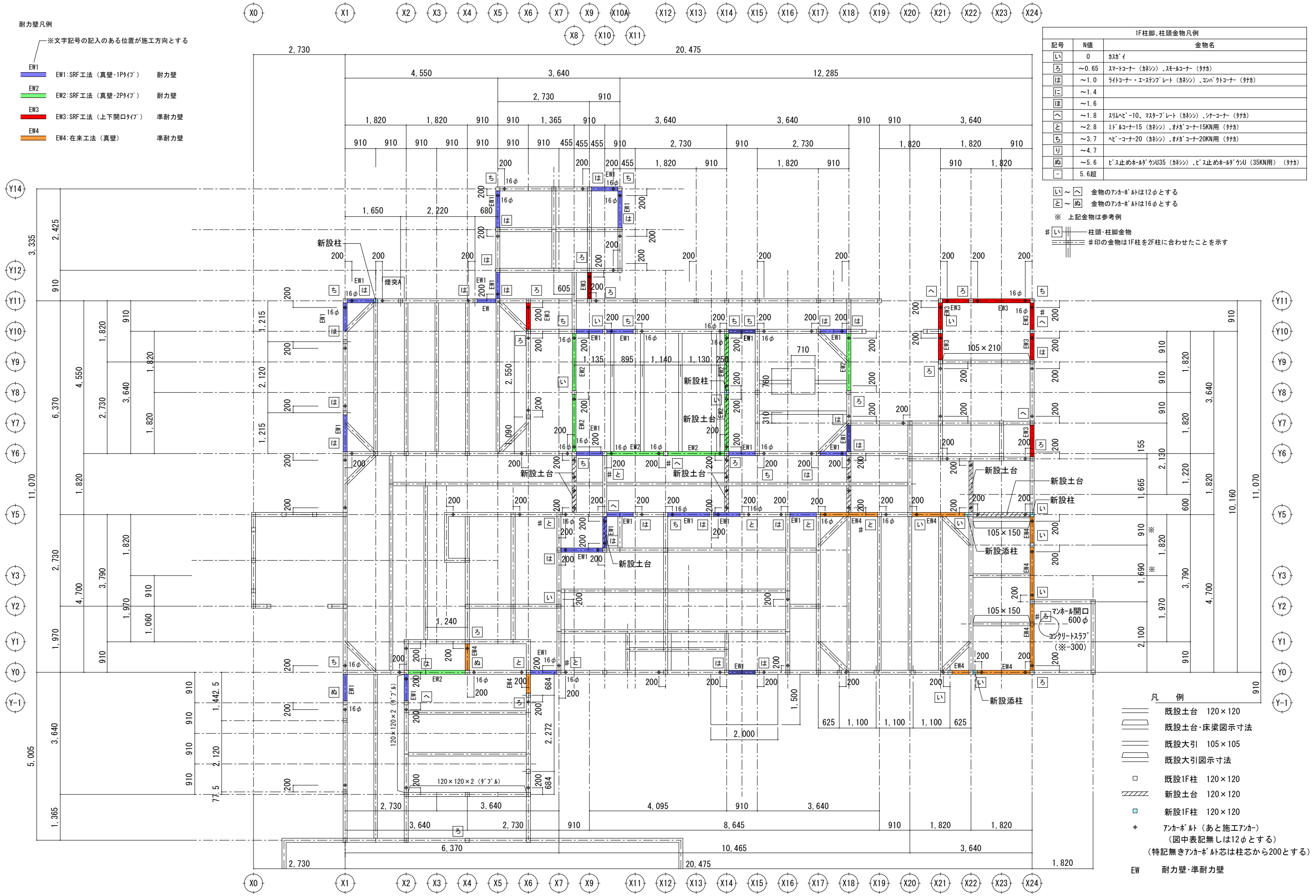
※ 小屋梁は小屋伏図による

耐力壁凡例

- ※文字記号の記入のある位置が施工方向とする
- EW1: SRF工法 (真壁・1Pタイプ) 耐力壁
 - EW2: SRF工法 (真壁・2Pタイプ) 耐力壁
 - EW3: SRF工法 (上下開口タイプ) 準耐力壁
 - EW4: 在来工法 (真壁) 準耐力壁

1F柱脚、柱頭金物凡例		
記号	N値	金物名
い	0	カガキ
ろ	~0.65	スタートコーナ (樹脂)、スタートコーナ (鉄)
は	~1.0	ライトコーナ・エクスプレッド (樹脂)、コンパクトコーナ (鉄)
に	~1.4	
は	~1.6	
へ	~1.8	スリムベ-10、マスタープレート (樹脂)、シナコーナ (鉄)
と	~2.8	ミッドコーナ-15 (樹脂)、オメガコーナ-15KN用 (鉄)
ち	~3.7	ベ-コーナ-20 (樹脂)、オメガコーナ-20KN用 (鉄)
り	~4.7	
ぬ	~5.6	ビス止めネ-ルダ'カウル35 (樹脂)、ビス止めネ-ルダ'カウル (35KN用) (鉄)
-	5.6超	

- い ~ へ 金物のアカギ'ルトは12φとする
- と ~ ぬ 金物のアカギ'ルトは16φとする
- ※ 上記金物は参考例
- # い 柱頭・柱脚金物
- #印の金物は1F柱を2F柱に合わせたことを示す

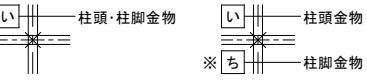


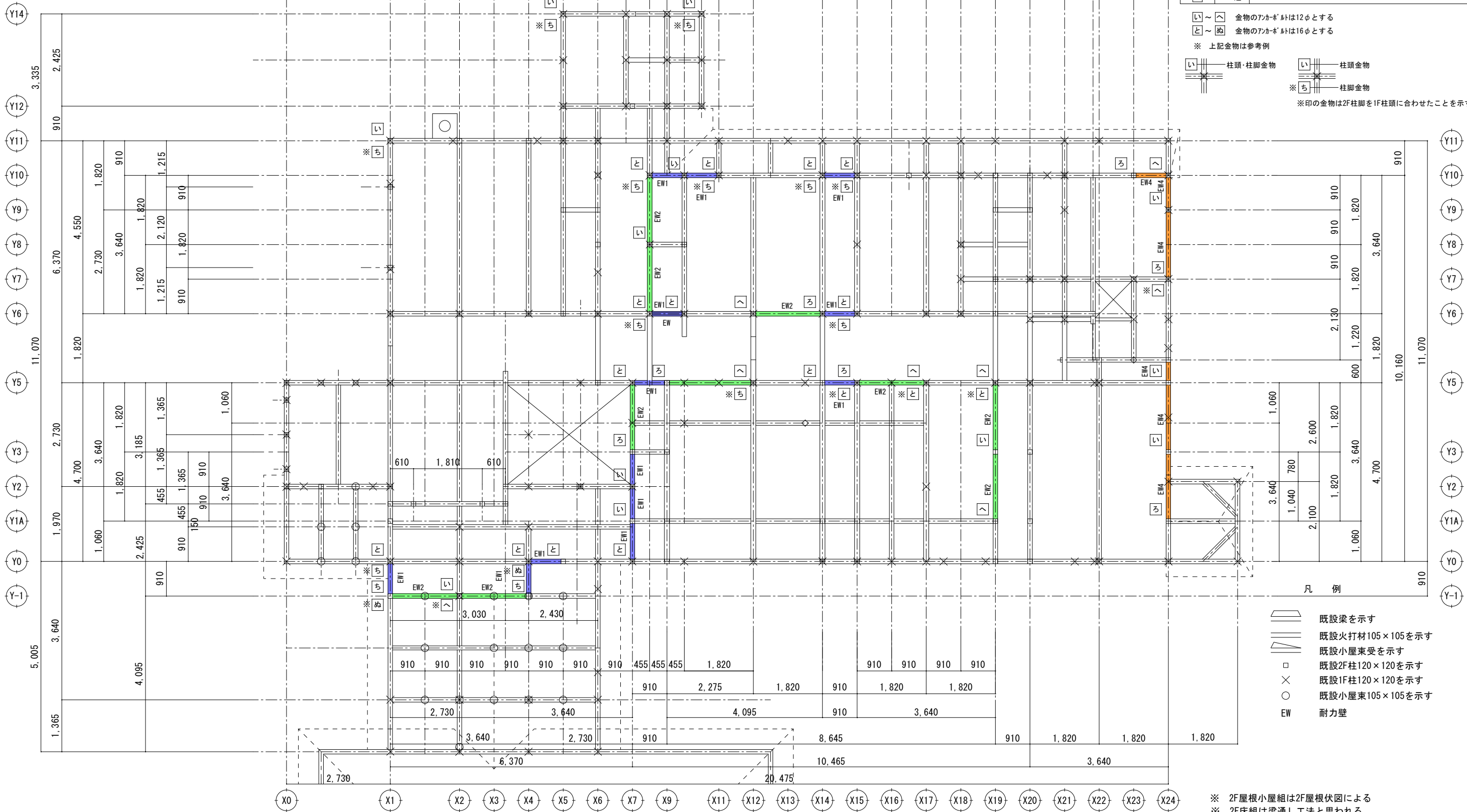
- 凡例
- 既設土台 120×120
 - 既設土台・床梁図示寸法
 - 既設大引 105×105
 - 既設大引図示寸法
 - 既設1F柱 120×120
 - 新設土台 120×120
 - 新設1F柱 120×120
 - アンカボルト (あと施工アンカ)
 - (図中表記無しは12φとする)
 - (特記無きアンカボルト志は柱芯から200とする)
 - EW 耐力壁・準耐力壁

X0 X1 X2 X3 X4 X5 X6 X7 X9 X10A X12 X13 X14 X15 X16 X17 X18 X19 X20 X21 X22 X23 X24

- 耐力壁凡例
- ※文字記号の記入のある位置が施工方向とする
- EW1 EW1:SRF工法(真壁・1Pタイプ) 耐力壁
 - EW2 EW2:SRF工法(真壁・2Pタイプ) 耐力壁
 - EW3 EW3:SRF工法(上下開口タイプ) 準耐力壁
 - EW4 EW4:在来工法(真壁) 準耐力壁

1F柱脚、柱頭金物凡例		
記号	N値	金物名
い	0	カネガイ
ろ	~0.65	スマートコーナー(カネシマ)、スモコーナー(分科)
は	~1.0	ライトコーナー(カネシマ)、コンパクトコーナー(分科)
に	~1.4	
ほ	~1.6	
へ	~1.8	スリムビ-10(カネシマ)、シーコーナー(分科)
と	~2.8	ミッドコーナー15(カネシマ)、オメガコーナー15KN用(分科)
ち	~3.7	ヘビ-コーナー20(カネシマ)、オメガコーナー20KN用(分科)
り	~4.7	
ぬ	~5.6	ビ-ス止めボルトウ35(カネシマ)、ビ-ス止めボルトウ35(35KN用)(分科)
ー	5.6超	

い~へ 金物のアカギは12φとする
 と~ぬ 金物のアカギは16φとする
 ※ 上記金物は参考例

 ※印の金物は2F柱脚を1F柱頭に合わせたことを示す

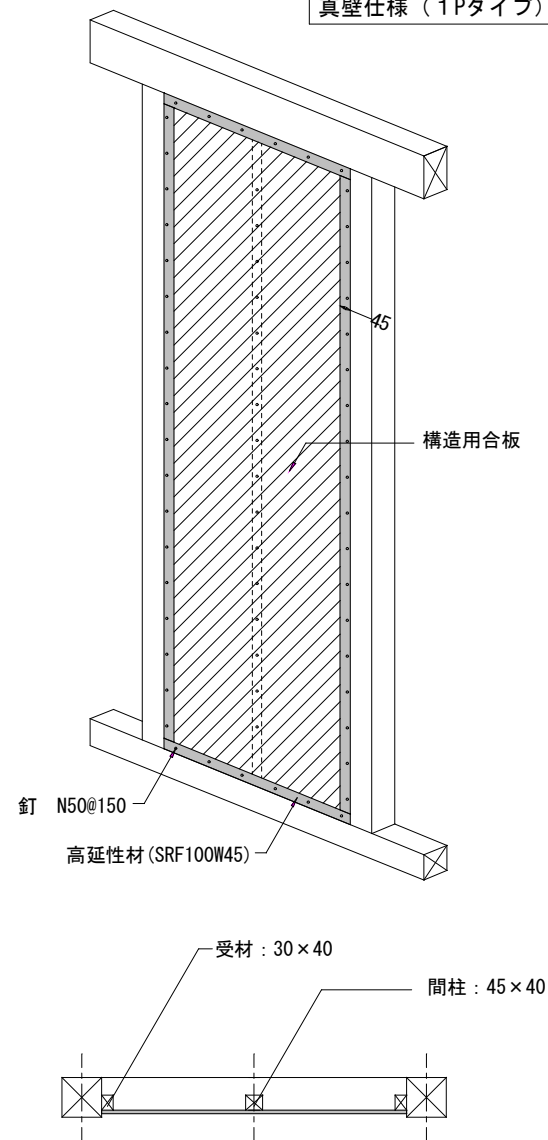


- 凡例
- 既設梁を示す
 - 既設火打材105×105を示す
 - 既設小屋束受を示す
 - 既設2F柱120×120を示す
 - 既設1F柱120×120を示す
 - 既設小屋束105×105を示す
 - EW 耐力壁

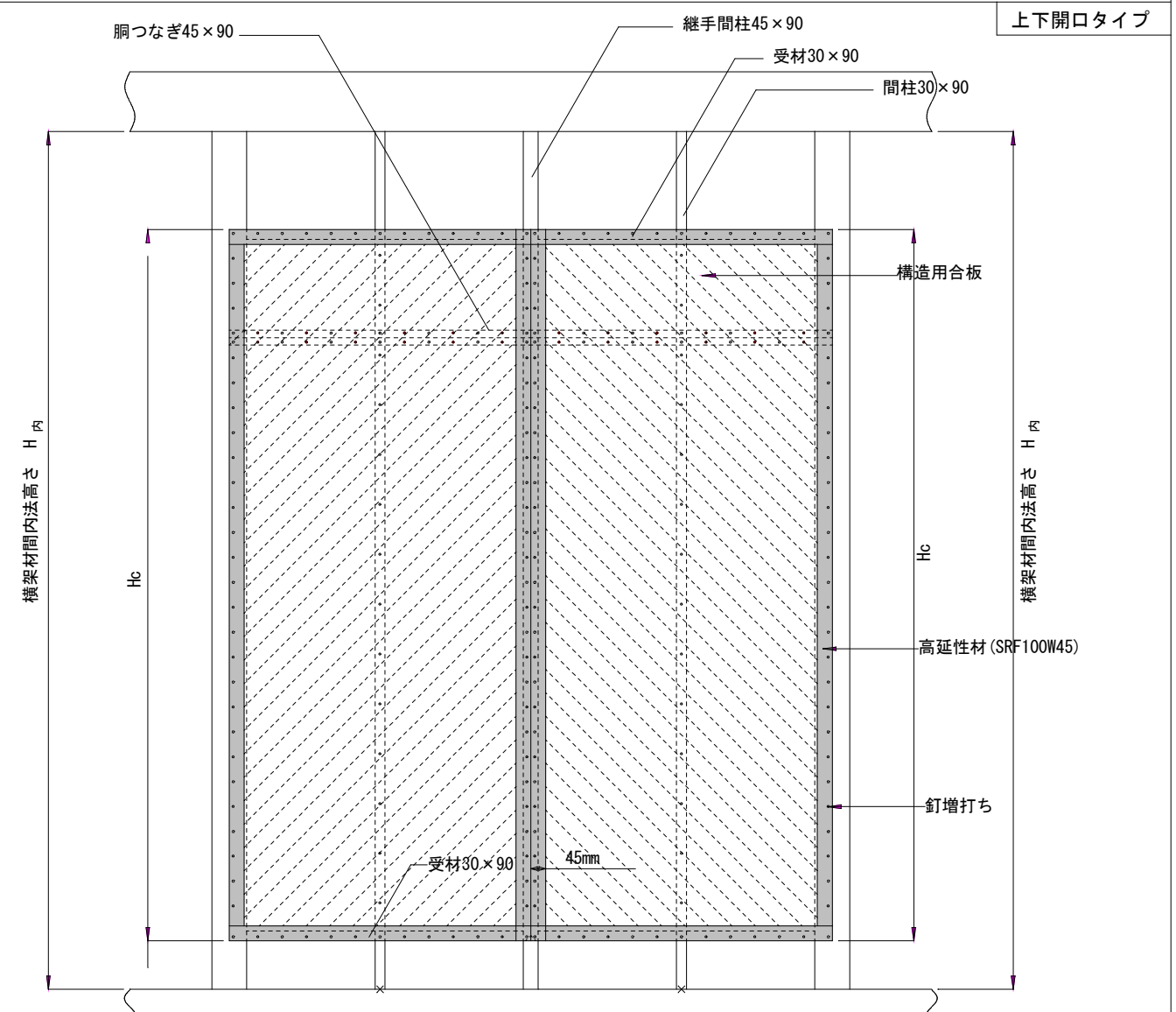
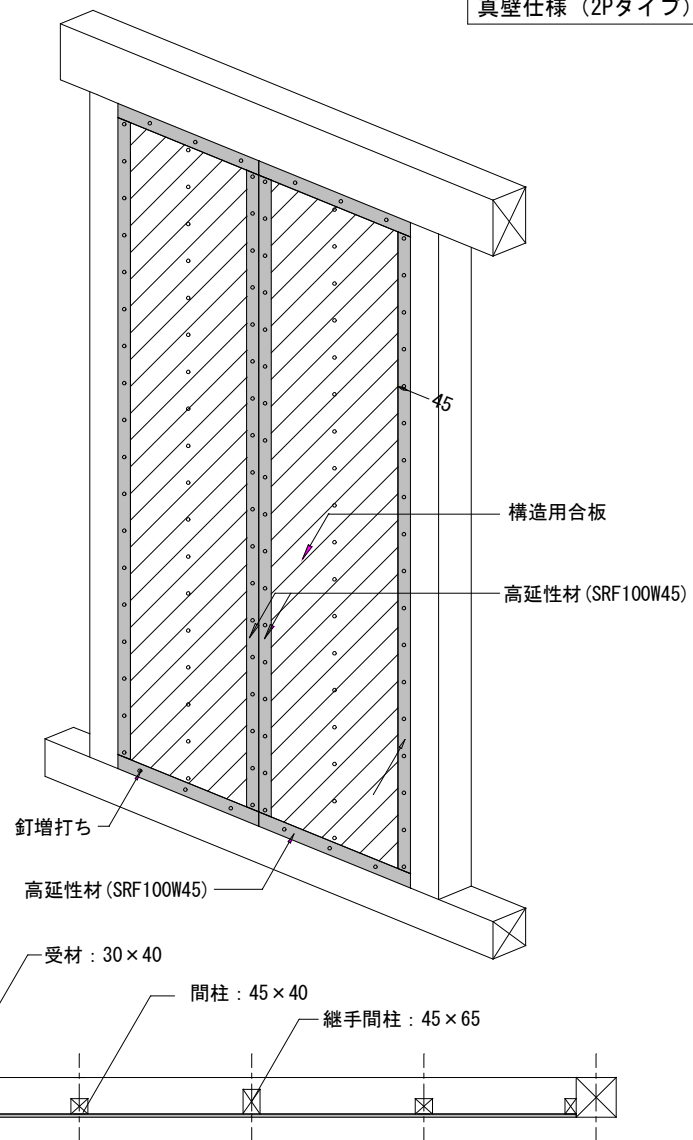
※ 2F屋根小屋組は2F屋根伏図による
 ※ 2F床組は梁通し工法と思われる

ポリエステル繊維壁補強標準図及び特記仕様

真壁仕様（1Pタイプ）

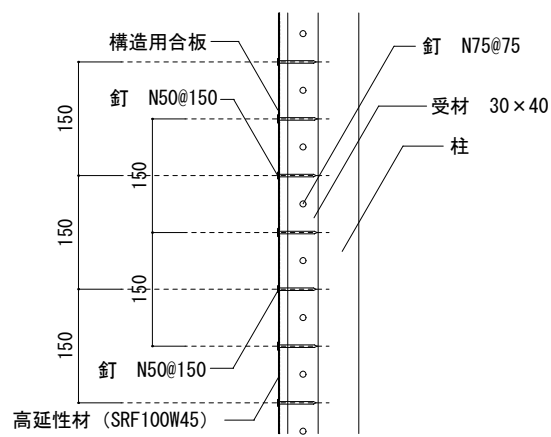


真壁仕様（2Pタイプ）



施工順序概要

- 柱に受材30×40を釘N75@75にて設ける
 - 受材に構造用合板t12を釘N50@150（告示に準ずる）にて設ける
 - 構造用合板全周に高延性材（SRF100W45）を貼り付ける
 - 高延性材（SRF100W45）の上から釘N50@150で増打ちする（増打ち釘は合板固定釘と位置をずらすこと）
- ※間柱に構造用合板は釘打ちはするが高延性材（SRF100W45）の増打ちは行わない



一般事項

○適用基準 設計図書に記載のない事項は「木造SRF工法設計マニュアル」及び「木造SRF工法施工マニュアル」に準拠すること。

○施工者 SRF壁補強工法講習会を受講者によること。

○使用材料

種別	品名	材質	厚さ	幅	適用
高延性材	SRF100W45	ポリエステル	0.9mm	45.0mm	○
接着剤	SRF30	ウレタン系	—	—	○

○注意点

- ①施工面がぬれている場合は施工しないこと。
- ②施工時の現場環境が5°以下の場合は施工しないこと。
- ③高延性材は施工後に日光が当たる場合及び水がかかる場合は、耐光・耐水の被覆を行うこと。

施工要領

1. 材料の搬入及び保管
使用材料は、搬入時に材料の品番、数量、及び、品質を確認する。
2. 仕上げの撤去
補強部位の外装材または内装材等の仕上げを撤去する。補強する部位（柱・梁・土台）の劣化状況を確認し、著しい劣化が認められた場合は部材の交換を行う。
3. 補強箇所の架構の確認
柱頭・柱脚の接合部状況を確認し、設計図書の使用に応じて適切な補強を行う。梁の継手の有無、受材、間柱等の仕様を確認し、条件に合致しない場合は監理者の指示を仰ぎ、部材の交換等の処理を施すこと。
4. 構造用合板の設置・釘打ち
構造用合板を釘打ちにより設置する。設置方法は通常の在来工法と同様に「告示1100号」に従ってN50@150mm以下にて釘打ちする。
真壁工法の場合は受材を、N75@75mm以下にて釘打ちし、設けること。
5. 接着剤塗布面の確認
接着剤を塗布する前に構造用合板が所定の釘打ち間隔にて確実にとめられているかを確認すること。土、油、埃等の汚れが付着している場合は、ウェス等にて除去する。
6. 高延性材貼付の準備
構造用合板の紙片の釘打内部に各辺から45mmのところを高延性材の接着範囲をマーキングする。マーキング後、補強長さを測定し、測定した寸法に合わせて高延性材を切断する。

7. 接着剤の塗布

高延性材の接着範囲に接着剤を塗布する。塗布量は800g/m²以上(膜厚0.5mm程度)を基本とし、櫛目ヘラを用いて均一に塗布する。
1回の塗布範囲は接着剤の活化時間内に高延性材が貼付完了できる範囲とすること。接着剤の活化時間は3時間以内とする。高延性材の貼り付けは接着剤塗布直後より可能である。施工後、接着剤を保管する際、養生テープ等にて養生し、封をすること。

8. 高延性材の施工

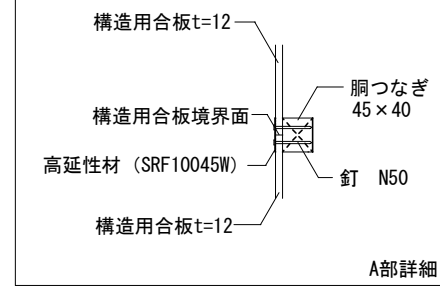
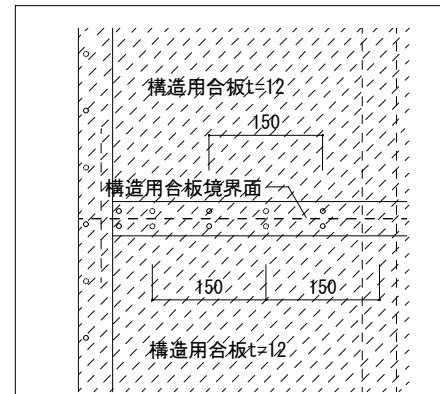
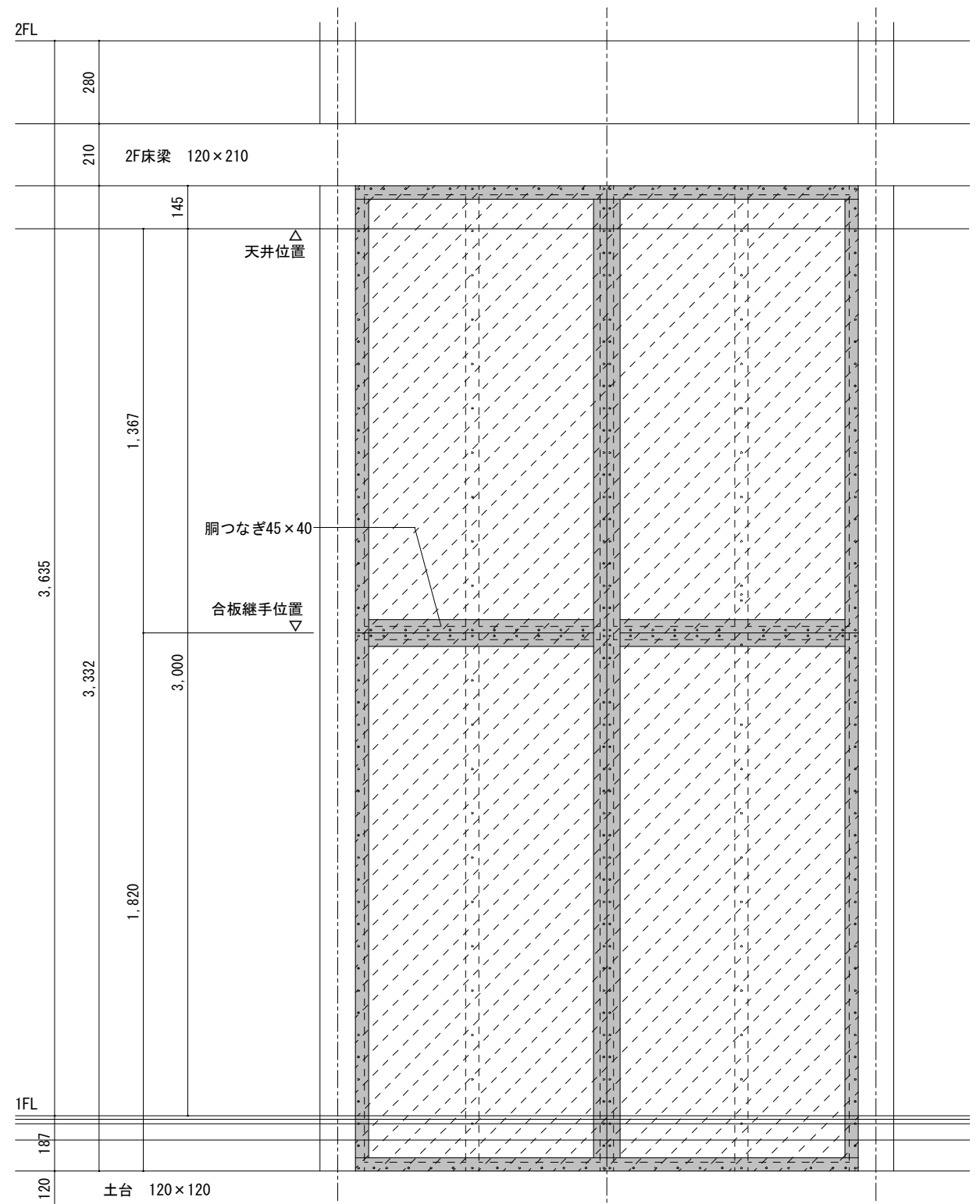
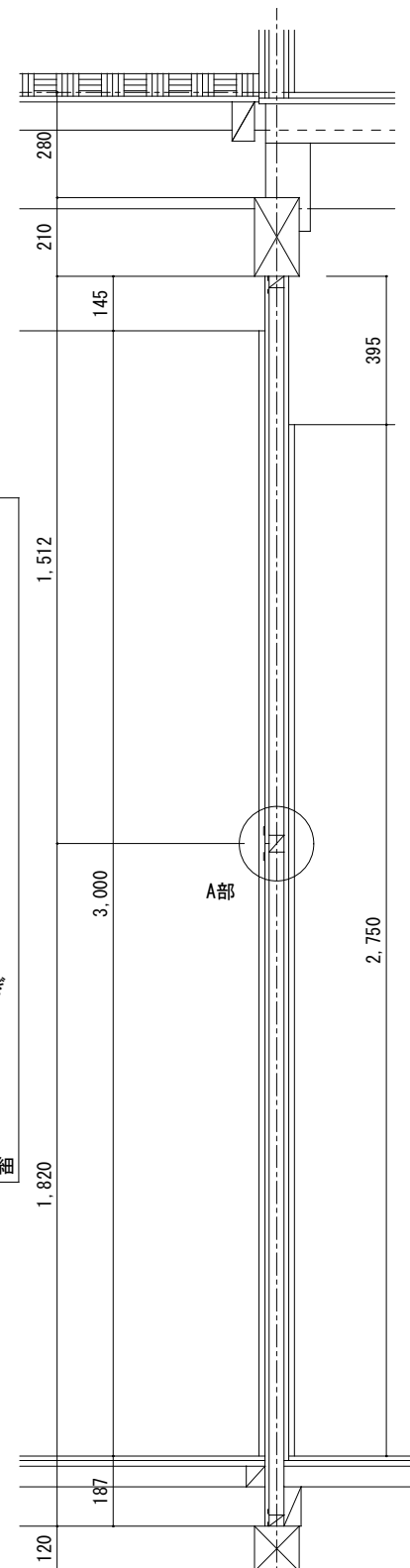
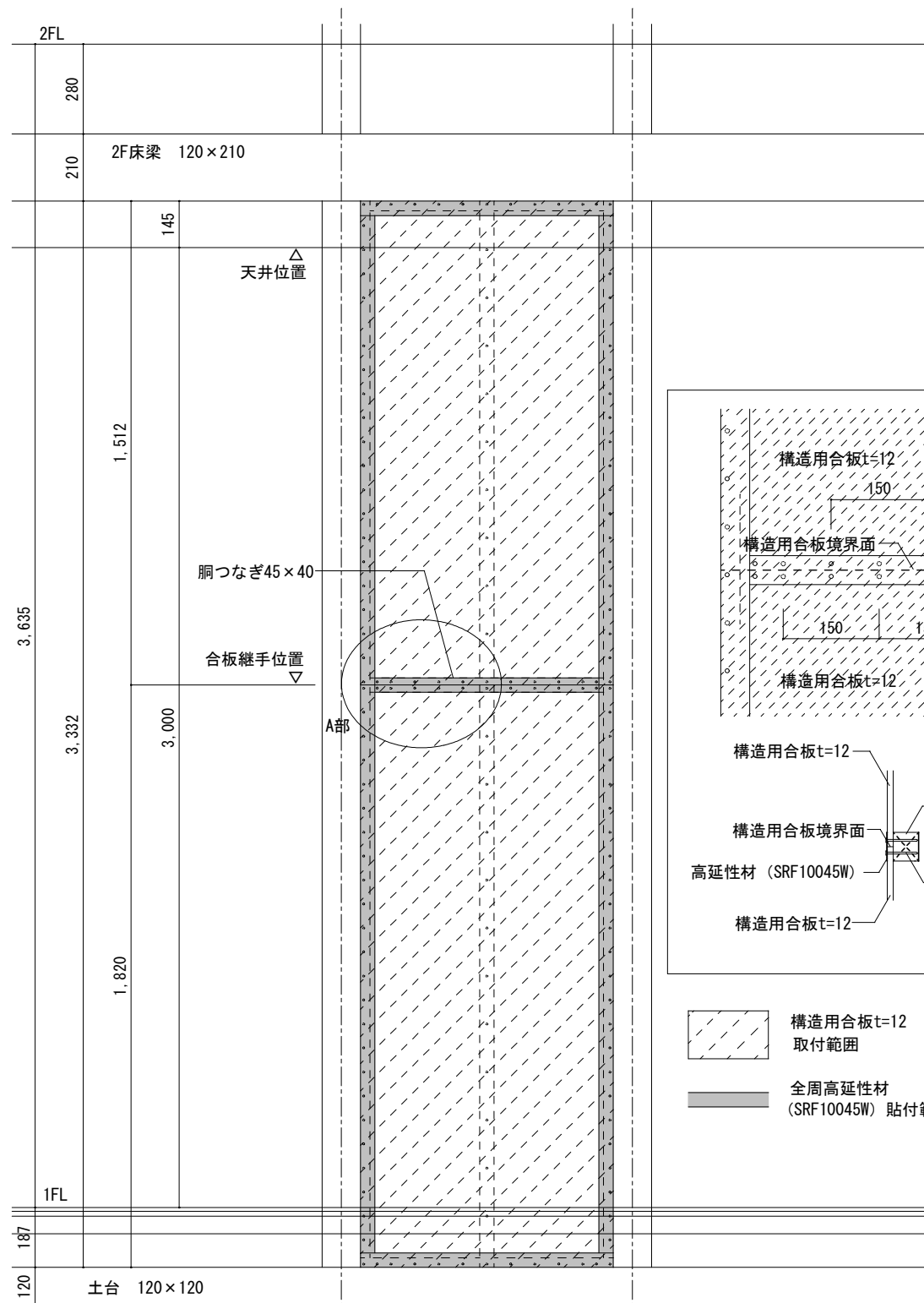
高延性材は、貼り始め部から片押しで部材表面に貼り付ける。その際、区延性材がたるむことのないように貼り付ける。四隅で高延性材が重なる部分には、接着剤を塗布し、高延性材を重ねて貼り付ける。
高延性材と構造用合板がよく接着するようにローラー等を用いて、接着剤をよく馴染ませ、触診にて密着していることを確認する。
貼付後、接着剤が硬化するまで（3時間程度）、振動等を与えないように養生する。

9. 釘の増し打ち

高延性材の上から、釘N50@150mm以下にて増し打ちする。釘打ち方法は「告示1100号」に従う。ただし、構造用合板に直接釘打ちした釘と増し打ちした釘の間隔が75mm以下となるように、予め釘位置の墨出しを行う等の処理を行っておくこと。
なお、接着剤硬化後に釘打ちを行う場合は、磁石にて高延性材下の釘位置は確認できる。

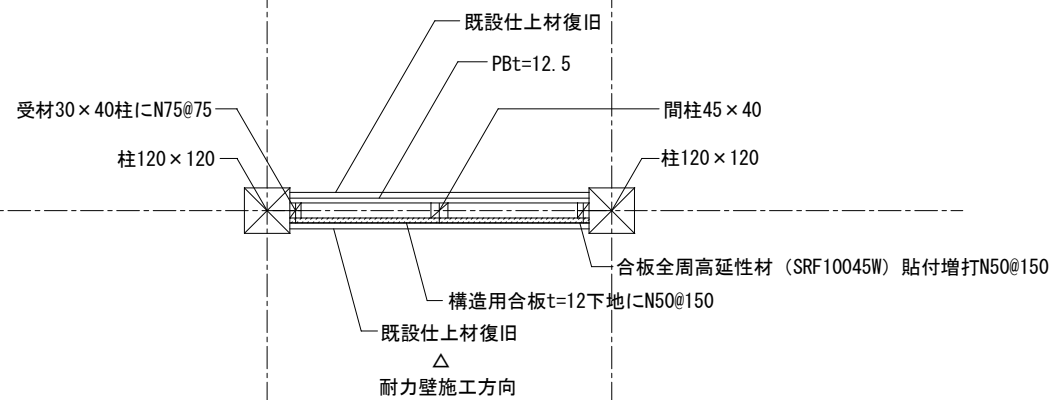
10. 仕上げ材の復旧

仕上げ材を復旧する。復旧については、在来工法と同様の手法でよい。

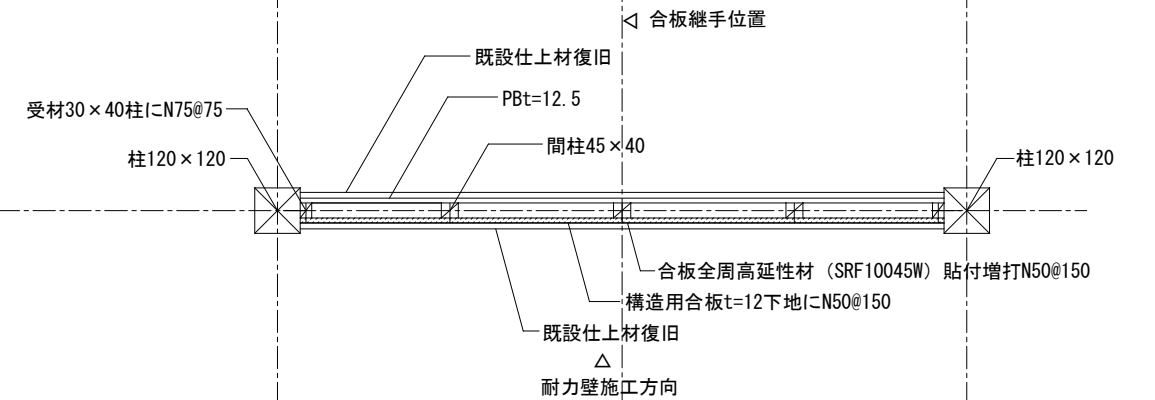


構造用合板 t=12 取付範囲
 全周高延性材 (SRF10045W) 貼付範囲

1Pタイプ

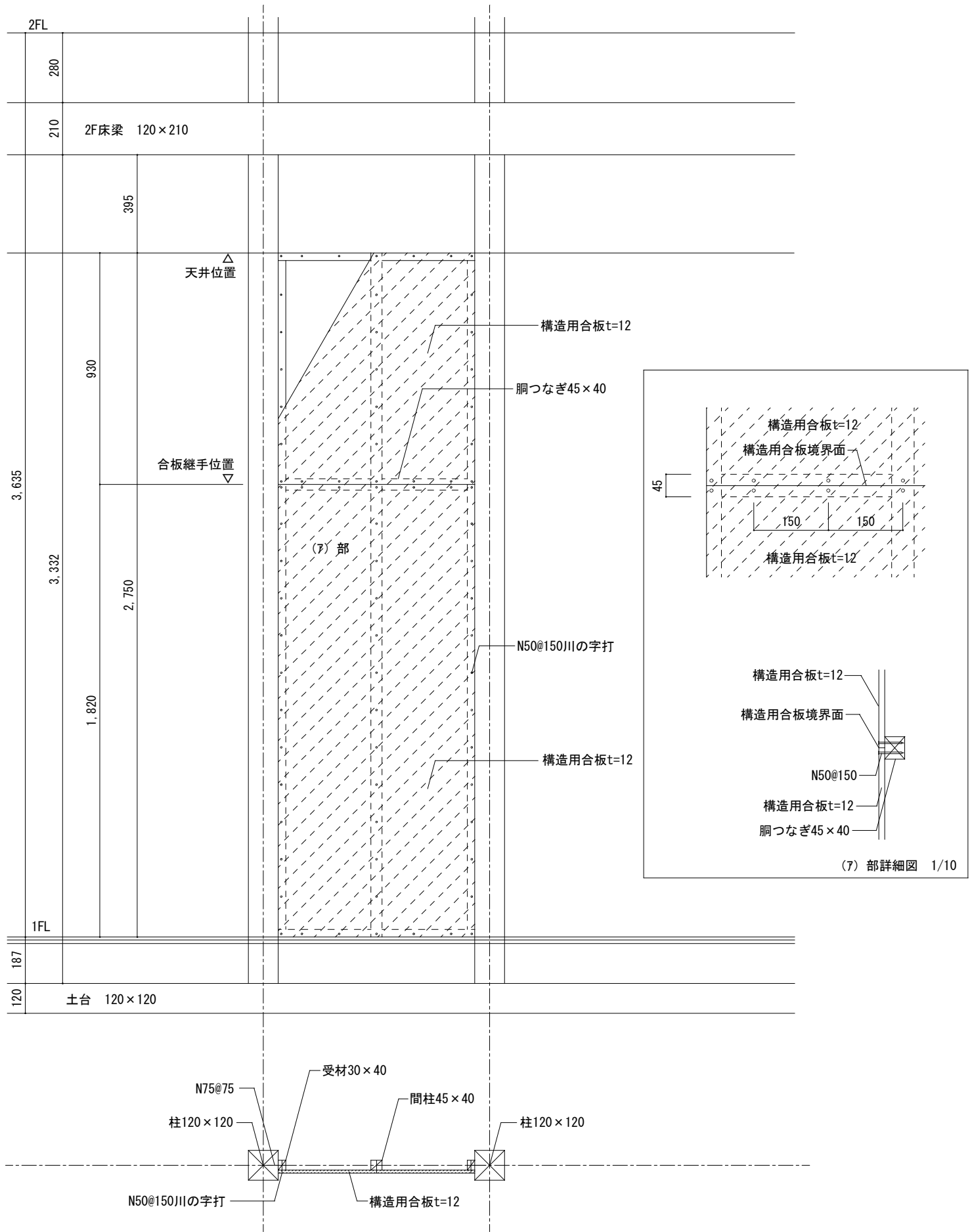


2Pタイプ

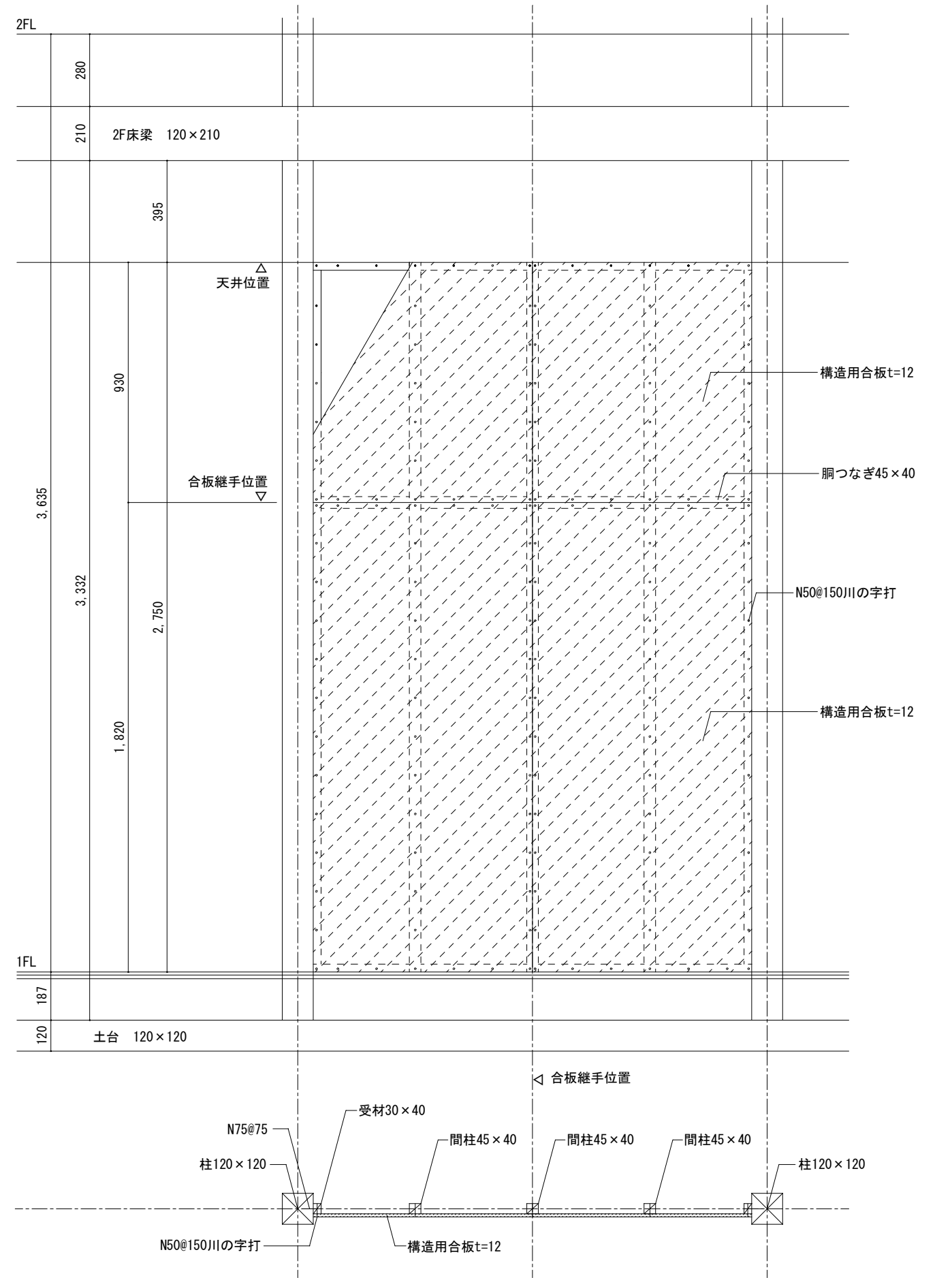


※各寸法は場所によって異なる。

1Pタイプ



2Pタイプ



永山記念公園基本設計

旧永山武四郎邸・三菱鉱業寮工事

並木を整える

公園内のイチヨウ並木、サッポロファクトリーとの間のサクラ並木は、樹木の間隔を広げるための間引きや、並木の成長を妨げる樹木を取り除くなど、大きく形の整った並木にすることを旨とする。

サクラの枝葉を広げる

育ちの悪い樹木を間引いて、健全にサクラが育つようにする。

広場のバリアフリー化

人の往来が多いこの広場は、段差をなくし、車椅子やベビーカーでも移動しやすくなるようにする。

トイレの建替え

老朽化したトイレは建替える予定。

北2条通沿いの樹木

見通しの悪さ・暗さの問題を改善するため、間引きやせん定を行う。

北3条通沿いの樹木

開拓時代の木を残しつつ、見通しの悪さ・暗さの問題を改善するため、間引きやせん定を行う。

灰皿の撤去

フェンス

公園として利用できるエリアを広げるため、フェンスの範囲を若干狭くする。全ての出入口は、今までと同様に門扉を設ける。

建物周辺・庭園の歴史を活かす

歴史的建物の保存・活用に支障が生じないように樹木の管理を行う。また、庭園の樹木は庭木としてふさわしい樹木を生かし、樹形を整える等の管理も行う。

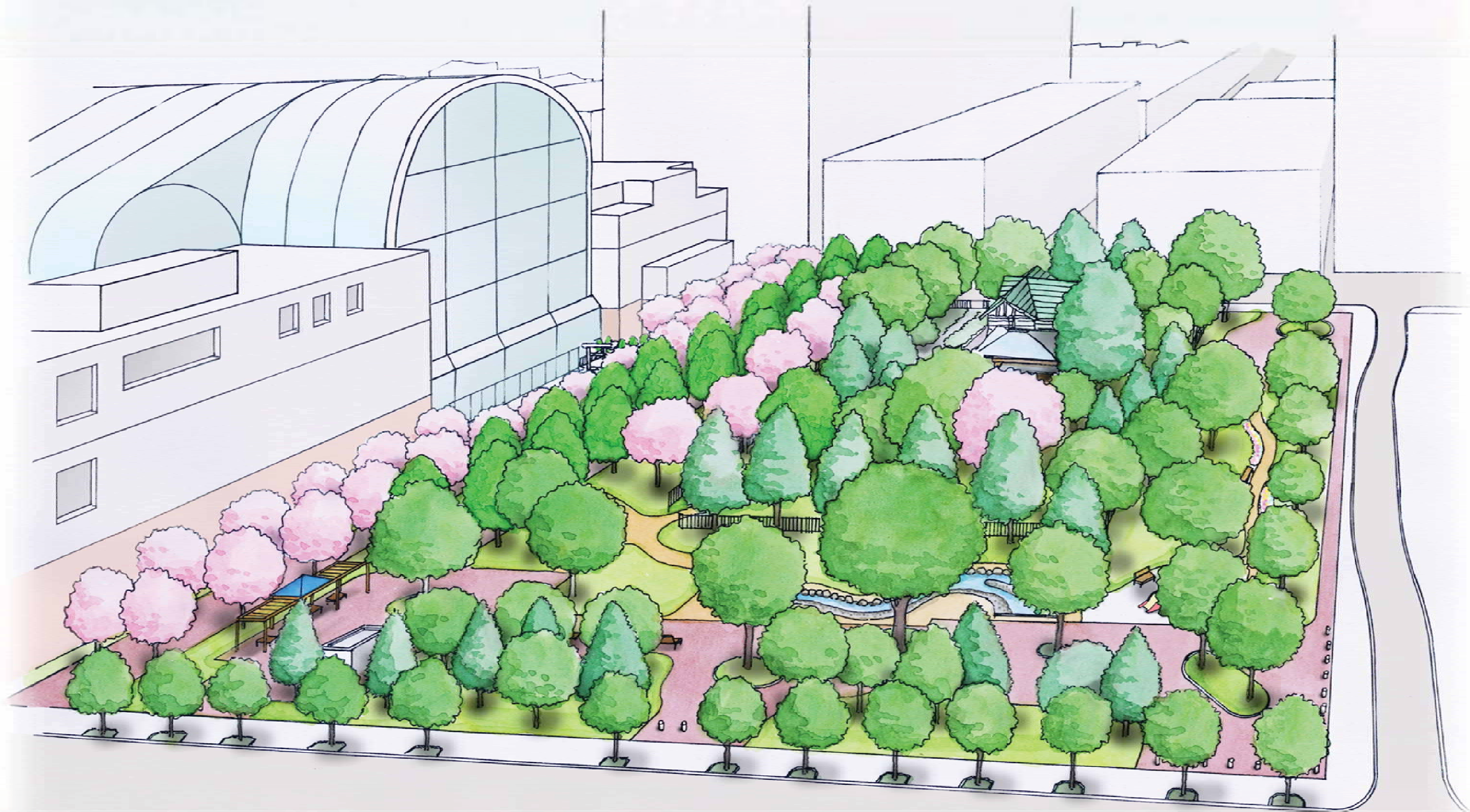
遊具コーナーの新設

子育て世代が多い地域であり、要望が多かった遊具を設置する。なお、遊具の選定は、周辺の公園にはない幼児向けのものとし、色やデザインは景観に配慮する。

水遊び場と周辺の改修

歩行者の通行を妨げることなく、子供たちが安心して遊べる水遊び場をつくり、それに併せてベンチも増設する。また、遊具コーナーとのつながりにも配慮する。





5. 第3回ワークショップでのご意見

今回のワークショップの中で、参加頂いた皆さんの意見を紹介します。(抜粋です)

1. 樹木に関して

- 参：北3条沿いの樹木の扱いは、見通しを良くすることを優先するばかりではなく、オウシュウクロマツなど開拓時代の“歴史”を伝える樹木の生かし方も重要な視点となるのではないかと。
- 市：歴史を活かすことは、公園再整備の基本方針です。開拓時代を偲ばせる樹木は残すように努めます。
- 参：野鳥をはじめ、小動物の隠れ家となるササを残すのは賛成だが、「なぜ残すのか」、「どんな生き物が来るのか」など、残す理由が分からないと「邪魔な草」となり、いずれ無くなる。ササの役割が分かるような解説看板が必要ではないかと。
- 市：解説するサイン類に関しては、これから考えていきたい。また、今後もこうした助言を頂けるような体制づくりも考えます。



意見交換の様子



出された意見交換は全てメモに記載

2. 園路広場

- 参：フェンスや園路の曲がり角の部分は、つまずいたりしないよう角がないようにしてほしい。
- 参：園路の舗装材の考え方についてどのように考えているか。
- 市：現時点のイメージとしては、公園の雰囲気に合わせて広場はレンガ調、園路部はバリアフリーの観点から車椅子等での移動がしやすい硬い舗装材とし、色調は自然の土に近いものと考えています。また、場所によって、間引いた樹木を再利用したチップ状のものを敷き均すことも検討します。
- 参：北2条の歩道沿いは、春先、公園の盛土との境に雪融け水が溜って歩けない状態になる。
- 市：再整備に併せて、排水施設が十分に機能するような設計にする。

3. 施設

- 参：子供が拾った枝で、自由に土に絵が描けるようにしてほしい。砂場があればそんな遊びもできる。
- 参：砂場は、ペットの糞などで汚され、不衛生になるので置かない方がよい。
- 参：ドッグランを作って、ペット専用のエリアと分けてはどうか。
- 市：ドッグランを設置するには、管理・運営・安全対策も含めた体制づくりや経費の面で問題が多く、札幌市では公園に設置しない方針です。絵を描く遊びができるような場づくりについても検討いたします。
- 参：親の視界に遊んでいる子供が入るよう、遊具はあまり分散しない方がよい。 参：参加者
- 市：水遊び場とのつながりも含めて、遊具が分散することのないようにします。 市：市中央区土木部

6. 公園サポーターの募集(予告) 「身近な公園づくりに参加しませんか？」

永山記念公園が、皆さんから頂いたご意見をもとに再整備されますが、計画づくりだけではなく、実際の公園づくりに参加してみませんか？

札幌の市街地にある緑豊かなこの公園の中で、花を育てたり、小枝を使ってクラフトを作ったり、木や花の観察会などを通じて、もっと永山記念公園の魅力を知り、そんな活動の中から新しい公園利用のアイデアを出して頂き、実際の公園再整備にも生かしていきたいと考えております。

現在、市中央区土木部では、こうした参加型の公園イベントの準備を進めておりますが、今後、公園内の掲示板、町内会やマンションの回覧板等を通じて希望者を募りますので、関心のある方は、ぜひご参加ください。



参考写真1: 花壇づくり



参考写真2: 樹名板づくり

■お問い合わせ

札幌市中央区土木部維持管理課公園緑化係 担当：吉野、平野 電話 614-5800

札幌市中央区土木部からのお知らせ

「永山記念公園」の施設や樹木の見直しに向けて

歴史的な財産である旧永山武四郎邸を中心に整備された「永山記念公園」ですが、開園から25年以上が経ち、近年、創成東地区の人口が開園当時と比べて増加していること、公園施設の老朽化が進んでいること、そして園内の樹木が混み合ってきていることなどから、公園の見直しが必要となってきています。

そこで今後の公園のあり方について、地域の皆さんのご意見をうかがいながら、公園再整備に向けた検討を行ってまいりました。



1. 第3回ワークショップの報告会

「公園の将来像を報告します」を行いました！

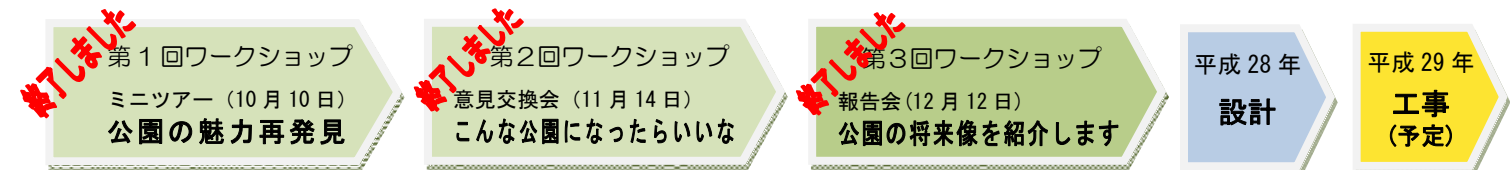
12月12日土曜日、市内にお住まいの22名(大人21名・子供1名)の方にご参加頂き、第3回目の永山記念公園再整備のワークショップを開催しました。

当日は、これまで行ってきた利用者アンケートや、ワークショップでの意見交換の結果をもとに作成した永山記念公園の将来像について説明をし、今後、どのように再整備をするか、完成後どうやって公園の樹木を管理していくのか、そして将来的にどんな公園を目指すのかを皆さんにご報告し、その内容に関するご感想やご意見をうかがいました。

2. 全てのワークショップは終了しました

永山記念公園の再整備について、全3回のワークショップをこれまで開催してきました。今後は工事に向けた調査・設計に着手し、平成30年の公園完成を目指してまいります。

ご参加頂いた皆さま、ありがとうございました。



永山記念公園の位置



ワークショップの様子

3. 今後の予定会

永山記念公園の再整備に向けたワークショップは終了しましたが、公園の工事は平成29年頃とまだ先になります。そこで、永山記念公園の魅力を活かせる公園にするために、来年度以降も地域の皆さんとの情報交換やイベント等、様々な交流の場をつくる予定をしております。詳しくは裏面「6.公園サポーターの募集」をご覧ください。

裏面・見開き紙面もご覧ください

4. 第3回ワークショップの内容

『永山記念公園』の将来像について

ワークショップ前半は、前回のおさらいとして公園再整備のテーマ、設計の方針等について確認をしました。次に、各エリアの具体的な整備内要、樹木の管理方針について説明をしました。

1)公園再整備のテーマ 『今の風景を残し、機能を見直す』

今ある緑を生かしつつ、老朽化した施設の修繕や、地域からの要望が高かった遊びの機能などを織り込んでいきます。

2)誰もが使いやすく、移動しやすく

歩行者・車椅子など、誰もが園内を移動しやすくなるよう、歩道の拡幅や段差解消等、園内のバリアフリー化を進めます。

3)安全で元気な樹木を維持するために

公園内にある樹木は、札幌の開拓時代に植えられたもの、25年前の公園整備に植えられたものなど、時代により生育状況が異なります。また、庭園や並木、憩いの場や散策の場の演出など、植えた目的も様々です。そこで、「安全」、「目的」、「将来」といった視点からそれぞれの樹木のあり方を整理し、樹木医等の専門家に助言を頂きながら緑豊かな公園づくりを目指します。

■安全を確保する

倒木や枝の落下など、危険性の高い樹木は取り除きます。
※枯死・枯損・斜木のせん定・伐採等

■目的から判断する

庭園・並木・木陰づくりなど、その場所の目的に相応しい樹木の形や密度となるように管理します。
※混み合った樹木の間引き・庭園木の刈り込み等

■将来を見据える

健全な生長が見込める樹木か、また、将来的に問題を生じることがない樹木かを判断し、必要に応じた対策を行います。
※被圧や病気で衰えた樹木・越境木・実生苗等のせん定・伐採等

サクラの枝葉を広げる会

育ちの悪い樹木を間引いて、立派なサクラが育つようにします。



広場のバリアフリー化会

人の往来が多いこの広場は、段差をなくし、車椅子やベビーカーでも移動しやすくなるようにします。



並木を整える会

公園内のイチヨウ並木、サッポロファクトリーとの間のサクラ並木は、樹木の間隔を広げるための間引きや、並木の成長を妨げる樹木を取り除くなど、大きく形の整った並木にすることを目標とします。

建物周辺と庭園は歴史を活かす

歴史的建物の保存・活用に支障が生じないよう樹木の管理を行います。また、庭園の樹木は庭木としてふさわしい樹木を生かし、樹形を整える等の管理もします。

北3条通沿いの樹木会

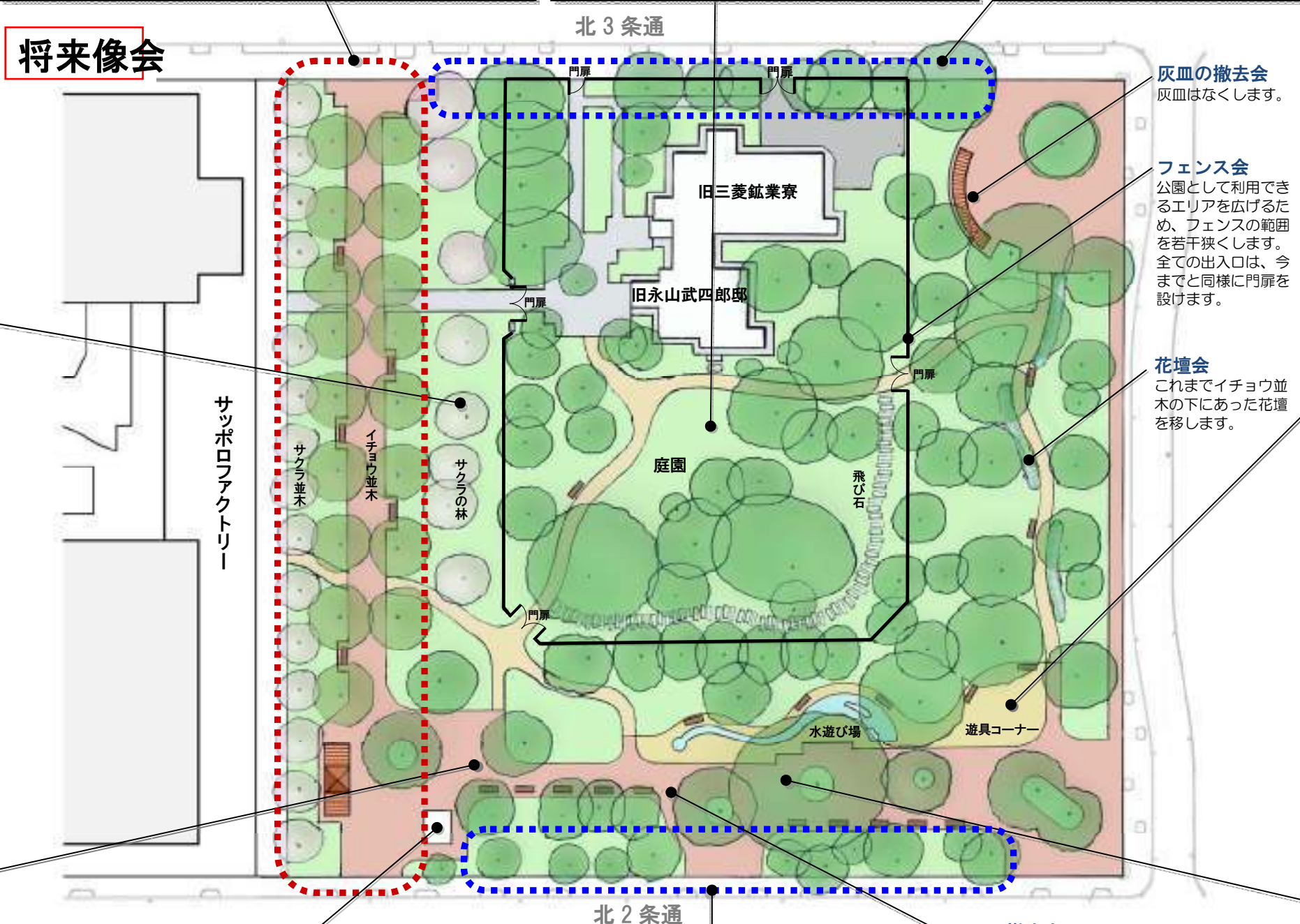
開拓時代の木を残しつつ、見通しの悪さ・暗さの問題を改善するため、間引きやせん定を行います。

遊具コーナーの新設会

子育て世代が多い地域であり、要望が多かった遊具を設置します。なお、遊具の選定は、周辺の公園にはない幼児向けのものとし、色やデザインは景観に配慮します。



将来像会



灰皿の撤去会
灰皿はなくします。

フェンス会
公園として利用できるエリアを広げるため、フェンスの範囲を若干狭くします。全ての出入口は、今までと同様に門扉を設けます。

花壇会
これまでイチヨウ並木の下にあった花壇を移します。

灰皿の撤去会
灰皿はなくします。

トイレの建替え会

老朽化したトイレは建替えの予定です。

北2条通沿いの樹木会

見通しの悪さ・暗さの問題を改善するため、間引きやせん定を行います。

憩いの場・水遊び場の改修会

歩行者の通行を妨げることなく、子供たちが安心して遊べる水遊び場をつくり、それに併せてベンチも増設します。また、遊具コーナーとのつながりにも配慮します。

